

# 社会学教育の グローバル・スタンダードとは？

---

—英語圏の教科書の分析—

2019年3月

日本社会学会社会学教育委員会  
(2016～2018年)

## 目次

|  |               |
|--|---------------|
| 第1章 社会学教育のグローバル・スタンダードを求めて   |               |
| 1. 本報告書の背景と目的  | 松本 康……………1    |
| 2. 教科書の選定方法  | 石井クンツ昌子…3     |
| 3. 報告書の構成  | 松本 康……………4    |
| 第2章 英語圏社会学教科書の検討   |               |
| 1. Andersen, M. L. & Taylor, H. F. <i>Sociology the Essentials</i>                         | 石井クンツ昌子…6     |
| 2. Ballantine, J. H., Roberts, K. A., & Korgen, K. O. <i>Our Social World</i>              | 今井 順……………8    |
| 3. Conley, D. <i>You May Ask Yourself: An Introduction to Thinking Like a Sociologist</i>  | 松本 康……………11   |
| 4. Giddens, A., Duneier, M., Appelbaum, R. P., & Carr, D. <i>Introduction to Sociology</i> | 宮坂 靖子……………13  |
| 5. Giddens, A., & Sutton, P. W. <i>Sociology</i>   | 眞鍋 知子……………16  |
| 6. Henlin, J. M. <i>Essentials of Sociology: A Down-To-Earth Approach</i>                  | 西村 純子……………18  |
| 7. Kornblum, W. <i>Sociology in a Changing World</i>                                       | 白鳥 義彦……………20  |
| 8. Macionis, J. J. <i>Sociology</i>  | 松本 康……………23   |
| 9. Schaefer, R. T. <i>Sociology: A Brief Introduction</i>                                  | 高瀬 武典……………25  |
| コラム アメリカの大学における社会学入門教科書の使い方  | 石井クンツ昌子…27    |
| 第3章 比較分析（1）—教科書の章構成  | 松本 康……………30   |
| 第4章 比較分析（2）—キータームの分析   | 松本 康……………51   |
| 第5章 結論   | 松本 康……………75   |
| 巻末資料 9つの教科書から抽出されたキーターム 1712項目と言及数一覧   | ……………76       |
| 編集後記   | 西村 純子……………111 |

## 第1章 社会学教育のグローバル・スタンダードを求めて

### 1. 本報告書の背景と目的

中央教育審議会が2008年の答申「学士課程教育の構築に向けて」において「学士力」の明確化を求めたことが発端となって、大学教育の分野別質保証が議論的となり、質保証の枠組として、分野別の教育課程編成上の参照基準が作成されることになった。とくに人文・社会系は、教育課程が十分に体系化されておらず、学士号がどのような能力を保証するものであるかが明確になっていない。これでは国際的に通用しないということから、教育課程編成上の参照基準の作成が求められたのである。

社会学分野においても、2014年に「参照基準」が策定された。これはあくまで学位プログラムを編成するにあたっての参照基準であり、必ずしも「社会学」というひとつの科目に求められる基準ではない。むしろ、それは学士（社会学）がいかなる能力を示すものであるか、その能力を保証する教育課程とはいかなるものであるかを示す基準である。もちろん、そこには、社会学の教育課程において教えるべき社会学の基本的な知識とはなにかに関する記述も含まれている。それは必ずしも社会学の教科書が満たすべき基準を示すものではないとはいえ、かりに標準的な教科書なるものがあるとすれば、それは参照基準が示す社会学の基本的な知識をほぼ網羅すべきであると受け取られても不思議ではない。しかし、ここに問題がある。参照基準は、国際通用性のある社会学教育とはどのようなものであるかを十分に検討した結果生まれてきたものではない。それどころか、社会学教育におけるグローバル・スタンダードとはなにかという問いは、まだ十分に探求されていないのである。

そこで本報告書では、社会学教育におけるグローバル・スタンダードとはなにかという問いに答えるために、英語圏の入門的な社会学の教科書を分析することとした。もちろん、教科書の記述は、教育のすべての側面を示すものではない。教育方法や授業形態などの側面は、教科書の記述だけからは明らかにならない。しかし、教科書の記述は、社会学教育の根幹をなす社会学の基礎的な知識と理解がいかなるものであるのかを示してくれている。したがって、「社会学101」で使用することを想定した英語圏の主要な教科書を複数選んで、そこに共通性を見いだすことができれば、おそらくそれはデファクト・スタンダードとして捉えることが可能であろう。逆に、共通性を見いだすことが困難であれば、そのようなスタンダードはないということになる。本報告書では、英語圏の主要な教科書9冊を選ん

で、章構成とキータームについて分析をした。その結果、少なくとも米国において使用されている主要な教科書には、章構成にある種の共通のパターン——構造・機能分析をベースとしたパターン——があることを発見した。また、これらの教科書は、1冊平均約390項目、9冊合計で約3,500項目のキータームを指定しているが、重複を除くとキータームの数は1,712項目となり、そのうち約200項目は、半数以上の教科書で言及されていた。言及数が多ければ多いほど、そのキータームは、教育上の重要性が高いと考えてよいであろう。

米国の教科書には、それぞれ特徴はあるものの、大まかなスタンダードが見いだされる。そのスタンダードは、だれかが決めたというよりは、版を重ねるなかで事実上収斂してきたものであって、その意味でデファクト・スタンダードであると考えられる。もちろんこのスタンダードは、今後の社会学の発展によって変わるかもしれない。その変化が、スタンダードを解消して多様化に向かうのか、それとも新たなスタンダードへと進化していくのかはわからない。

また、米国のスタンダードが、グローバル・スタンダードといえるかどうかはわからない。しかし、この点に関しては、20世紀の後半以降、米国で社会学教育が急速に発展したこと、米国では大学の大衆化が最も速く進み、そのため大学教育のさまざまな手法——GPA、シラバスの書式、科目ナンバリング、オフィスアワー制度など——が開発され、国際的に普及してきていること、少なくとも日本においてはしばしば米国の大学教育の経験が参照され導入されていることなどから、米国のスタンダードがグローバル・スタンダードになりうるものと考えてよい。このことは、国により地域により、バリエーションがあることを排除するものではない。たとえば、英国での使用が想定されている Giddens and Sutton (2017) ——われわれのサンプルのなかで最も特異なもの——では、章ごとに、一般的な社会学のトピックとともに、英国における例が付け加えられている。それは、米国の教科書が一定のスタンダードのもとで教科書によってバリエーションがあるのと同じように、国により地域により一定のスタンダードのもとでのバリエーションがありうることを示唆している。

国際通用性のある社会学教育とは、どの国で学んでも、社会学は社会学であるということである。国によりスタンダードが異なるのではなく、グローバル・スタンダードのもとで、国により地域によって、そしてもちろん教科書によって、バリエーションがあるというのが、望ましい姿であろう。そしてそのスタンダードは、あくまでもデファクト・スタンダードとして、社会学の発展とともに移り変わっていくものと思われる。

本報告書では、日本の教科書との比較にはあえて踏み込まなかった。しかし、相違点は明白であり、それをどう捉えるかは読者に委ねたい。本報告書での分析結果が今後の社会学教育の参考になれば幸いである。

(松本 康)

## 2. 教科書の選定方法

本分析で対象とした教科書の選定作業は2017年3月の社会学教育委員会で行なった。全米社会学会(American Sociological Association, ASA)の理事会が2001年に設置したTask Forceが推奨しているリスト(ASA 2001)と本委員会の委員あるいは所属大学の他の教員が活用している教科書をもとに選定した。その際、Readingのみのテキストは除外し、社会学全体をカバーしているintroductoryな教科書を選ぶことにした。

ASAのTask Forceの目的の一つは大学の入門レベルと高校のアドバンスレベルの社会学のカリキュラムを作成することである。教科書の選定はこの目的の中に含まれる。二つ目の目的はWEB上で社会学を学修する多様な手段(アクティブ・ラーニング、シミュレーション、フィルム画像など)を提供することである。また、このTask Forceの活動はアメリカ国立科学財団(National Science Foundation, NSF)とASAが助成しており、代表者はニューヨーク大学社会学部のCaroline H. Persell教授であった。

教科書の選定は上記のTask Force活動の一部であるが、そのプロセスは以下である。

1. ASA Task Forceメンバーが様々なレスンプラン、フィルム、教科書などについての評価をした。
2. Task Forceメンバー以外からも推薦してもらった。
3. 100を超える資料について、Task Force代表者とニューヨーク大学の学部生が評価をした。

また、評価の基準としては以下があげられている。

1. 社会学のトピックとして、重要かつ関連深い概念に関して、どの程度記されているか。
2. アクティブ・ラーニングについて触れられているか。
3. 学修の目的が達成可能かの評価があるか。
4. 学生の生活に密着した内容か。
5. テキストのみではなく、番号、ビジュアル、音声、ビデオなど学生の多様な感覚を刺激する内容になっているか。

6. 学生にとって興味深い内容か。
7. WEBの資源が使いやすくなっているか。
8. 面白い内容か。

上記のプロセスと基準に基づいてニューヨーク大学の Paul DiMaggio 教授がまとめ、Caroline Persell 教授がアップデートした教科書が “Selected College Sociology Textbooks” (2009)に掲載されている。

このASAのリストからそのまま採用したのは入手可能な Andersen & Taylor, Ballantine et al., Conley, Giddens et al., Henslin, Kornblum, Schaefer の7点である。Macionis & Plummer (Pearson, UK で出版された) は以前から本委員会の松本委員長が使っていた Macionis(Pearson US)に差し替え、眞鍋委員が Giddens & Sutton を使っていることから採用した。よって、ASA リスト上にある7冊の教科書に加えて2冊を選定し、計9冊の教科書を各委員が分担してレビュー・分析した。また、各教科書においては可能な限り最新版を選び分析を行なった。

(石井クンツ昌子)

### 3. 報告書の構成

本報告書は、大きく3つの部分に分かれている。まず第2章では、選定された9冊の教科書の概要と特徴を呈示する。これは、それぞれの教科書が、それなりの特徴をもち、一定のバリエーションがあることを示すためである。次に第3章で、各教科書の章構成から、共通のパターンを抽出する。9つの教科書は、15～22の章によって構成されている。そのうち5冊は各章を5部にまとめており、1冊は3部にまとめている。これらの部を準拠としてみると、部に分かれていない残り3つの教科書も類似の構成をとっていることがわかる。このことから、残余群を除くと、章構成は大きく5群、30トピックからなることが見いだされる。この分析によって、各教科書の共通点と揺らぎの部分が明らかとなる。さらに第4章では、各教科書が指定しているキータームを分析する。各教科書は、平均して約400のキータームを指定しており、総計約3500のキーターム(重複を含む)が抽出された。一定のルールにもとづいて重複を除くと、その数は1,712であった。この1,712項目を言及数(重複数)によってランクづけ、重要度を示した。また、過半数(5以上)の教科書が言及しているキーターム203項目について、30のトピック別に分類し、どのトピックにどのようなキータームが配置されているかを示している。多くの教科書は、これらの概念を

中核に、約 200 のキータームを独自に追加していることになる。

第 5 章では結論として分析結果をあらためて要約した。なお、巻末に参考資料として 9 つの教科書から抽出されたキーターム 1712 項目と言及数を示した一覧表が掲載されている。

(松本 康)

#### 参考文献

American Sociological Association. 2001. Rationale for the Site.

<http://www.asanet.org/sites/default/files/savvy/introtosociology/Documents/Rationale%20for%20the%20Site031708.htm> (2018 年 8 月 22 日)

Andersen, Margaret and Howard Taylor, 2016. *Sociology: The Essentials*. 9th edition. Cengage Learning.

Ballantine, Jeanne H., Keith A. Roberts, and Kathleen Odell Korgen. 2018. *Our Social World: Introduction to Sociology*. 6th edition. Sage.

Conley, Dalton. 2015. *You May Ask Yourself: An Introduction to Thinking Like a Sociologist*. 4th edition. W. W. Norton.

DiMaggio, P. and Persell, C. 2009. "Selected College Sociology Textbooks."

<http://www.asanet.org/sites/default/files/savvy/introtosociology/Documents/Textbook%20Lists.html> (2018 年 8 月 22 日)

Giddens, Anthony, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum, and Deborah Carr. 2016. *Introduction to Sociology*. 10th edition. W.W. Norton.

Giddens, Anthony and Philip W. Sutton. 2017. *Sociology*. 8th edition. Polity.

Henslin, James M. 2017. *Essentials of Sociology: A Down-To-Earth Approach*. 12th edition. Pearson.

Kornblum, William in collaboration with Carolyn D. Smith. 2012. *Sociology in a Changing World*. 9th edition. Wadsworth.

Macionis, John J. 2014. *Sociology*. 15th edition. Peason.

Schaefer, Richard T. 2015. *Sociology: A Brief Introduction*. 11th edition. McGraw-Hill.

## 第 2 章 英語圏社会学教科書の検討

1. Andersen, Margaret L. and Howard F. Taylor, *Sociology the Essentials*, 9th edition, Cengage Learning, 2016.

今回対象とした Andersen & Taylor (2016)は第 9 版であり、初版は 2001 年に出版されている。社会学の基本概念を網羅していて大変読みやすく書かれた教科書であり、以下のよ  
うに 5 部 16 章で構成されている。

| Part  | Chapter |  |
|---|---------|--|
| 1. Introducing the Sociological Imagination | 1       | The Sociological Perspective               |
|   | 2       | Culture                                    |
| 2. Studying Society and Social Structure    | 3       | Doing Sociological Research                |
|   | 4       | Socialization and the Life Course          |
|   | 5       | Social Structure and Social Interaction    |
|   | 6       | Groups and Organizations                   |
|   | 7       | Deviance and Crime                         |
| 3. Social Inequalities                      | 8       | Social Class and Social Stratification     |
|   | 9       | Global Stratification                      |
|   | 10      | Race and Ethnicity                         |
|   | 11      | Gender                                     |
| 4. Social Institutions                      | 12      | Sexuality                                  |
|   | 13      | Families and Religion                      |
|   | 14      | Education and Health Care                  |
| 5. Social Change                            | 15      | Economy and Politics                       |
|   | 16      | Environment, Population, and Social Change |

入門レベルの社会学教科書としては論理的な構成である。第 1 章では社会学とはどのような学問かについて多くの具体例を提示しながら説明している。また、この章では社会学の「古典的」な理論（機能主義、コンフリクト、シンボリック相互作用論）とフェミニスト理論について述べているが、各理論の説明自体は少々不足気味である。しかし、入門レベルの学生にとっては上記の基本的な社会学理論の修得で十分かもしれない。第 2 部の第 2 章から 7 章までの社会構造に関する部分では、文化やライフコースから非行・犯罪までを含んでいる。一見して社会構造と直接関連のない章も含んでいるようにも思えるが、読み進めるうちに、これらのトピックと社会構造の関係が自然と理解できるように書かれていることは評価できるだろう。また、第 3 章の社会学の研究手法については「文化」に関する章の後に含まれているが、文化と社会の違いについて理解した上で研究方法について学



ぶという順番にした筆者の意図が理解できる。第 3 部では社会的不平等に関する章が並んでいるが、社会階層から始まり、ジェンダーやセクシュアリティに至るまでの概念に関連した不平等がわかりやすく論じられている。第 4 部では社会の中の institutions について触れているが、全ての社会的な機関を網羅していないことがまず気になった点である。また、各章ではひとつ以上の institutions (第 13 章では家族と宗教、14 章では教育とヘルスケア、15 章では経済と政治) についてカバーしているために、かなり「忙しい」感じがする章構成になってしまった。また、これらの様々な institutions をまとめた理由がわかりにくい。本書の最終章では環境、人口、社会変動が一気に扱われているが、この章もやや詰めすぎのように感じた。

このように、ひとつのトピックに関してカバーした大変わかりやすい章がある一方で様々なトピックが同じ章で説明されている章もある本書である。とはいえ、入門レベルの学生にとっては、全体的にはかなり理解しやすい教科書であることは間違いないだろう。そして、全体的に本書が読みやすい一番の理由は各章の構成とわかりやすいアプローチにあると思う。具体的には各章の最初の部分には「学ぶ目標」(In this chapter, you will learn to . . .) や「key sociological concepts」が明示されており、最後には内容のサマリーと各章で学んだ主な概念のリストが頁番号とともに記されている。つまり、各章において学修及びその達成目標が明確に示されているので、学生自身が学修内容を確認できるというメリットがある。また、カラフルな多くの写真が掲載されているのでかなりのビジュアル効果があることや、各章の説明に具体例を豊富に含んでいることも読みやすさにつながっている。コラムも多くあり、その中には二人の筆者がなぜ社会学者になったのかについて、育った環境も含めてわかりやすく説明しており、その結果、筆者に対する親近感が増すようになっているのはかなり「アメリカ的」であると言えよう。他の工夫としては、簡単なクイズや、図・表が有効に活用されていることも挙げられるだろう。

当たり前ではあるが、本書の筆者は Black American Studies や Women and Gender Studies の専門家であるために、社会的不平等に関するトピックがやや多いのが特徴である。また、全体的にカバーされている内容のキーワードは「多様性」であり、各章の内容ごとにこのキーワードを意識した記述が頻繁に現れている。巻末には十分な資料が提示されていて、本書の内容に基づいた課題を出す場合には、この資料の部分が十分に活用できるようになっている。

本書は第 9 版なので、ロングセラーの教科書であると言える。学生にとって大変読みや

すい教科書であることがその理由であることは明らかであるが、担当教員にとっても、有効に使える部分が多いことが特徴である。また、本書に含まれている概念やトピックは社会学入門レベルの教科書としては多すぎず少なすぎずというのも利点のひとつであろう。

(石井クンツ昌子)

## 2. Ballantine, Jeanne H., Keith A. Roberts, and Kathleen Odell Korgen, *Our Social World: Introduction to Sociology*, 6th edition, Sage Publications, 2018.

この教科書は、もっとも新しい2018年出版分が第6版となっている。それなりに版を重ねており、教科書市場である程度浸透していることがうかがわれる。5版までは、ペーパーバック版の他にルースリーフ版や縮刷版、e-Book版などが取り揃えられていた。第6版は、2018年8月現在、ペーパーバック版の他にはe-Book版のみが確認できる。また、アマゾンではすでに同書の第7版のページが設定されているが、出版元であるSAGEのホームページでは確認できない。

本書の構成は5部16章となっている。16章構成は、9つの教科書の中ではHenslin (2017)の15章構成に次いで少ない。

| Part  | Chapter   |
|---|---|
| 1.Understanding Our Social World: The Scientific Study of Society | 1 Sociology: A Unique Way to View the World                       |
|   | 2 Examining the Social World: How Do We know?                     |
| 2.Social Structure, Processes, and Control                        | 3 Society and Culture: Hardware and Software of Our Social World  |
|   | 4 Socialization: Becoming Human and Humane                        |
|   | 5 Interaction, Groups, and Organizations: Connections That Work   |
|   | 6 Deviance and Social Control: Sickos, Freaks, and Folks Like Us  |
| 3.Inequality  | 7 Stratification: Rich and Famous--or Rags and Famine?            |
|   | 8 Race and Ethnic Group Stratification: Beyond "Us" and "Them"    |
|   | 9 Gender Stratification: She /He --Who Goes First?                |
| 4.Institutions  | 10 Family: Partner Taking, People Making, and Contract Breaking   |
|   | 11 Education: What Are We Learning?                               |
|   | 12 Religion: The Social Meaning of Sacred Meaning                 |
|   | 13 Politics and Economics: Probing Power, Dissecting Distribution |
| 5.Social Dynamics   | 14 Health Care: An Anatomy of Health and Illness                  |
|   | 15 Population and Urbanization: Living on Planet Earth            |
|   | 16 The Process of Change: We Can Make a Difference!               |

部立て、章立ては、9つの教科書の中でもごく標準的な構成となっている。ただ、いくつか特徴は挙げることができる。他書で不平等の問題として扱われることの多い年齢 (Age) が、健康 (保健) の問題に含まれている。また、やはり章の少ない Andersen & Taylor (2016、

16 章構成) 同様、社会制度を扱う第 4 部で、政治と経済を統合している。集合行動・社会運動といったトピックも独立した章を与えられておらず、技術による社会変動などとともに第 5 部、**Process of Change** という章に収められている。マスメディアも独立した章を与えられていない。不平等を扱う第 4 部、**Gender Stratification** の章で、ジェンダー的社会化のエージェントとして登場する。

その他の教科書にもみられる特徴だが、本書も写真や図表、各種のコラムが効果的に配され、学生の興味関心を刺激するための手数が多し。**Special Features** は **Sociology in Our Social World** と **Sociology Around the World** に分けられ、人種差別と公共空間・ISIS のリクルートメント・肥満のスティグマ化・カトリック教会と政党の関係・健康保険のカナダモデルなど 39 の話題を取り上げ、本文のトピックについて、視野と理解を広げる努力をしている。また、**Public Sociology** を重視し、**Sociologists in Action** というコーナーが設けられている。ここではアカデミアの外で活躍する 17 人の社会学者を紹介している。例えば 21 世紀になっても存在するグローバルな奴隷制度を問題視し、**Free the Slaves** という団体を立ち上げた社会学者の活動などが取り上げられている。社会学が「役立っている」姿を見せている。

本文の記述の最大の特徴は、すべての工夫を学生目線から立ち上げ、社会全体や大きな社会変動とのつながりを意識・実感できるように構成しているところにある。まず、すべての章の扉で、その章で取り上げられるトピックをマイクロ・メゾ・マクロの関連の中で示すカラー概念図が、章の学習目的とともに示されている。また、章・節の記述も、マイクロレベルの視点から書き起こし、メゾレベル、マクロレベルへと学生の視点・理解の拡張を促す構成をとっている(筆者らはこの記述法を **Social World Model** と呼んでいる)。また、冒頭で学生になじみのある話題でトピックを立ち上げると、**Thinking Sociologically** という問いが現れ、社会学がトピックについてどのように問いを立てようとするのか示される。その問いを追いかけるとやがてトピックについての社会学理論が提示され、それもまたマイクロな理論からマクロな理論まで順を追って解説される。

本文には、読むだけに終わらない工夫が施されている。全部で 27 か所に設定されている **Engaging Sociology**—社会学に参加する—では、学生に社会学者として社会調査を体験するよう促している。例えば宗教の章では、「宗教的であること」を様々な側面から測った

データを示し、質問項目の適切さを批判的に検討させている。社会的事実の複雑さや、それを認識することの難しさを、入門レベルのテキストで体験させようとしている。

章の最後には、What Have We Learned? (私たちはこの章で何を学んだのか?)、Discussion Questions、Key Terms、Contributing to Our Social World: *What Can We Do?* (社会に貢献する：私たちに何ができるのだろうか?) という 4 つのまとめが用意されている。What Have We Learned? では、まず文章でこの章で学んだことがまとめられ、続いて内容をより深く理解するための Discussion Questions がいくつか示されている。Key Terms には、本文中紫色で書かれた諸概念 (続いて定義がイタリックで示されている) があらためてまとめられている。Contributing to Our Social World: *What Can We Do?* では、章で紹介された知識・議論に基づき「我々に何ができるのか」知らせる・考えさせるためのヒントが、再度マイクロ・メゾ・マクロのレベル別に整理されている。末尾には、さらに応用的な学習を促す仕組みとして、出版元である SAGE のホームページ上の資料 (Frontline、TED、YouTube のビデオなど) へのアクセス情報が記されている。また、SAGE のホームページには、この教科書専用のページが設けられており、各章ごとの理解を試す Quiz などが配置されているほか、関連する論文にリンクが張られており、発展的な学習をしたい学生には親切な作りとなっている。

「社会に貢献する：私たちに何ができるのだろうか?」と閉じられている通り、教科書作成の基本精神として、社会学を学ぶことで「面白い人になろう」「社会を変える主体になろう」というメッセージを学生に送ろうとしている。小さな読み物の多様さを含む仕掛けの豊富さによって、学生を社会学の入り口に立たせようとする丁寧な教科書である。

《人気者リスト (巻末インデックス登場回数) 》

マルクス 18 回、ヴェーバー 17 回、デュルケム 14 回、デュボワ 5 回、パーソンズ 4 回、マートン 3 回。以下参考記録。オバマ 15 回!、ブッシュ (子) 6 回、ジンメル 2 回、フロイト 2 回、レンスキ 2 回、キング牧師 2 回など。

《アメリカの学生は大変》

本書の重さは、ペーパーバック版で 1.3 キロ。

(今井 順)

3. Conley, Dalton, *You May Ask Yourself: An Introduction to Thinking Like a Sociologist*, 4th edition, W. W. Norton, 2015.

本書は、他の教科書に比べて判が小さく、装丁に手書き風のイラストを使った「かわいい」デザインの本である。今回とりあげたのは、2015年に出版された第4版で、9冊のなかで最も「若い」が、その後、2017年に第5版が出版されている。

本書は、3部18章から構成されている。第1部は「社会学的想像力を用いる」、第2部は「断層線：社会的区分と不平等」、第3部は「ビルディングブロック：社会の諸制度」となっている。章構成は、以下に見るように、標準的な5部構成の場合とほぼ同じ配列であるが、通常2部に分ける基礎理論部分を第1部にまとめ、第2部は通常の第3部に配置される社会的カテゴリーと不平等を扱い、第3部は「社会変動」の部を切り分けずに、通常の第4部（制度的諸領域）と第5部（社会変動）を合体させた形になっている。

| Part  | Chapter   |
|---|---|
| 1. Using Your Sociological Imagination          | 1 The Sociological Imagination: An Introduction           |
|   | 2 Methods   |
|   | 3 Culture and Media                                       |
|   | 4 Socialization and the Construction of Reality           |
|   | 5 Groups and Networks                                     |
|   | 6 Social Control and Deviance                             |
| 2. Fault Lines...Social Division and Inequality | 7 Stratification  |
|   | 8 Gender  |
|   | 9 Race  |
|   | 10 Poverty  |
|   | 11 Health and Society                                     |
| 3. Building Blocks: Institutions of Society     | 12 Family   |
|   | 13 Education  |
|   | 14 Capitalism and Economy                                 |
|   | 15 Authority and the State                                |
|   | 16 Religion   |
|   | 17 Science, Environment, and Society                      |
|   | 18 Collective Action, Social Movements, and Social Change |

章の立て方にも特徴がある。通常、文化を扱う位置にある第3章は、文化とメディアを並べて扱っている。第4章の社会化の章では章のタイトルを *Socialization and the Construction of Reality* としている。「現実構成」自体は多くの教科書で扱われているが、社会化と並べて章のタイトルとするのは珍しい。逸脱を扱う第6章のタイトルも、通常は「逸脱と社会統制」となるところ *Social Control and Deviance* と順序が逆になっている。統制側の要因を重視するラベリング理論や第二次的逸脱は、他の多くの教科書でも扱っており、本書で扱っているトピックも、機能主義理論も含めて特段違いがあるわけではないものの、章のタイトルであえて「社会統制」を先にもってくるところに、既成観念を揺り

動かそうとする著者の意図が感じられる。社会変動を扱う第 18 章のタイトルは、**Collective Action, Social Movements and Social Change** となっており、通常 **Collective Behavior** (集合行動) とするところ **Collective Action** (集合的行為) の語を用いている。本文中でも、**Turner & Killian** や **Smelser** も含めて一貫して **Collective Action** の語が使われているのはやや違和感がある。また、エスニシティとセクシュアリティはどの章のタイトルにも現れない。エスニシティに関する記述は人種の章に埋め込まれており、セクシュアリティについてはジェンダーを扱っている第 8 章と家族を扱っている第 12 章で扱われている。年齢やエイジング、都市化、人口を扱う章はなく、これらのトピックは扱われていない。

各章の枠組は、比較的シンプルである。章扉で **Paradox** が示され、章末でこれが繰り返される。**Paradox** はたとえば第 1 章では「成功する社会学者は、見慣れたものを見慣れぬものにする」とあり、**Question Everything** という手書き風イラストが付いている。章末では、映像教材への参照指示と「伝統的家族とはなにか」「なぜ大学に通うのか」と書かれたイラストが付いている。**Paradox** はどの章でも「成功する社会学者は、…」というスタイルをとり、社会学者のものの見方の特徴を強調するという一貫した姿勢が見て取れる。また、第 1 章を除いて章末には **Policy** というコラムが配置されているほか、各章末に **Practice** として **Sociology on the Street (Video と連動)** と **Questions for Review** という記述式復習問題数題をおいている。

「かわいい」デザインも全体を貫いており、キータームには黄色の蛍光ペンを塗ったような色が施され、欄外に語句説明が掲載されている。節の見出しには、鉛筆で矢印とアンダーラインを引いたような装飾が施されている。写真には、白い枠を付けて、あたかもプリントした写真がおかれているかのように見せている。

巻末には、**Glossary** (用語集) があり、本文中で黄色の蛍光ペンで示したキータームとその語句説明が再掲されている。さらに **Bibliography** (文献一覧)、**Credit**、**Index** が付けられている。**Index** で現れる社会学者で最も多いのは、**Weber**、次いで **Durkheim** と **Marx** がほぼ同数である。

本書の最大の特徴は、後発の教科書として標準的な教科書からの差別化を図っていることである。多くの教科書は、社会学辞典の項目を系統的に並べたように、平易な記述で効率よく概念を説明し、コラムを活用して考察課題を示している。つまり、講義は別にあり、その参考書としての活用が想定されているように思われる。それに対して、本書は、いわば講義がそのまま文章化された形で、社会学的視点を呈示するストーリー立てがなされて

おり、「読ませる」教科書となっている。

(松本 康)

4. Giddens, Anthony, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum, and Deborah Carr, *Introduction to Sociology*, W.W.Norton & Company Inc., 2016.

本書は、以下の通り 5 部、20 章からなる。

| Part                                | Chapter   |
|-------------------------------------|---|
| 1.The Study of Sociology            | 1 What Is Sociology?  |
|                                     | 2 Asking and Answering Sociological Questions                     |
| 2.The Individual and Society        | 3 Culture and Society   |
|                                     | 4 Socialization and the Life Course                               |
|                                     | 5 Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet |
|                                     | 6 Groups, Networks, and Organizations                             |
|                                     | 7 Conformity, Deviance, and Crime                                 |
| 3.Structures of Power               | 8 Stratification, Class, and Inequality                           |
|                                     | 9 Global Inequality   |
|                                     | 10 Gender Inequality  |
|                                     | 11 Ethnicity and Race   |
|                                     | 12 Aging  |
|                                     | 13 Government, Political Power, and Social Movements              |
| 4.Social Institutions               | 14 Work and Economic Life   |
|                                     | 15 Families and Intimate Relationships                            |
|                                     | 16 Education  |
|                                     | 17 Religion in Modern Society                                     |
| 5.Social Change in the Modern World | 18 The Sociology of the Body: Health, Illness, and Sexuality      |
|                                     | 19 Population, Urbanization, and the Environment                  |
|                                     | 20 Globalization in a Changing World                              |

章の配列はほぼ標準的である。第 1 部：The Study of Sociology は、社会学的視点を導入する第 1 章と社会学的な方法を扱う第 2 章からなる。第 2 部：The Individual and Society では、社会の構造と機能に関するテーマとして、文化、社会、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会的統制を扱う章により構成される。文化と社会が 1 章にまとめられていること（第 3 章）、社会化がライフコースの観点から扱われていること（第 4 章）、インターネット時代に特徴的な日常的な相互関係が扱われている（第 5 章）。社会的カテゴリーと不平等の問題に関する第 3 部：Structures of Power では、社会階層、グローバルな階層化、ジェンダー、エスニシティと人種という定番の 4 つのテーマが独立した章として設定された後に、Aging（第 12 章）、Government, Political Power and Social Movement（第 13 章）が配置されている。この章では、貧困は独立した章としては扱われていないが、社会階層について述べた第 8 章においてアメリカの貧困問題が、グローバルな階層研究を

論じた第 9 章においてグローバルな観点から経済格差の問題が論じられている。

第 4 部 : **Social Institutions** では、社会制度の諸領域について、マクロからミクロへ向って、政治、経済、家族、教育、宗教、健康の順番で各章が配置されている。最後の第 5 部 : **Social Change in Modern World** は、**Body** (第 18 章)、**Population, Urbanization, and the Environment** (第 19 章)、**Globalization** (第 20 章) より構成されている。

また、本報告書第 3 章の表 3-11 に挙げられた 30 のトピックのうち、**sexuality**、**science & technology**、**media** は章のタイトルには明示的に挙げられてないが、セクシュアリティについては、第 13 章 : **The sociology of the Body** において、健康と疾病とともに扱われている (第 10 章 **Gender Inequality** ではなく)。また、**media** については、第 4 章において社会化に影響を与える要因として、また、第 3 章や第 16 章において発達や生活に影響を与える要因として登場するなど、各トピックの箇所が必要に応じて提起されている。

次に本の構成に視点を転じると、1 つの部が 2 ~ 6 つの章に分けられ、各章は、**Basic concept**・**Theory**・**Research**・**Unanswered question** という 4 つのセクションから構成されている。基本概念、基本理論から、近年の研究動向までカバーでき、さらに、現在まさに生じている社会的イシューについて考え、議論するための応用力まで身につけられるように仕組みられている点が本書の最大の特徴であるといえよう。また、テキストへの興味を喚起し学習を促すために、構成やデザイン、レイアウト等にも多くの工夫が見られる。

まず、第 1 に、各章の中扉 (見開き)、左頁には章の内容を特徴的に示す写真が、右頁にはつかみとしての問がクイズ形式で掲載されている。例えば、第 4 章では、「今日アメリカで、親が子どもに身につけさせるべき最も重要な価値は何か」という問とその回答肢—a. 創造性 b. 責任感 c. 宗教観 d. 服従—が示されている (解答は本文中に埋め込まれている)。

第 2 に、本文中に、キータームが強調文字で表示され、その定義が同頁にコラム形式で示されている (さらに、巻末の **Glossary** に再掲)。キータームは 472 語で、今回分析の対象とした教科書 9 冊の平均は約 400 語であるので、若干多めといえようか。第 3 に、各章の学習目標が各章の 4 つの構成要素ごとに **Learning Objectives** として提示されている。第 4 に、各章の 4 つの構成要素ごとに、学習目標 **Learning Objectives** が達成されたかを確認するための **Concept Checks** が設けられている。そして、第 5 に、各章末に **The Big Picture** が掲載されている。これは、各章の構成と要点を見開き 1 頁にチャート化したもので、**Basic concept**・**Theory**・**Research**・**Unanswered question** という 4 つの構成要素ごとに、**Learning Objectives**、**Terms to Know**、**Concept Check** がコンパクトに図示されている。さらに欄外



(チャート上部)には、Exercises : Thinking Sociologicallyがあり、各章とも小テストが出題されている。最後に、写真や図版がカラーで豊富に用いられていることが挙げられる。各章には最低1枚のインフォグラフィックスが掲載され、見て分かる工夫に力が入れている。

巻末には、まず Glossary があり、キータームと語句説明がアルファベット順に再掲されている。Bibliography、Credits、最後に Index が続く。頁数は本文 565 頁、appendix 88 頁、計 653 頁である。また、オプションとして inquizitive 付きの e-book が用意され、自分の理解度をクイズ形式の問題で、しかもゲーム感覚で確認できるようになっている。

このように本テキストは、基本的概念、基本的な社会理論のみでなく、近年の研究動向から、現代社会におけるホットなトピックを社会学視点から捉える応用力を養える構成となっている点、しかも、インターネット教材を用いることにより親しみやすく自己学習できるよう工夫されている点において、デジタル時代の有用な入門書となっている。

なお、本書には、full edition と seagull edition の2版がある。後者は前者の低価格版で、テキストの内容は同一であるが、図版や写真の点数と色彩が異なっている。前者が、フルカラーであるのに対して、後者の図版と写真はモノカラーで、文字の色は、黒、紺、青の三色に限定されているなど、視覚的なインパクトはかなり異なっている。本の大きさは(横×縦×厚み)は、前者 21.5×27.5×21.0 cm、後者は 17.7×23.1×26.0 cm である。双方とも inquizitive 付きの e-book がオプションとしており、高価なテキストを学生が予算に合わせて購入できるような価格オプションが設けられている。

また、本書は既に 11th edition が刊行されている(2018年5月)。full edition の編著者は、Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard Appelbaum の3名に変更になっている。Seagull edition の編著者は、Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard Appelbaum であり、full edition から抜けた Deborah Carr が編集を率いるかたちとなっている。表紙のデザインが大きく変わっているが、部・章の構成には変化はなく、両者ともにオプションとして inquizitive 付きの e-book が用意されている点も同じである。価格は、書籍のみが、full edition 111.25 ドル、seagull edition 35 ドル。e-book はそれぞれ、50 ドル、35 ドル。なお、前者について、ルースリーフ版、77.88 ドルのオプションもある。(11th edition については、<http://books.wwnorton.com/books/webad.aspx?id=4294994897> を参考にした。2018年8月24日取得)。

(宮坂靖子)

5. Giddens, Anthony and Philip W. Sutton, *Sociology*, 8th edition, Polity, 2017.

Giddens & Sutton (2017)のペーパーバック版は、背表紙の厚みが 4.7 センチ、重量は 2.7 キログラム、合計 1130 ページにもおよぶ大著である。1989 年に初版が出版され、今回とりあげるのは第 8 版である。本書は部 (part) 構成を採らず、以下のように 22 章からなる。

| Chapter |   |
|---------|---|
| 1       | What is Sociology?                          |
| 2       | Asking and Answering Sociological Questions |
| 3       | Theories and Perspectives                   |
| 4       | Globalization and Social Change             |
| 5       | The Environment                             |
| 6       | Cities and Urban Life                       |
| 7       | Work and the Economy                        |
| 8       | Social Interaction and Daily Life           |
| 9       | The Life Course                             |
| 10      | Families and Intimate Relationships         |
| 11      | Health, Illness and Disability              |
| 12      | Stratification and Social Class             |
| 13      | Poverty, Social Exclusion and Welfare       |
| 14      | Global Inequality                           |
| 15      | Gender and Sexuality                        |
| 16      | Race, Ethnicity and Migration               |
| 17      | Religion                                    |
| 18      | The Media                                   |
| 19      | Education                                   |
| 20      | Crime and Deviance                          |
| 21      | Politics, Government and Social Movements   |
| 22      | Nations, War and Terrorism                  |

章の構成と配列は、本報告書において教科書間の「目次の比較分析」を行った松本康により、「きわめて特異」と形容されている。そのため、本書の目次については他書に比べると丁寧な分析が部分部分で行われているので、そちらを参照されたい（本報告書第 3 章参照）。そこでは現在邦訳のある第 5 版の章配列は「いくらか標準パターンに近い」と指摘されているので、ここでは第 5 版から第 8 版に至る章配列の変遷をたどってみることにする。

まず、第 5 版（2006 年）と第 6 版（2009 年）の間に大幅な改訂が見られる。具体的には、第 5 版では最後に位置づけられていた第 21 章 Cities and Urban Spaces、第 22 章 The Environment and Risk は、第 6 版では第 5 章 The Environment、第 6 章 Cities and Urban Life とタイトルを変えて、導入部分の直後に置かれることになった。また、第 5 版で第 20

章 *Politics, Government and Terrorism* と括られた章は、第 6 版では第 22 章 *Politics, Government and Social Movements* と第 23 章 *Nations, War and Terrorism* と区別され、最後に配置された。第 6 版には過去の重要な実証研究を詳しく論じる囲み記事 *Classic Studies* と、学生が能動的に考えられるようにするための *Thinking Critically* セクションが設けられた。これは第 8 版まで続いている。つぎに第 6 版 (2009 年) と第 7 版 (2013 年) を比較すると、第 6 版の第 20 章 *Work and Economic Life* が第 7 版では *Work and the Economy* とタイトルを変えて第 7 章に順位をあげた。その他の特徴的なこととしては、第 6 版の第 14 章 *Sexuality and Gender* が第 7 版では第 15 章 *Gender and Sexuality* となり、ジェンダーがセクシュアリティの前に置かれた。第 7 版 (2013 年) と第 8 版 (2017 年) では、前者にあった第 19 章 *Organizations and Networks* は後者では丸々 1 章分なくなっている。このように版を重ねるごとに章の配列やタイトルの順序の入れ替えが見られることから、他書と比較して「特異」にみえる本書にも、時宜を得た重要なテーマをより前に位置づけることや、増補する一方ではなく不要と判断したものは大胆に削除していることがわかる。

第 8 版では、最新の写真や図表、絵画、イラストや漫画をカラーで多数収録しており、社会的なテーマを日常的な場面と結びつけて考察できるような工夫がなされている。*Using Your Sociological Imagination* と *Global Society* という囲み記事がそれぞれ 40 カ所以上あり、社会的想像力とグローバル社会が全章を通底するキーワードとなっている。各章の導入部分には基本的には何らかの具体的なトピックが置かれ、読み物として興味を引くことで、そのテーマに関して読者をマインドセットするよう仕向けられている。イギリスの事例が中心となっているとはいえ、日本をはじめとする世界各国の最新の事例 (例えば第 16 章 *Race, Ethnicity and Migration* の導入部分では 2015 年ミス・ユニバース日本代表に選ばれた ‘hafu’ or ‘half’ の女性の写真とともに国内での批判的意見が紹介されるなど) に言及しており、国際比較の視点が明確に打ち出されている。章末には、*Chapter Review* としていくつかの問いが投げかけられており、章全体を振り返ることができる。最後の *Internet Links* では当該の章の内容に関連するウェブサイトがいくつか示される。その一番はじめには本書に関する追加情報とサポートが載った専用のサイトが紹介され、講師および学生が学習に利用できるさまざまな素材が提供されている。さらに *Introductory Readings Sociology* や *Essential Concepts in Sociology* といった副読本も用意され、社会学の勉強を深められるように工夫されている。

このように本書は、常に再帰的な見直しが行われている教科書であり、その内容にグローバルな社会変動を意欲的に取り込もうとする姿勢が見てとれる。

(眞鍋知子)

6. Henlin, James M., *Essentials of Sociology: A Down-To-Earth Approach*, 12th edition, Pearson, 2017.

本書の初版の出版は 1996 年であり、以来、版を重ねて 2017 年に第 12 版が出版されている。今回検討の対象としたのは、最新の第 12 版である。著者の James M. Henslin は Southern Illinois University, Edwardsville の名誉教授であり、本書の他にも *Down-to-Earth Sociology: Introductory Readings* (Free Press)、*Social Problems* (Allyn and Bacon) などの社会学関連のテキストを執筆しており、いずれも版を重ねている。

本書は部にわかれておらず、章のみの 15 章で構成されている。章構成を以下に示す。

| Chapter |   |
|---------|---|
| 1       | The Sociological Perspective            |
| 2       | Culture                                 |
| 3       | Socialization                           |
| 4       | Social Structure and Social Interaction |
| 5       | Social Groups and Formal Organizations  |
| 6       | Deviance and Social Control             |
| 7       | Global Stratification                   |
| 8       | Social Class in the United States       |
| 9       | Race and Ethnicity                      |
| 10      | Gender and Age                          |
| 11      | Politics and the Economy                |
| 12      | Marriage and Family                     |
| 13      | Education and Religion                  |
| 14      | Population and Urbanization             |
| 15      | Social Change and the Environment       |

章のみで構成されているものの、本報告第 3 章で言及されるように、章立ては他の 5 部構成の教科書と似通っている。第 1 章（部構成で第 1 部に相当）で社会学的視点・理論・方法論が論じられ、第 2～6 章（第 2 部に相当）において、文化、社会化、社会的相互作用、集団・組織、逸脱と社会統制が取り上げられる。続く第 7～10 章（第 3 部に相当）では、社会階層、エスニシティ、ジェンダー・年齢について論じられており、第 11～13 章（第 4 部に相当）においては、政治と経済、結婚と家族、教育と宗教といった社会制度の各領域が取り上げられている。さらに第 14・15 章（第 5 部に相当）は社会変動がテーマとなっ

ており、人口、都市化、環境などのトピックが取り上げられている。5部構成は実際、著者によって意識されているところでもある。著者は、本書を使って授業を行なう教員向けに書かれた箇所において、本書が5部構成をとっている点を説明している。著者が説明する本書の部構成は、第1部：第1～4章（社会学的視点）、第2部：第5，6章（集団と社会統制）、第3部：第7～10章（社会的不平等）、第4部：第11～13章（社会制度）、第5部：第14，15章（社会変動）である。他の教科書に多く見られた部構成と比較すると、第1部に文化、社会化、社会的相互作用まで含めているところに差異があるが、ほぼ共通しているといえる。

他の教科書で章として立てられることもある貧困、セクシュアリティ、健康、ライフコース、メディアは本書の章立てには登場していない。貧困については、第8章（*Social Class in the United States*）を構成する節のひとつとして取り上げられており、またメディアについては、後に述べる本書の「6つのテーマ」のひとつとして *The Mass Media and Social Life* があり、本書の各所にコラムがある。ただ、セクシュアリティ、健康、ライフコースについては記述の量もそれほど多くはなく、本書全体における位置づけは相対的に低いといえる。

本書の特徴のひとつは、章を横断するようなかたちで6つのテーマが設けられており、その6つのテーマに沿って、各章の内容に関連するかたちで複数の種類のコラムや特集ページが設けられていることである。6つのテーマは、1) *Down-to-Earth Sociology*, 2) *Globalization*, 3) *Cultural Diversity around the World and in the United States*, 4) *Critical Thinking*, 5) *Sociology and the New Technology*, 6) *The Mass Media and Social Life* である。これらのテーマは、本書で社会学を初めて学ぶ学生が、社会学的想像力を刺激され、社会の各ピースがどのように関連し、それが自分たちの生活にどのような意味をもつかを理解することを支援する、という本書の目的を達成するために設定されたものであり、著者の本書に対する「こだわり」の部分でもある。

例えば、*Down-to-Earth Sociology* に関しては、社会学が学生により身近に感じられるようなコラムが用意されている。「美しさと成功」（第4章）、「宝くじで大当たりしたあとの生活とは」（第8章）、「男性に対するアフターマティヴ・アクションは必要か」（第10章）などのコラムが設けられているほか、著者自身が世界各国を訪れた際に撮った写真を使ったフォトエッセイ（‘*Throughout the Author’s Lens*’）が掲載されている。

また他の教科書と同様、カラー印刷で写真が多用されているほか、章のはじめには

Learning Objectives、章の終わりには Summary and Review があり、さらに Thinking Critically about Chapter ○として各章の内容についてさらに深く考えるための複数の問いが設けられるなど、学生の学びを支援するような工夫が随所にみられる。また、教員用マニュアル、テスト集、教員向けパワーポイントスライドなども、出版社の教員向けリソースセンターより入手できるようになっており、学生および教員のニーズに丁寧に対応した社会学教科書の好例ではないかと思われる。

(西村純子)

7. Kornblum, William, *Sociology in a Changing World*, 9th edition, Wadsworth, Cengage Learning, 2012.

まず本書の構成は、以下のように、5部 (Part)、22章 (Chapter) となっている。

| Part                            | Chapter |   |
|---------------------------------|---------|---|
| 1 Social Foundations            | 1       | Sociology: An Introduction                              |
|                                 | 2       | The Tools of Sociology                                  |
|                                 | 3       | Culture   |
|                                 | 4       | Societies and Nations                                   |
| 2. Social Dynamics              | 5       | Socialization   |
|                                 | 6       | Interaction in Groups                                   |
|                                 | 7       | Sexuality   |
|                                 | 8       | Deviance and Social Control                             |
|                                 | 9       | Collective Behavior, Social Movements, and Mass Publics |
| 3. Social Divisions             | 10      | Stratification and Global Inequality                    |
|                                 | 11      | Inequalities of Social Class                            |
|                                 | 12      | Inequalities of Race and Ethnicity                      |
|                                 | 13      | Inequalities of Gender                                  |
| 4. Social Institutions          | 14      | Inequalities of Youth and Age                           |
|                                 | 15      | Families  |
|                                 | 16      | Religion  |
|                                 | 17      | Education   |
|                                 | 18      | Economic Institutions                                   |
|                                 | 19      | Politics and Political Institutions                     |
| 5. Social Continuity and Change | 20      | Health and Medicine                                     |
|                                 | 21      | Population, Urbanization, and the Environment           |
|                                 | 22      | Global Social Change                                    |

目次の全体を一瞥すると、内容に関わる本質的な事柄では必ずしもないが、外形的、形式的な点で、部のタイトルがすべて Social ~ となって揃っていることまず指摘できる。

第1部の Social Foundations では、社会学的な観点についての導入をなす序論(第1章)に続いて、方法論(第2章)、さらに文化(第3章)、社会および民族(第4章)が取り上げられている。

第2部の **Social Dynamics** は、社会化（第5章）、集団における相互作用（第6章）、セクシュアリティ（第7章）、逸脱と社会統制（第8章）、集合行動、社会運動、大衆（第9章）から成っている。章のタイトルから見る限り、この部には、多少抽象的な概念のレベルのものと、具体的な事例的レベルのものとが混在しているようにも思われる。なお、第7章に密接に関わる内容のテーマは、第13章でも取り上げられている。

第3部の **Social Divisions** は、5つの章すべてに不平等 **Inequalities** という語が含まれており、まとまりとしてかなりのインパクトを与えている。第10章は階層とグローバル化、第11章は社会階級、第12章は民族とエスニシティ、第13章はジェンダー、第14章は世代の問題が主題となっている。

第4部の **Social Institutions** では、家族（第15章）、宗教（第16章）、教育（第17章）、経済（第18章）、政治（第19章）、医療（第20章）が各章のテーマとなっている。

第5部は、**Social Continuity and Change** ということ、第21章で、人口、都市化、環境が、また第22章ではグローバルな社会変動が論じられている（なお第22章は **optional** ということ、具体的な記述は本書には含まれていない）。なお、各部および章の内容の概略に関する、著者による簡潔な紹介は p.xviii に、またこの第9版において各章に加えられた新たな観点やトピックの紹介は p.xix にある。

各章の冒頭には、その章で議論される **key issue** への関心を向けるための、4ないし5（ただし第10章は7、第17章は3、第18章は6）の「**Focus questions**」が提示され、それぞれの章で学ぶべき事柄の概要の方向づけがなされている。また各章末には「**Summary**」が設けられていて、これらの「**Focus questions**」に対する解答が要約的に示されている。これはその章の **key concept** を確認することにもなっている。

著者によると、本書全体を貫く統一的なテーマとして、社会変動の説明と予測に焦点が当てられている（**Preface** 全体、特に p.xviii 左 6-8）。「全体を通して、本書は、社会制度を修正しようとする試みと、伝統的な行動様式を維持しようとする努力との間の緊張を強調している」（p.xviii 右 31-34）。本書のタイトルも、こうした視点から来ていると言える。

各章には、**Global Social Change**（本書全体で14項目）、**Mapping Social Change**（本書全体で7項目）、**Research Methods**（本書全体で13+1 [第22章] 項目）、**Then and Now**（本書全体で17+1 [第22章] 項目）、**Visual Sociology**（本書全体で24+2 [第22章] 項目）といったコラム（目次ではこれらが「**Features**」としてまとめられている）が設けられており、読みやすさへの工夫もなされている。なおそれぞれの区分の目的は、

pp.xviii-xix に紹介されている。Global Social Change では、世界における主要な社会変動を説明するために社会学的概念が適用され、Mapping Social Change では、アメリカ合衆国あるいは世界における変化の特徴を示すために地図と写真が用いられ、Research Methods では、社会学者が自らの調査をどのように行なっているかが示され、Then and Now では、過去と現在との特定の社会的条件の写真を対比させながら問いかけがなされ、また Visual Sociology は、社会学者が写真あるいは他のヴィジュアルな素材を自らの調査の一部としていかに分析しているかを示す短い写真エッセーとなっている。

写真や図表も多用されており、また節の見出しは色づけされて目立つようになっている、そのような面からも読みやすさへの気配りがなされている。同じページに複数の写真等が掲載されているところも少なからずある。なお著者は New York University film school で映画製作を学び、専門的なドキュメンタリーフィルムもいくつか撮っている (p.xviii 右 19-21)。そうした背景からも、ヴィジュアルな要素への配慮はいつそう意識的になされている。

Preface の p.xx から p.xxii には、教師用、学生用に分けながら、この教科書を使うに際してのウェブサイトやビデオを含む補助教材の紹介も載せられている。

Name Index によると、引用ページ数の多いのは、カール・マルクス (25)、マックス・ヴェーバー (19)、エミール・デュルケーム (12)、アーヴィング・ゴフマンおよびロバート・パーク (各 9)、ライト・ミルズ (8) の順になっている (第 22 章を含んだページ数)。マルクスが多く引用されているのは、本書の関心が反映されているのかもしれない。

著者のコーンブルムは、都市社会学と人間生態学を専門としている。テリー・ウィリアムズとの共著の邦訳『アップタウン・キッズ—ニューヨーク・ハーレムの公営団地とストリート文化』(大月書店、2010 年) も刊行されている。Cornell University's College of Agriculture、シカゴ大学 (1971 年に博士号取得) で学び、アメリカの平和部隊 Peace Corps の最初期のメンバーとして、フランス語圏の西アフリカで、物理学と化学を教えた経験も有している。2005 年には、アメリカ社会学会 American Sociological Association から Distinguished Career Award for the Practice of Sociology を受けている。

(白鳥義彦)



8. Macionis, John J., *Sociology*, 15th edition, Peason, 2014.

Macionis (2014)は、今回とりあげた教科書のなかでは、最も版を重ねており、章の数も最も多く、内容が充実している。今回の分析は第 15 版にもとづいているが、2017 年には第 16 版が出版されている。本書は、以下のように 5 部 24 章からなる。

| Part                           | Chapter   |
|--------------------------------|---|
| 1 The Foundations of Sociology | 1 The Sociological Perspective                                  |
|                                | 2 Sociological Investigation                                    |
| 2. The Foundation of Society   | 3 Culture   |
|                                | 4 Society   |
|                                | 5 Socialization   |
|                                | 6 Social Interaction in Everyday Life                           |
|                                | 7 Groups and Organization                                       |
|                                | 8 Sexuality and Society   |
|                                | 9 Deviance  |
| 3.Social Inequality            | 10 Social Stratification  |
|                                | 11 Social Class in the United States                            |
|                                | 12 Global Stratification  |
|                                | 13 Gender Stratification  |
|                                | 14 Race and Ethnicity   |
|                                | 15 Aging and the Elderly  |
| 4. Social Institutions         | 16 The Economy and Work   |
|                                | 17 Politics and Government                                      |
|                                | 18 Families   |
|                                | 19 Religion   |
|                                | 20 Education  |
|                                | 21 Health and Medicine  |
| 5. Social Change               | 22 Population, Urbanization, and Environment                    |
|                                | 23 Collective Behavior and Social Movements                     |
|                                | 24 Social Change: Traditional, Modern, and Postmodern Societies |

章の配列はおおむね標準的であるが、第 2 部で Society に 1 章を割き、標準が確立していない Sexuality の章を第 8 章においている点が特徴的である。また、社会階層に関しては第 10 章の Social Stratification とは別に第 11 章で Social Class in the United States をおき、全体として社会階層にかなりの紙幅を割いている。唯一、欠けている章があるとすれば、マスメディアである。マスメディアは、社会化のエージェントとして第 5 章で扱われているだけである。

コラム (box) や図表も充実している。コラムは、全体をとおして 4 つのテーマに分けて配置されている。Seeing Sociology in Everyday Life は、日常生活のなかからトピックを選んで考えさせるもので、各章末のほか 12 カ所に配置されている。Thinking About Diversity: Race, Class, and Gender は、多様性について考えさせるもので、19 カ所に配置されている。Controversy and Debate は、重要なイシューについて考えさせるもので、17 カ所に配置されている。Thinking Globally は、(米国から見て) 海外の話題をとりあげるもので、8

カ所に配置されている。これらはいずれも、雑誌記事や新聞記事のようなスタイルで書かれており、最後に「あなたはどう思いますか」という問いが3つほど付けられている。

また、地図も系統的に活用されている。Window on the World というシリーズと Seeing Ourselves というシリーズがあり、前者は世界地図をつかった 26 種類のデータをマッピングしたもの（たとえば国別の平均余命のマッピング）、後者は全米の地図をつかった 25 種類のデータをマッピングしたもの（たとえば州別の自殺率のマッピング）である。

各章は、冒頭の章扉で Learning Objectives が示され、次のページには、つかみとして the Power of Society to ... という見出しのもとに棒グラフのデータが提示される（たとえば、学歴別のインターネットアクセス比率）。冒頭の Learning Objectives は赤字の見出しで示されている節に対応しており、節ごとにその節の objective が再掲されている。節のなかの小見出しは青字になっており、数字をつかわずに見出し間関係がわかるように作られている。本文中のキータームは太字 (bold) になっており、たいていはその直後に同格で、斜体 (italic) で書かれた簡潔な定義が挟まり、さらに欄外にこの語句説明が再掲されている。また、カラーの写真やグラフが多用されており、必ず数行の記事が付されている。

章の最後には、Seeing Sociology in Everyday Life と Seeing Sociology in Your Everyday Life がおかれている。これらは雑誌記事のような軽い問いかけで、しばしば専用のオンライン教材 (MySocLab) への誘導がなされている。最後に、Making the Grade という「まとめ」がおかれ、節ごとにキータームの説明や要点がまとめられるとともに、随所にオンライン教材への参照が指示されている。

巻末にも付き物が多い。Sample Test Questions は、章別に 10 題の Multiple-Choice Questions (短答式 4 択問題：解答付き) と 2 題の Essay Questions (レポート課題) が掲載されている。つぎに Glossary (用語集) があり、本文中のキータームと語句説明がアルファベット順に再掲されている。さらに Reference (参考文献) と Credit が章別に小さな字で押し込められている (だれも読まないだろうが割愛するわけにはいかない)。最後に Author Index (著者名索引) と Subject Index (事項索引) がきて、最終ページは 794 ページである。Subject Index で現れる社会学者で最も多いのは Marx、第 2 位は僅差で Weber であり、Durkheim はその半分以下の言及数で第 3 位となっている。

このように概観すると、本書は、現代米国の大学教育の「面倒見の良さ」を反映した、丁寧に作り込まれた教科書である。

(松本 康)

9. Schaefer, Richard T., *Sociology: A Brief Introduction*, 11th edition, McGraw-Hill, 2015.

Schaefer(2015)はルースリーフエディションの形態をとっており、2016年にはMcGraw-Hill社の提供するインターネット教育システム用アクセスカードが添付された12版が、おなじくルースリーフエディションで刊行されている。11版の目次をみると「部」構成はとっておらず16章で構成されている。章の配列や内容は標準的な5部構成に近い。しかし今回の対象テキスト群の中で異色と位置づけられるGiddens and Suttonと同様にsocializationをlife courseと合わせて1つの章にしている点や、他のテキストで扱われることの少ない「残余範疇」(本報告書第3章「比較分析(1)」の表3-11参照)であるmediaについて「Mass Media」の章を設けている点がユニークである。

| Chapter |   |
|---------|---|
| 1       | Understanding Sociology                                 |
| 2       | Sociological Research                                   |
| 3       | Culture   |
| 4       | Socialization and the Life Course                       |
| 5       | Social interaction, Groups, and Social Structure        |
| 6       | The Mass Media  |
| 7       | Deviance, Crime, and Social Control                     |
| 8       | Stratification and Social Mobility in the United States |
| 9       | Global Inequality                                       |
| 10      | Racial and Ethnic Inequality                            |
| 11      | Stratification by Gender                                |
| 12      | The Family and Human Sexuality                          |
| 13      | Region and Education                                    |
| 14      | Government and the Economy                              |
| 15      | Health and the Environment                              |
| 16      | Social Change in the Global Community                   |

日本社会学会の「参照基準」が基本的知識として列挙した14の項目にあたる内容に対しても、すべて関連する章を見出すことができるが、第4章には日本の参照基準には含まれていない「Socialization and the Life Course」が独立してあてられている。階層・不平等について8～11の4つの章をあてて広い視点から詳細に扱っている点にアメリカ的な特色がうかがわれる。

主要な理論パースペクティブとして機能主義・コンフリクト・相互作用主義などをあげ、章ごとに、それぞれのパースペクティブからの見方を併置して説明している。具体事例と理論パースペクティブのむすびつきを理解させることに力を入れており、そのために、学

生が社会学の研究者と同じように考えることをねらった、「Thinking critically」、大学内の身近な話題と関連させる「Sociology in campus」、同じく自分の身近な問題と理論パースペクティブを関連させる「Use your sociological imagination」、「Taking sociology with you」などのコラムが豊富に入れられている。

多くの章に挿入された「Taking sociology to Work」のコラムでは、undergraduate あるいは community college を卒業した人物を実名と写真入りで紹介し、その職業に社会学がどうむすびつくかを考えるよう促している。たとえば第 5 章では小企業の女性経営者を取りあげて、「彼女は（社会学よりも）ビジネスを専攻したほうが実用的だったと思うか思わないか、そしてその理由は何か」について討論せよ、との指示がある。

インターネットの普及やグローバル化については全編を通じ、すべての話題を横断するかたちで今日的な問題を示している。各問題領域に対するインターネットの効果については「Our Wired World」、グローバルな視点からみた問題提起については「Sociology in the Global Community」のコラムが設けられている。また、各章の末尾では「Social Policy」のコラムで、関連する社会問題と政策的な議論が提示されている。

写真・図版の豊富さ、美しさ、レイアウトの斬新さが著しい。レイアウトに関して言うと、写真や図版が四角形だけではなく円形や斜めや不規則なかたちで本文中に挿入されているものがかなりあり、視覚的な効果を重視する意図がうかがわれる。

本書は McGraw-Hill 社が提供するインターネット教育システム「Connect Sociology's LaernSmart」と連携しており、12 版ではシステムへのアクセスカードが付くようになった。このシステムは学生の学習支援に役立つだけでなく、教科書編集の側からも、学生が理解しにくい概念についてのデータを蓄積し、改版時の記述に反映させるなどのメリットを有している。

このように改版による内容の改善を継続的におこなうためのシステムが構築されている点も興味深い。2013 年の第 10 版と 2015 年の第 11 版との間に、それぞれの章ごとに 4～9 カ所、全体を合計して 104 カ所の比較的大きな改訂ないし増補が加えられている。McGraw-Hill 社では全国から社会学の教師を集めたシンポジウムを毎年開催し、そこでの議論から教員と学生のニーズやチャレンジを学んで改版に役立てている。ズラリとならんだ 28 名の Academic Reviewer の名簿とも相俟って、注がれるマンパワーの巨大さを感じさせるテキストである。

(高瀬武典)

## コラム

### アメリカの大学における社会学入門教科書の使い方

アメリカでは、学部1～2年生を対象とした「社会学入門」を必修科目にしている大学が多い。そのためこの科目を履修する学生は多く、教科の内容や学生の理解度をある程度統一するために教科書が使われる。また、これらの教科書を「必読」にする場合がほとんどであり、試験問題も教科書の内容を基にして作成することが多い。よって、教科書のウェイトが結構大きいために、分厚く高価であるにも関わらず学生たちは購入するのである。この傾向を反映して、アメリカの教科書市場は常に活気を帯びてきた。一冊のヒット教科書を執筆するとその印税で一生食っていけるという話をよく聞くが、十分納得できることだ。

さてこのように需要が高い教科書であるが、本コラムでは、まずこれらの教科書がどのように使われているのかを20年間カリフォルニア大学で教鞭をとった筆者の視点から説明する。次に、最近の動向を含めて、教科書を比較する際にアメリカの教育者が考慮する点について述べる。

社会学に限定されているわけではないが、教科書の使い方は主に二通りある。第1には、教科書を「忠実」に使う方法である。つまり、授業の内容を教科書の目次に合わせて、履修生には最初の一文字から最後まで読ませる方法だ。この長所としては、学生にとっては教科書を使い予習を含む学修がしやすくなるし、担当教員にとっては、ある程度統一した学修を促すことができることだろう。また、アメリカの教科書出版社の多くは科目担当者向けに教科書の内容に合致した試験問題集も出版しているために、教科書ベースの授業では試験問題作成も容易にできる。学生にとっては、高価な教科書を購入したのであるから、教科書を頻繁に使えば使うほど、コスパの面で納得できるのも長所の一つであろう。実際に、教科書を有効活用しなかった場合の学生の授業評価には「せっかく高価な教科書を買ったのに、授業ではあまり使われなかった」という不満のコメントが散見される。

このような長所はあるのだが、教科書重視の授業の短所は何と言っても、教育者が持つ専門知識が十分に反映されない内容になってしまうことであり、そのために授業内でフリーディスカッションを行なう時間が短縮されることだろう。また、試験問題集がリークされたりする恐れがあるために、学生にとっては単なる暗記勉強になってしまう可能性もあり、大学

教育で社会学に関する多様な視点を自分から積極的に学ぶ環境が損なわれてしまうことも懸念されることの一つである。

第2の教科書の使い方は、教科書をあくまでも **supplementary reader** (補助的な資料) にすることである。その最も典型的な形は、授業の内容は教員自身が決定して、必要に応じて教科書の一部を読ませる方法だ。また、授業の中では教科書の内容については直接触れないが、教科書を必読にする方法もある。このような場合は、試験問題も全て講義に基づいたものであり、教科書の内容は反映されないことが多い。このように教科書を補足資料として使う場合は、当然、教育者の専門領域や「好み」が現れるために、社会学の基本的概念を等しいウェイトで学ぶことは難しいだろう。反面、学生の考え方を反映しながらの刺激的なディスカッションやディベートをやりやすくなるなど、教科書を読むだけの学修よりも主体的な学びを促すことは可能である。学生たちにとっては、「楽しい」授業になる確率が高いが、試験勉強が大変なことやコスト的に満足感が低い場合もあることが短所であろう。このように教科書の使い方は担当教員によって様々ではあるが、上述した長短所を考慮しながら教科書を選定するのはアメリカの大学教員が頻繁に直面する課題である。また、このような環境があるからこそ、アメリカでは教科書ランキングなどが盛んに行なわれていたり、学会などで教科書に関する情報を提供している場合が多い。

次に、教科書を比較する際にアメリカの教育者が考慮する点について述べる。第1には担当教員が特に力を入れて教えたいトピックが含まれているかである。本報告書の教科書分析からも明らかなように、各教科書によってカバーされている内容がまちまちである。例えば、Giddens の教科書にはメディアの章があるが、Macionis には欠けているなどである。また、アメリカの社会学入門の教科書で標準化されているトピックとしては **Stratification, Inequality, Socialization, Family, Gender** や **Crime** などがあるが、反対に **Disabilities** や **Aging** などについては触れられていない教科書もあるので、教科書の比較をする際の重要なポイントである。第2に社会学の基本である理論や研究方法について比較すると、理論については全ての社会学入門レベルの教科書で触れられていないが、研究方法については頻繁にカバーされているようである。よって、社会学理論を重視したい教育者にとっては、入門レベルの教科書に加えて理論に関する **supplementary reader** を課す必要があるかもしれない。第3には、同じようなトピックに関してまとめて章立てをしているのか、あるいは独立した章でカバーしているのかの比較である。本報告書で分析対象とした教科書でも、

「Education and Religion」「Family and Sexuality」「Illness and Sexuality」「Gender and Aging」など一見あまり関係のないようなトピックを同じ章に入れている場合がある。例えば、Family と Sexuality は関連したトピックではあるが、必ずしも同じものではないのは自明である。よって、このようなトピックを別の章として扱う教科書の方が適切であると判断する場合もあるだろう。第 4 に、IT 世代の学生の「学び方」を考えると、文章のみではなく、ビジュアルなども効果的に使われているかの点で教科書を比較する必要もあるだろう。また、最近では章ごとの購入が可能な教科書も出版されており、全部あるいは一部をスマートフォンにダウンロードできる教科書もある。勿論、このように最近の学びの傾向を反映させ学生が購入しやすく、読みやすく、理解しやすい教科書の選定は重要だが、あまりにもその方向に走ってしまい、結果、肝心な社会学の知識を得ることが二の次になっている場合があれば問題である。最後に、社会学入門の科目は必修である場合が多いため、履修する学生の関心も多岐に及ぶ。そのために、社会学のスペシャリストを育てるというよりもある意味「ジェネリック」な社会学の知識の習得を目的とする場合が多い。よって、教科書を比較する際には、このような学修目的を達成することが可能であるのかも検討することが重要とされている。

(石井クンツ昌子)

### 第3章 比較分析(1)—教科書の章構成

本章では、9つの教科書の構成を、章構成を手がかりとして比較分析する。ここでの目的は、比較によってそれぞれの教科書の特徴を明らかにすることにあるのではなく、章構成の分析から帰納的に標準的なパターンを抽出することである。9つの教科書のうち6つは、章(chapter)をいくつかの部(part)にまとめているので、まず部の構成を検討する。この分析から5部構成の基本パターンを抽出した。つぎに、部に分かれていない教科書も含めて章構成の分析に進む。5部構成の基本パターンをもとに、残余カテゴリーを含めた6つの群に30のトピックを分類した枠組を作成し、9つの教科書の章を分類する。この分類表の検討から、標準的な部・章の構成・配列のパターンとそのバリエーションが明らかとなる。

#### 1. 部(Part)の構成

9つの教科書は15~24の章から構成されている(表3-1)。最も章の数が少ないのはHenslin(2017)で15章、最も多いのはMacionis(2014)で24章である。9つの教科書のうちの6つは、章がいくつかの部にまとめられている。5部構成のものが5つ、3部構成のものがひとつである。

表3-1 目次の構成

|                         | Parts | Chapters |
|-------------------------|-------|----------|
| Andersen & Taylor 2016  | 5     | 16       |
| Ballantine et al. 2018  | 5     | 16       |
| Conley 2015             | 3     | 18       |
| Giddens et al. 2016     | 5     | 20       |
| Giddens and Sutton 2017 | 0     | 22       |
| Henslin 2017            | 0     | 15       |
| Kornblum 2012           | 5     | 22       |
| Macionis 2014           | 5     | 24       |
| Schaefer 2015           | 0     | 16       |

そこでまず、5部に分かれている5つの教科書を取りあげ、それぞれどのような章を含んでいるかを示すと、表3-2から表3-6のようになる。



表3-2 .Andersen & Taylor 2016

| Part  | Chapter                                       |
|---|---|
| 1. Introducing the Sociological Imagination | 1 The Sociological Perspective                |
|   | 2 Culture                                     |
|   | 3 Doing Sociological Research                 |
| 2. Studying Society and Social Structure    | 4 Socialization and the Life Course           |
|   | 5 Social Structure and Social Interaction     |
|   | 6 Groups and Organizations                    |
|   | 7 Deviance and Crime                          |
|   | 8 Social Class and Social Stratification      |
| 3. Social Inequalities                      | 9 Global Stratification                       |
|   | 10 Race and Ethnicity                         |
|   | 11 Gender                                     |
|   | 12 Sexuality                                  |
| 4. Social Institutions                      | 13 Families and Religion                      |
|   | 14 Education and Health Care                  |
| 5. Social Change                            | 15 Economy and Politics                       |
|   | 16 Environment, Population, and Social Change |

表3-3. Ballantine et al.,2018

| Part  | Chapter   |
|---|---|
| 1.Understanding Our Social World: The Scientific Study of Society | 1 Sociology: A Unique Way to View the World                       |
|   | 2 Examining the Social World: How Do We know?                     |
|   | 3 Society and Culture: Hardware and Software of Our Social World  |
| 2.Social Structure, Processes, and Control                        | 4 Socialization: Becoming Human and Humane                        |
|   | 5 Interaction, Groups, and Organizations: Connections That Work   |
|   | 6 Deviance and Social Control: Sickos, Freaks, and Folks Like Us  |
| 3.Inequality  | 7 Stratification: Rich and Famous--or Rags and Famine?            |
|   | 8 Race and Ethnic Group Stratification: Beyond "Us" and "Them"    |
|   | 9 Gender Stratification: She /He --Who Goes First?                |
| 4.Institutions  | 10 Family: Partner Taking, People Making, and Contract Breaking   |
|   | 11 Education: What Are We Learning?                               |
|   | 12 Religion: The Social Meaning of Sacred Meaning                 |
|   | 13 Politics and Economics: Probing Power, Dissecting Distribution |
|   | 14 Health Care: An Anatomy of Health and Illness                  |
| 5.Social Dynamics   | 15 Population and Urbanization: Living on Planet Earth            |
|   | 16 The Process of Change: We Can Make a Difference!               |

表3-4.Giddens et al., 2016

| Part                                | Chapter   |
|-------------------------------------|---|
| 1.The Study of Sociology            | 1 What Is Sociology?  |
|                                     | 2 Asking and Answering Sociological Questions                     |
| 2.The Individual and Society        | 3 Culture and Society   |
|                                     | 4 Socialization and the Life Course                               |
|                                     | 5 Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet |
|                                     | 6 Groups, Networks, and Organizations                             |
|                                     | 7 Conformity, Deviance, and Crime                                 |
| 3.Structures of Power               | 8 Stratification, Class, and Inequality                           |
|                                     | 9 Global Inequality   |
|                                     | 10 Gender Inequality  |
|                                     | 11 Ethnicity and Race   |
|                                     | 12 Aging  |
|                                     | 13 Government, Political Power, and Social Movements              |
| 4.Social Institutions               | 14 Work and Economic Life   |
|                                     | 15 Families and Intimate Relationships                            |
|                                     | 16 Education  |
|                                     | 17 Religion in Modern Society                                     |
| 5.Social Change in the Modern World | 18 The Sociology of the Body: Health, Illness, and Sexuality      |
|                                     | 19 Population, Urbanization, and the Environment                  |
|                                     | 20 Globalization in a Changing World                              |

表3-5 Kornblum, 2012

| Part                            | Chapter   |
|---------------------------------|---|
| 1.Social Foundations            | 1 Sociology: An Introduction                              |
|                                 | 2 The Tools of Sociology                                  |
|                                 | 3 Culture   |
|                                 | 4 Societies and Nations                                   |
| 2.Social Dynamics               | 5 Socialization   |
|                                 | 6 Interaction in Groups                                   |
|                                 | 7 Sexuality   |
|                                 | 8 Deviance and Social Control                             |
|                                 | 9 Collective Behavior, Social Movements, and Mass Publics |
| 3.Social Divisions              | 10 Stratification and Global Inequality                   |
|                                 | 11 Inequalities of Social Class                           |
|                                 | 12 Inequalities of Race and Ethnicity                     |
|                                 | 13 Inequalities of Gender                                 |
|                                 | 14 Inequalities of Youth and Age                          |
| 4 Social Institutions           | 15 Families   |
|                                 | 16 Religion   |
|                                 | 17 Education  |
|                                 | 18 Economic Institutions                                  |
|                                 | 19 Politics and Political Institutions                    |
|                                 | 20 Health and Medicine                                    |
| 5. Social Continuity and Change | 21 Population, Urbanization, and the Environment          |
|                                 | 22 Global Social Change*                                  |

表3-6 Macionis,2014

| Part                           | Chapter   |
|--------------------------------|---|
| 1 The Foundations of Sociology | 1 The Sociological Perspective                                  |
|                                | 2 Sociological Investigation                                    |
| 2. The Foundation of Society   | 3 Culture   |
|                                | 4 Society   |
|                                | 5 Socialization   |
|                                | 6 Social Interaction in Everyday Life                           |
|                                | 7 Groups and Organization                                       |
|                                | 8 Sexuality and Society   |
|                                | 9 Deviance  |
| 3.Social Inequality            | 10 Social Stratification  |
|                                | 11 Social Class in the United States                            |
|                                | 12 Global Stratification  |
|                                | 13 Gender Stratification  |
|                                | 14 Race and Ethnicity   |
|                                | 15 Aging and the Elderly  |
| 4. Social Institutions         | 16 The Economy and Work   |
|                                | 17 Politics and Government                                      |
|                                | 18 Families   |
|                                | 19 Religion   |
|                                | 20 Education  |
|                                | 21 Health and Medicine  |
| 5. Social Change               | 22 Population, Urbanization, and Environment                    |
|                                | 23 Collective Behavior and Social Movements                     |
|                                | 24 Social Change: Traditional, Modern, and Postmodern Societies |

5つの部の構成はほぼ一致している。第1部は、社会学の理論的視点と方法論の2つの章を含む。ただし、Andersen & Taylor (2016)は、「社会学的視点」の1章を含むだけで、方法論の章は第2部第3章「社会学的な調査をする」におかれている。また、Kornblum(2012)は、「文化」の章と「諸社会と諸国家」の章を含む4章構成となっている。残りの3つ (Ballantine et al. 2018, Giddens et al. 2016, Macionis 2014) は、理論的視点を導入する第1章と調査方法論を解説する第2章から第1部が構成されている。

第2部は、社会と文化、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制に関する章を含む。ただし Andersen & Taylor (2016)は、先に述べたように方法論の章が第2部におかれている。Kornblum (2012)と Macionis (2014)は、第2部にセクシュアリティの章も入れている (後述するようにセクシュアリティの位置づけは教科書によって揺らぎがある)。また Kornblum (2012)では、社会と文化に関する章が第1部におかれている一方で、集合行動に関する章が第2部に含まれている。Kornblum を除く4冊はすべて、社会と文化、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制を第2部に位置づけている。

第3部は、社会階層、人種とエスニシティ、ジェンダー、年齢に関する章を含んでいる。これらはいずれも社会を構成する基本的な社会的カテゴリーである。Andersen & Taylor (2016)、Ballantine et al.(2018)、Macionis (2014)は、第3部のタイトルに「不平等」の語をつかっている。Kornblum (2012)は、部のタイトルを Social Divisions (社会の諸区分) としているが、そこに含まれる5つの章にはすべて「不平等」の語が付けられており、Giddens et al. (2016)は、部のタイトルを Structures of Power (権力の諸構造) としたうえで、6つの章のうち3つ (「社会階層、階級と不平等」「グローバルな不平等」「ジェンダーの不平等」) には不平等の語を付けている。章構成についてのバリエーションを調べると、Andersen & Taylor (2016)には年齢の章がなく、セクシュアリティの章がおかれている。Ballantine et al. (2018) にも年齢に関する独立した章がない。Giddens et al.(2016)には、政府と社会運動に関する章が含まれている。グローバルな階層化について独立した章を設けているのは、Andersen & Taylor (2016)、Giddens et al. (2016)、Macionis (2014)の3冊、Kornblum (2012) は社会階層の章を「階層化とグローバルな不平等」としており、Macionis (2014)は、この他に「米国における社会階級」を独立した章として設けている。

第4部は、社会制度の各領域をとりあげた章によって構成されている。社会制度としてとりあげられている領域は、家族、宗教、教育、健康 (保健)、経済、政治である (日本の教科書では、社会制度という言葉がほとんど現れず、制度領域であるという位置づけのな

いままにこれらの「領域」が羅列されがちであることに注意が必要である)。ただし、Giddens et al. (2016)は、政治に関する章を第2部「権力の諸構造」におき、健康に関する章を「身体の社会学」として第5部「近代世界の社会変動」においている。

第5部は「社会変動」をタイトルに掲げるものが多い (Andersen & Taylor 2016, Giddens et al. 2016, Kornblum 2012, Macionis 2014)。Ballantine et al. (2018)は、Social Dynamics (社会動態) としている。第5部に含まれているトピックは、人口、都市化、環境、科学・技術、集合行動・社会運動、「社会変動」(伝統、近代、脱近代)、グローバル化などである。Giddens et al.(2016)は、「身体の社会学」として健康、病気、セクシュアリティをひとつの章に収め、第5部においている。Kornblum (2012)は、集合行動と社会運動の章を第2部においている。また、第22章「グローバルな社会変動」はオプションとして別冊となっており、入手できなかった。

つぎに3部構成をとっている Conley (2015)について見てみよう。Conley (2015)の部と章の編成は表3-7のとおりである。第1部には、社会学的視点の導入の章と方法論の章に加えて、「文化とメディア」、「社会化と現実構成」、「集団とネットワーク」、「社会統制と逸脱」の章からなっており、5部編成の第1部と第2部を合わせた構成となっている。また第2部は、5部編成の第3部と一致する。そして第3部は、5部編成の第4部(社会制度)と第5部(社会変動)にあたるトピックを扱っている。Conley (2015)の場合、都市化を扱う章がなく、collective behavior (集合行動) に代えて collective action (集合的行為) の語をつかっているなどの特異な点があるとはいえ、おおむね、5部編成の教科書と類似した構成になっている。

表 3-7 Conley 2015

| Part  | Chapter   |
|---|---|
| 1. Using Your Sociological Imagination          | 1 The Sociological Imagination: An Introduction           |
|   | 2 Methods   |
|   | 3 Culture and Media                                       |
|   | 4 Socialization and the Construction of Reality           |
|   | 5 Groups and Networks                                     |
|   | 6 Social Control and Deviance                             |
| 2. Fault Lines...Social Division and Inequality | 7 Stratification  |
|   | 8 Gender  |
|   | 9 Race  |
|   | 10 Poverty  |
|   | 11 Health and Society                                     |
| 3. Building Blocks: Institutions of Society     | 12 Family   |
|   | 13 Education  |
|   | 14 Capitalism and Economy                                 |
|   | 15 Authority and the State                                |
|   | 16 Religion   |
|   | 17 Science, Environment, and Society                      |
|   | 18 Collective Action, Social Movements, and Social Change |

このように全体を見渡してみると、標準的な 5 部構成は、第 1 部で社会学の理論的視点と方法論を扱い、次いで、第 2 部で、社会と文化、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制などのトピックを扱っている。この第 2 部の構成は、パーソンズの社会体系論 (Parsons 1951) をベースにしたものと考えれば、理解しやすい。第 2 部のタイトルは、Andersen & Taylor (2016)では「社会と社会構造」、Ballantine et al. (2016)では「社会構造、社会過程、社会統制」、Giddens et al.(2016)では「個人と社会」、Kornblum (2012)では「社会動態」、Macionis(2014)では「社会の基礎」とまちまちであるが、社会と文化とパーソナリティの関係を、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制の順で導入していく点はほぼ共通しており、社会の構造と機能を扱うトピック群と見ることができる。第 3 部は、社会階層、人種・エスニシティ、ジェンダー、年齢などの主要な社会的カテゴリーに関するトピックをしばしば「不平等」の視角からとりあげており、第 4 部は、家族、宗教、教育、健康、政治、経済などの制度的領域を扱っている。最後に、第 5 部として社会変動がおかれ、典型的には、人口、都市化、環境、グローバル化などのトピックが含まれていた。また、3 部構成の場合でもほぼこの枠組にそって、同じ順序で組み立てられていることがわかった。

そこでつぎに、部に分けられていない教科書も含めて、章構成についてさらに詳しく見ていくことにしよう。

## 2. 章構成

部に分かれていない場合にも、章構成はほぼ類似のものとなっている。ただし、Giddens & Sutton (2017)だけは、表 3-8 に示したようにきわめて特異な配列になっており、第 1 章～第 3 章まで社会学の理論的視点と方法論の導入に費やしたのち、第 4 章「グローバル化と社会変動」、第 5 章「環境」、第 6 章「都市と都市生活」と、通常、第 5 部の社会変動で扱うトピックが最初にきている。それに続く章の配列も特異で、それについては分析の過程でしばしば言及することになる。

Henslin (2017)は、第 1 章「社会学的視点」が第 1 部に相当する導入部、第 2 章から第 6 章が「文化」、「社会化」、「社会構造と社会的相互行為」、「社会集団と公式組織」、「逸脱と社会統制」となっており、第 2 部にあたる配列となっている (表 3-9)。第 7 章から第 10 章までは「グローバルな階層化」、「米国における社会階層」、「人種とエスニシティ」、「ジェンダーと年齢」で第 3 部の構成に合致する。第 11 章から第 13 章までは、「政治と経済」、

「婚姻と家族」、「教育と宗教」となっており、第 4 部の構成に重なり、最後の 2 章が「人口と都市化」、「社会変動と環境」と、第 5 部のトピックを収めている。

表3-8 Giddens & Sutton 2017

|    |   |
|----|---|
| 1  | What is Sociology?                          |
| 2  | Asking and Answering Sociological Questions |
| 3  | Theories and Perspectives                   |
| 4  | Globalization and Social Change             |
| 5  | The Environment                             |
| 6  | Cities and Urban Life                       |
| 7  | Work and the Economy                        |
| 8  | Social Interaction and Daily Life           |
| 9  | The Life Course                             |
| 10 | Families and Intimate Relationships         |
| 11 | Health, Illness and Disability              |
| 12 | Stratification and Social Class             |
| 13 | Poverty, Social Exclusion and Welfare       |
| 14 | Global Inequality                           |
| 15 | Gender and Sexuality                        |
| 16 | Race, Ethnicity and Migration               |
| 17 | Religion                                    |
| 18 | The Media                                   |
| 19 | Education                                   |
| 20 | Crime and Deviance                          |
| 21 | Politics, Government and Social Movements   |
| 22 | Nations, War and Terrorism                  |

表3-9 Henslin 2017

|    |   |
|----|---|
| 1  | The Sociological Perspective            |
| 2  | Culture                                 |
| 3  | Socialization                           |
| 4  | Social Structure and Social Interaction |
| 5  | Social Groups and Formal Organizations  |
| 6  | Deviance and Social Control             |
| 7  | Global Stratification                   |
| 8  | Social Class in the United States       |
| 9  | Race and Ethnicity                      |
| 10 | Gender and Age                          |
| 11 | Politics and the Economy                |
| 12 | Marriage and Family                     |
| 13 | Education and Religion                  |
| 14 | Population and Urbanization             |
| 15 | Social Change and the Environment       |
|    | Epilogue: Why Major in Sociology?       |

Shaefer (2013)も同様で (表 3-10)、最初の 2 章が理論と方法、第 3 章から第 7 章までが第 2 部にあたる内容だが、ここにマスメディアの章が入っているところが特徴的である。第 8 章から第 11 章までは、社会階層、グローバルな不平等、人種とエスニシティ、ジェンダーなどのトピックを扱っており、典型的な第 3 部のパターンを踏襲している (ただし年齢の章はない)。第 12 章から第 15 章までは、家族、教育と宗教、政府と経済などの社会制度を扱っており、第 4 部に相当する部分である。ただし、セクシュアリティは家族の章に組み込まれており、健康は環境の章と合体させられている。第 15 章は「健康と環境」、第 16 章は「グローバルコミュニティにおける社会変動」となっており、通常、第 5 部に相当する部分である。

表3-10 Shaefer 2013

|    |   |
|----|---|
| 1  | Understanding Sociology                                 |
| 2  | Sociological Research                                   |
| 3  | Culture   |
| 4  | Socialization and the Life Course                       |
| 5  | Social Interaction, Groups, and Social Structure        |
| 6  | The Mass Media  |
| 7  | Deviance, Crime, and Social Control                     |
| 8  | Stratification and Social Mobility in the United States |
| 9  | Global Inequality                                       |
| 10 | Racial and Ethnic Inequality                            |
| 11 | Stratification by Gender                                |
| 12 | The Family and Human Sexuality                          |
| 13 | Education and Religion                                  |
| 14 | Government and the Economy                              |
| 15 | Health and the Environment                              |
| 16 | Social Change in the Global Community                   |

このように、5 部構成の枠組は、部に分かれていない教科書でもほぼ踏襲されている。したがって、以下では、5 部構成をもとにつぎのような 6 つの群と 30 のトピックからなる分類枠組を構成して、各教科書の章編成を一覧表に整理した。6 つの群は 5 部構成のトピックに残余カテゴリー (ライフコースとメディア) を加えたものである。30 のトピックは、ひとつ以上の教科書において章のタイトルとして掲げられているものである。

第 1 群 (導入) 1. 理論的視点の導入、2. 方法論

第 2 群 (社会の構造と機能) 3. 文化、4. 社会、5. 社会化、6. 社会的相互行為、7. 集

- 団と組織、8. 逸脱と社会統制
- 第3群（不平等） 9. 社会階層、10. グローバルな階層化、11. 人種とエスニシティ、12. ジェンダー、13. セクシュアリティ、14. 年齢、15. 貧困
- 第4群（社会制度） 16. 家族、17. 宗教、18. 教育、19. 健康、20. 経済、21. 政治
- 第5群（社会変動） 22. 人口、23. 都市化、24. 環境、25. 科学・技術、26. 集合行動と社会運動、27.社会変動、28. グローバル化
- 第6群（残余） 29. ライフコース、30. メディア

表 3-11 は、この分類カテゴリーを表側に、9つの教科書を表頭におき、該当する章の番号を記入した一覧表である。章の分類は、章のタイトルを手がかりとして行い、番号に丸括弧がついているものは、章のタイトルには現れていないものの、節（section）まで降りるとその章で扱われている章番号である。以下、群ごとに章の構成と配列について詳しく見ていこう。

#### 第1群 導入部

第1群は導入部であり、多くの場合、社会学的視点を導入する章と社会調査などの社会的な方法論を扱う章から構成されている。すべての教科書が社会学的視点の導入から始めていることは当然であるが、方法論の位置づけについては若干のバリエーションがある。すでに述べたように Andersen & Taylor (2016)は、第1部を第1章だけから構成し、第2部第2章で「文化」をとりあげてから第3章で方法論を扱っている。また、Giddens & Sutton (2017)は、第1章で社会学的視点を導入したのち、第2章で方法論を扱い、第3章で社会学の理論を紹介するという構成をとっている。また、Henslin(2017)は、第1章「社会学的視点」のなかで理論的視点と方法論の双方が扱われている。それ以外の6冊は標準パターンにしたがっている。



表 3-11 目次の構成一覧

| TextbookID                            | 1    | 2    | 3   | 4  | 5     | 6    | 7    | 8     | 9    |
|---------------------------------------|------|------|-----|----|-------|------|------|-------|------|
| sociological perspectives             | 1    | 1    | 1   | 1  | 1,3   | 1    | 1    | 1     | 1    |
| sociological methods                  | 3    | 2    | 2   | 2  | 2     | (1)  | 2    | 2     | 2    |
| culture                               | 2    | 3    | 3   | 3  |       | 2    | 3    | 3     | 3    |
| society                               | (5)  | 3    |     | 3  |       |      | 4    | 4     |      |
| socialization                         | 4    | 4    | 4   | 4  | (9)   | 3    | 5    | 5     | 4    |
| social interaction                    | 5    | 5    | (4) | 5  | 8     | 4    | 6    | 6     | 5    |
| groups and organizations              | 6    | (5)  | 5   | 6  |       | 5    | 6    | 7     | 5    |
| deviance and control                  | 7    | 6    | 6   | 7  | 20    | 6    | 8    | 9     | 7    |
| social stratification                 | 8    | 7    | 7   | 8  | 12    | 8    | 11   | 10,11 | 8    |
| global stratification                 | 9    | (7)  | (7) | 9  | 14    | 7    | 10   | 12    | 9    |
| race and ethnicity                    | 10   | 8    | 9   | 11 | 16    | 9    | 12   | 14    | 10   |
| gender                                | 11   | 9    | 8   | 10 | 15    | 10   | 13   | 13    | 11   |
| sexuality                             | 12   | (9)  |     |    | 15    |      | 7    | 8     | 12   |
| age                                   | (4)  |      |     | 12 | (9)   | 10   | 14   | 15    |      |
| poverty                               | (8)  | (7)  | 10  |    | 13    | (8)  | (10) | (11)  | (8)  |
| family                                | 13   | 10   | 12  | 15 | 10    | 12   | 15   | 18    | 12   |
| religion                              | 13   | 12   | 16  | 17 | 17    | 13   | 16   | 19    | 13   |
| education                             | 14   | 11   | 13  | 16 | 19    | 13   | 17   | 20    | 13   |
| health                                | 14   | 14   | 11  | 18 | 11    |      | 20   | 21    | 15   |
| economy                               | 15   | 13   | 14  | 14 | 7     | 11   | 18   | 16    | 14   |
| politics                              | 15   | 13   | 15  | 13 | 21,22 | 11   | 19   | 17    | 14   |
| population                            | 16   | 15   |     | 19 |       | 14   | 21   | 22    |      |
| urbanization                          |      | 15   |     | 19 | 6     | 14   | 21   | 22    |      |
| environment                           | 16   | (15) | 17  | 19 | 5     | 15   | 21   | 22    | 15   |
| science & technology                  |      | (16) | 17  |    |       | (15) |      |       |      |
| collective behavior & social movement |      | (16) | 18  | 13 | 21    |      | 9    | 23    | (16) |
| social change                         | 16   | 16   | 18  | 20 | 4     | 15   |      | 24    | 16   |
| globalization                         | (16) |      |     | 20 | 4     |      | 22   |       | 16   |
| life course                           | 4    |      |     | 4  | 9     | (3)  | (5)  | (5)   | 4    |
| media                                 |      |      | 3   |    | 18    |      |      |       | 6    |

ID

- 1 Andersen & Taylor 2016
- 2 Ballantine et.al 2018
- 3 Conley 2015
- 4 Giddens et al. 2016.
- 5 Giddens & Sutton 2017
- 6 Henslin 2017
- 7 Kornblum 2012
- 8 Macionis 2014
- 9 Schaefer 2015

## 第2群 社会の構造と機能

第2群は、社会の構造と機能に関するトピックとして、文化、社会、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制などを扱う部分である。Giddens & Sutton(2017)を除き、第2群が第1群のすぐあとにおかれていることは表3-11から明らかである。Giddens & Sutton (2017)だけが、第4章「グローバル化と社会変動」、第5章「環境」、第6章「都市と都市生活」と、他の教科書では最後に回している第5群のマクロなトピックから入っている。また、Giddens & Sutton (2017)は、第2群のトピックに抜けが多く、文化、社会、集団・組織を扱った独立した章が見当たらず、社会化は「ライフコース」の章に収められている。逸脱と社会統制は「犯罪と逸脱」として第20章という後ろから3番目に配置されている。つまり、Giddens & Sutton (2017)には、他の教科書に共通してみられる第2群(社会の構造と機能)自体が解体されているとってよい。

その他の教科書では、第2群のトピックは、文化、社会、社会化、社会的相互行為、集団と組織、逸脱と社会統制というまさにこの順序で並んでいる。しかし、この6つのトピックをそれぞれ独立した章として立てているのは、Macionis (2014)だけであり、「社会」を独自の章として立てているのは、Macionis 以外では Kornblum (2012)だけである。Kornblum (2012)は、「文化」の章に続けて第4章を「諸社会と諸国家」とし、ここまです導入部に含めている。Ballantine (2018)と Giddens et al. (2016)は、文化と社会をひとつの章にまとめている。Andersen & Taylor (2016)は、第5章「社会構造と社会的相互行為」で、「社会」から始めて「社会的相互行為」へと話を進めている。Conley (2015)、Henslin (2017)、Schaefer (2015)には、「社会」を扱う章はない。

このほか社会的相互行為と集団・組織をひとつの章にまとめているものが3冊ある(Ballantine et al. 2018、Kornblum 2012、Schaefer 2015)。Conley (2015)は、社会化と社会的相互行為をひとつの章にまとめている。

最も安定しているのは逸脱と社会統制であり、Giddens & Sutton (2017)を含めて、9冊すべてが独立の章を用意している。

要約すると、第2群のトピックは、文化、社会、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制の順番で出現するが、社会は、文化の章と組み合わせされたり省略されたりすることがあり、社会的相互行為は、社会化や集団・組織と組み合わせられてひとつの章を構成することがある。逸脱と社会統制は必ずひとつの独立した章としておかれている。

### 第3群 社会的カテゴリーと不平等

第3群は、社会階層、グローバルな階層化、人種とエスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、貧困に関する諸章である。これらは社会を構成する主要な社会的カテゴリーであり、たいていは不平等という視角から扱われている。ここでも Giddens & Sutton (2017)を除く8冊の教科書は、すべて第2群に続けて第3群のトピックをおいている。ただし、Giddens & Sutton(2017)の場合でさえ、第3群にあたるトピックは第12章から第16章まで（順序はともかくとして）連続的に配置されている。残りの8冊については、ほぼ分類枠組の想定している順序で章が配列されているが、若干のバリエーションがある。

社会階層とグローバルな階層化は、部に分かれている場合には、必ず部の冒頭におかれている（表3-11ではセクシュアリティが先行しているように見える Kornblum (2012)と Macionis (2014)は、いずれもセクシュアリティの章が第3部ではなく第2部におかれている）。しかし、社会階層とグローバルな階層化のどちらを先に出すかは、教科書によって異なっている。社会階層を先におくもの（Andersen & Taylor 2016, Giddens et al. 2016, Giddens & Sutton 2017, Macionis 2014, Schaefer 2015）が多いが、逆にグローバルな階層化を先におくもの（Henslin 2017, Kornblum 2012）もあり、両者をひとつの章にまとめているもの（Ballantine et al. 2018, Conley 2015）もある。いずれにしてもグローバルな階層化は必須のトピックといえる。

社会階層に続くのは、人種とエスニシティかジェンダーである。どちらを先におくかは教科書によって異なっている。人種とエスニシティを先におくものは、Andersen & Taylor (2016)、Ballantine et al. (2018)、Henslin (2017)、Kornblum (2012)、Schaefer (2015)、ジェンダーを先におくものは、Conley (2015)、Giddens et al. (2016)、Giddens & Sutton (2017)、Macionis (2014)である。さしあたり、両者の順序は互換的であるといつてよい。

すでに何度か触れたように、セクシュアリティの位置づけは多様である。Andersen & Taylor (2016)は、ジェンダーの章に続けてセクシュアリティの章をおいている。Giddens & Sutton (2017)は、ジェンダーとセクシュアリティをひとつの章にまとめている。Ballantine et al. (2018)は、ジェンダーの章のなかでセクシュアリティを扱っている。Schaefer (2015)は、セクシュアリティを家族の章で扱っているため、第3群というよりは第4群に付随する位置づけとなっている。そして、先述のように Kornblum (2012)と Macionis (2014)は、セクシュアリティを独立した章として扱っているものの、第3群ではなく第2群に位置づけている。したがって全体としてみたときに、社会学の教科書におけるセクシュアリティ

の位置づけには揺らぎがあり、いまのところ定まっていない。これは、セクシュアリティが人種やジェンダーに匹敵するような社会的カテゴリーとして確立されていないためであり、セクシュアリティが社会的カテゴリーとして確立されるにつれて、第3群に位置づけられるようになると思われる。

年齢についてもやや揺らぎがある。年齢に関する章を、人種・エスニシティやジェンダーに関する章のあとにおいているのは、Giddens et al. (2016)、Kornblum (2012)、Macionis (2014)の3冊にすぎない。このうちGiddens et al. (2016)とMacionis (2014)は、いずれもエイジング（加齢）を主題としており、Kornblum (2012)だけが「若者と高齢者の不平等」として年齢階層（age stratification）を扱っている。Henslin (2017)は、ジェンダーと年齢をひとつの章で扱っている。一方、Andersen & Taylor (2016)は、「社会化とライフコース」の章で、Giddens & Sutton (2017)は、「ライフコース」の章でエイジングを扱っている。Ballantine et al. (2018)とConley (2015)には、年齢を正面から扱った章や節は見当たらない。このように、社会学の教科書における年齢の扱いも、定まったものとはいえない。原始社会における社会秩序が基本的に性別（ジェンダー）と年齢にもとづくものであったことを考えると、年齢はジェンダーに匹敵する社会的カテゴリーとして扱われても不思議ではない<sup>1</sup>。しかし、欧米社会では、年齢はジェンダーほど属性主義的なカテゴリーとして強調されてこなかった。むしろ、長寿化によって近年、エイジングやエイジズムがトピックとして浮上しつつあるといえよう。その一方で、日本、中国、韓国など儒教文化を基層とする社会では、現在でも年齢は社会的相互行為においてさえ参照される重要な社会的カテゴリーでありつづけている。しかし、日本の社会学の教科書では、そもそも社会的諸カテゴリーを独立した章として扱うことが少なく、まして年齢を独立した章として扱っている教科書はほとんどない。

最後に社会階層の系として「貧困」の章がしばしば見受けられる。この位置づけも、教科書によって異なっている。Giddens & Sutton (2017)は、社会階層（「社会階層と社会階級」とグローバルな階層化（「グローバルな不平等」）のあいだに貧困に関する章（「貧困、社会的排除、福祉」）をおいている。Andersen & Taylor (2016)、Henslin (2017)、Macionis (2014)、Schaefer (2015)は、社会階層の章のなかに貧困に関する節を入れている。この3冊はいず

---

<sup>1</sup> やや古い教科書だが、Broom, Selznick, and Broom 1981では、第3部「大区分」として「年齢」(The ages)、「性別」(The sexes)、「マイノリティ」(The minorities)、「階級」(The classes)の4つの章がこの順番で配列されている。なお、すでにこの教科書でも標準的な5部構成をとっている。

れも、米国における社会階層との関連で貧困問題を取りあげている。Giddens et al. (2016) も、社会階層の章のなかの社会階層研究の節の一部で米国における貧困研究に触れている。Conley (2015)は、「階層」「ジェンダー」「人種」の章のあとで、あらためて「貧困」の章を立てている。貧困の女性化や人種差別にもとづく貧困を考えると、このような配列も合理的と思われるが、残念ながら Conley にはそのような記述は見られない。Kornblum (2012) は、グローバルな階層化を扱っている章のなかに「階層化とグローバルな貧困」という節をおいているほか、ジェンダーの章のなかで「貧困の女性化」についての記述がある。

要約すると、第 3 群では、社会階層、グローバルな階層化、人種とエスニシティ、ジェンダーの 4 つのトピックは定番であり、ほとんどの場合独立した章として扱われている。これに対して、セクシュアリティと年齢は、位置づけが不明確である。また、社会階層の系として貧困、とくに米国の貧困問題がトピックとしてとりあげられる傾向がある。

#### 第 4 群 社会制度の諸領域

第 4 群は、家族、宗教、教育、健康、経済、政治など社会制度の諸領域を扱う章からなる。Conley (2015)と Giddens & Sutton (2017)を除く 7 つの教科書が、この群に含まれる諸章をすべて第 3 群のあとに配置している。Conley は、健康の章を第 3 群の最後においている。Giddens & Sutton では、都市化のあとに経済を、ライフコースのあとに家族と健康の 2 章を、人種とエスニシティのあとに宗教を、メディアのあとに教育を、そして逸脱と社会統制のあとに政治に関する 2 章を配置しており、第 4 群としてのまとまりは成立していない。Henslin (2017)は、健康に関する章を欠いている。

Giddens & Sutton は別として、残りの 8 つの教科書についてみた場合でも、6 つの制度領域の配列順序は、一致していない。家族から始めているものが最も多く、Anderson & Taylor (2016)、Ballantine et al. (2018)、Conley (2015)、Kornblum (2012)、Schaefer (2015) の 5 冊、政治から始めているのは Henslin (2017)と Giddens et al. (2016)の 2 冊である。Macionis (2014)は経済から始めている。逆に第 4 群の最後におかれる章は健康であることが多く、Giddens et al.(2016)、Kornblum (2012)、Macionis (2014)、Schaefer (2015)の 4 冊がそうである。

章の立て方にもバリエーションがある。6 つの制度領域について、それぞれ独立の章を立てているのは、Conley (2015)、Giddens et al. (2016)、Kornblum (2012)、Macionis (2014) の 4 冊である。Ballantine et al. (2018)は、政治と経済をひとつの章にまとめ、Henslin

(2017)と Schaefer (2015)は双方とも、宗教と教育、政治と経済を、それぞれひとつの章にまとめている。Henslin は健康の章を欠いているので、第 4 群は 3 章構成となり、Schaefer は、健康の章を含めて 4 章構成となっている。最後に、Andersen & Taylor (2016)は、家族と宗教、教育と健康、政治と経済をそれぞれ組み合わせてひとつの章にまとめることによって、第 4 群を 3 章構成としている。

以上から、第 4 群は、典型的には、家族、宗教、教育、健康、経済、政治の 6 領域を挙げ、その配列順序にはバリエーションがあるものの、家族から始めて健康で終わることが多く、政治と経済、宗教と教育など 2 つのトピックを組み合わせる場合もある。

## 第 5 群 社会変動

第 5 群は、人口、都市化、環境、科学・技術、集合行動と社会運動、社会変動（伝統、近代、脱近代）、グローバル化など、しばしば「社会変動」として括られることの多いマクロなトピックを扱っている諸章である。表 3-11 から明らかなように、これらのトピックは、典型的には教科書の最後のほうにおかれ、2 ないし 3 つの章にまとめられている。

すでに述べたように Giddens & Sutton (2017)だけは、このパターンから完全に逸脱し、マクロなトピックを導入部のすぐあとに位置づけるとともに、社会運動を政治に関する章（第 21 章「政治、政府、社会運動」）に配置している。また、Giddens et al.(2016)も社会運動の章を第 3 部のなかの「政治」に関する章でまとめて扱っている。それ以外では、Kornblum (2012)が、集合行動と社会運動を第 2 群に位置づけている<sup>2</sup>。

第 5 群のトピックを扱う典型的なパターンは、人口、都市化、環境をひとつの章に収め

---

<sup>2</sup> なぜ Kornblum が集合行動と社会運動を扱う章を第 9 章「集合行動、社会運動、マス公衆」として第 2 部「社会動態」においたのかははっきりしない。ことによるとこれは、彼がシカゴ大学出身であることと関係があるかもしれない。Giddens & Sutton (2017)は別として、他の教科書が、形式上、第 2 部を文化、社会化、社会的相互行為、社会統制など、Parsons (1951)の構造・機能分析において鍵となるトピックで構成し、それゆえ第 5 部を「社会変動」、つまり構造維持のメカニズムと区別された社会構造の変動として Parsons 流に配列しているのに対して（この場合、集合行動は変動論として扱われる）、Kornblum は、シカゴ社会学のキーワードのひとつである「集合行動」を第 8 章「逸脱と社会統制」の直後にもってくるのと同時に、第 5 部を「社会変動」(social change)ではなくあえて「社会の連続性と変化」(social continuity and change)として、第 21 章「人口、都市化、環境」（とオプションである第 22 章「グローバルな社会変動」）をおいたと考えることもできる。「連続性と変化」は、彼のシカゴの同僚である Albert Hunter (1971)の「コミュニティの持続と変化」(persistent and change)を連想させる。もちろん教科書であるから、現代社会学の水準に即して、たとえば「社会化」の章をおいたり「セクシュアリティ」の章をおいたり、「集合行動」とともに「社会運動」をとりあげたりするわけであるが、個々のトピックの束ね方に、著者の見方が暗に示されている可能性があるように思われる。

ることである (Ballantine et al. 2016, Giddens et al. 2016, Kornblum 2012, Macionis 2014)。この場合、残りのトピックの扱い方にはバリエーションがある。Ballantine は、科学・技術、社会運動、社会変動をもうひとつの章にまとめている。Giddens et al. は、社会変動とグローバル化をもうひとつの章にしている。Kornblum は、オプションとしてグローバル化の章を用意しているが、事実上、「人口、都市化、環境」を最終章としている。Macionis は、「集合行動と社会運動」の章と「社会変動」の章をそれぞれ独立させているが、科学・技術については扱っていない。

Henslin (2017) は、「人口と都市化」をひとつの章にまとめ、環境、科学・技術、社会変動をもうひとつの章「社会変動と環境」にまとめている (社会運動の扱いはきわめて限定的である)。Andersen & Taylor (2016) は、第 5 部「社会変動」を第 16 章「環境、人口、社会変動」のひとつの章だけで構成し、そのなかで都市化、集合行動、社会運動、グローバル化などのキーワードにも言及している。

一方、Schaefer (2015) は、人口と都市化は扱わず、環境と健康をあわせてひとつの章にしているので、社会変動を扱っているのは事実上、最終章「グローバルコミュニティにおける社会変動」だけである。ここでは社会運動と技術についても節が設けられている。Conley (2015) も人口と都市化は扱わず、環境と科学・技術をあわせてひとつの章 (「科学、環境、社会」)、社会運動と社会変動をあわせて最終章 (「集合的行為、社会運動、社会変動」) としている。

要約すると、第 5 群の章構成にはかなりバリエーションがあるものの、典型的には、人口、都市化、環境をひとつの章にまとめ、集合行動・社会運動と社会変動をひとつの章で扱う場合が多い。ただし、集合行動と社会運動の扱いには若干の揺らぎがあり、第 2 群あるいは第 3 群の政治に含める場合がある。そしてほとんどの教科書が、社会変動を扱う章で結んでいる。

#### 第 6 群 (残余)

以上の分類には収まらないトピックがふたつある。ライフコースとメディアである。章のタイトルとしてライフコースの語をつかっているのは、Andersen & Taylor (2016)、Giddens et al. (2016)、Giddens & Sutton (2017)、Schaefer (2015) の 4 冊である。このうち、Giddens & Sutton は特異な構成を示しており、「社会化」の章はなく、第 8 章「社会的相互行為と日常生活」のあと、第 10 章「家族と親密な関係」のまえにライフコースを独

立した章としておいている。残りの3冊は、「社会化とライフコース」として、第2群の社会化と組み合わせて扱っている。Henslin (2017)、Kornblum (2012)、Macionis (2014)の3冊は、社会化の章のなかにライフコースの節をおいているので、ライフコースを扱うとすれば、社会化と併せて扱われるのが標準的なパターンといえる。

メディアについて、章として扱っているのは、Conley (2015)、Giddens & Sutton (2017)、Schaefer (2015)の3冊だけである。Conley は、メディアを第2群に位置づけ、第3章「文化とメディア」として文化と一緒に扱っている。Schaefer も、第5章「社会的相互行為、集団、社会構造」と第7章「逸脱、犯罪、社会統制」のあいだに第6章「マスメディア」を配置しているので、いちおう第2群の位置づけである。Giddens & Sutton は、ここでも特異であり、第17章「宗教」と第19章「教育」のあいだに第18章「メディア」を独立した章としておいている。社会学の教科書でメディアの章がほとんどないのは、これが社会学以外の分野であると考えられているからかもしれない。

### 3. 結論

本章では、9冊の教科書の目次を手がかりに、部と章の構成を分析し、そこから標準的なパターンを抽出した。9つの教科書のうち6つは、ひとつ以上の章を部にまとめていた。6つのうちの5つまでは5部に、残りのひとつは3部にまとめられていた。

5部構成の場合、標準的なパターンは、次のようなものであった。第1部は導入部で、典型的には、理論的視点の導入と方法論に関する章から構成されていた。第2部は、社会の構造と機能にかかわるトピックから構成されていた。文化、社会、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制などである。第3部は、主要な社会的カテゴリーを不平等の視角から扱うものであった。社会階層、グローバルな階層化、人種とエスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、貧困などである。第4部は社会の諸制度を扱うもので、家族、宗教、教育、健康、経済、政治などの章からなっていた。そして、第5部は、社会変動に関するトピックとして、人口、都市化、環境、科学・技術、集合行動と社会運動、社会変動、グローバル化などのトピックを扱う章からなっていた。3部構成の場合も、内容的な5部構成に類似しており、5部構成の第1部と第2部、第4部と第5部を合体したものと考えられた。

つぎに、部に分かれていない残りの3つの教科書も含めて、9つの教科書の章構成をより詳細にみるために、章のタイトルを手がかりに30のトピックを抽出し、6つの群に分類し



た。6つの群のうちの5つまでは、5部構成の枠組であり、残りひとつは残余カテゴリーとして残した。9つの教科書の各章をこの分類枠組にそって分類し、トピックの組み合わせと配列を検討した結果、つぎのような標準パターンとバリエーションを見いだすことができた。

#### 第1部 社会学的視点と方法論に関する導入部

標準的には、理論的視点の導入と研究方法論を扱う2章からなる。

#### 第2部 社会の構造と機能

標準的には、文化と社会、社会化、社会的相互行為、集団・組織、逸脱と社会統制の5つの章からなる。バリエーションとしては、社会を独立した章として扱う場合、社会化とライフコースを組み合わせるとひとつの章として扱う場合、社会的相互行為と集団・組織を組み合わせるとひとつの章として扱う場合がある。

#### 第3部 不平等

主要な社会的カテゴリーを不平等の視点から扱うもので、社会階層、グローバルな階層化、人種とエスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、貧困などのトピックが挙げられる。このうち、グローバルな階層化は、社会階層の一部としてとりあげられる場合もあるものの、独立した章として位置づけられるほうが多い。セクシュアリティは、第3部に独立した章としておかれる場合のほかに、ジェンダーと並列的に組み合わせられる場合、ジェンダーの章のなかで扱われる場合、さらに第2部で逸脱の章のまえに独立した章としておかれる場合、第3部で家族に付随して扱われる場合などがあり、その位置づけには揺らぎがある。また、年齢はしばしばエイジングとして扱われており、年齢を重要な社会的カテゴリーとみて年齢階層として扱われる場合は少ない。貧困は社会階層の系として、社会階層の章のなかで触れられることが多い。

#### 第4部 社会制度

社会の主要な制度領域について扱う部分で、標準的には、家族、宗教、教育、健康（保健）、経済、政治の6つのトピックがとりあげられる。このうち、家族と宗教、宗教と教育、教育と健康、政治と経済などは、組み合わせるとひとつの章とされる場合もある。健康は、とりあげられなかったり、別の部に位置づけられたりする場合もある。トピックの配列にもバリエーションがあり、家族から始める場合と政治・経済から始める場合があり、健康は、最後におかれる場合も多い。

#### 第5部 社会変動

標準的には、最後に社会変動に関するトピックがおかれる。人口、都市化、環境、科学・技術、集合行動と社会運動、社会変動、グローバル化などである。典型的には、これらのトピックは組み合わせられて、2つか3つの章にまとめられるため、章構成にバリエーションが多い。人口、都市化、環境は、ひとつの章にまとめられることが多い。科学・技術が単独で扱われることはなく、扱うとすれば環境と組み合わせる場合が多い。集合行動・社会運動は社会変動と組み合わせられるほか、第3部の政治の一部に組み込まれる場合や第2部の逸脱と社会統制のあとに配置される場合もみられた。グローバル化も、とりあげられるとすれば社会変動と結びつけられることが多い。

当初、残余カテゴリーとして抽出されたライフコースは、典型的には社会化と組み合わせられていることが判明した。またメディアを独立した章としておいている教科書は2つしかなく、その位置づけもはっきりしなかった。

ここでとりあげた9冊の教科書は、いずれも「社会学101」での利用を想定した標準的な教科書であるから、特定の理論的視点から編集されたものではない。多くの教科書は、典型的には、構造-機能主義（またはたんに機能主義）、闘争理論（マルクス主義、フェミニズム理論など）、シンボリック相互作用論（現象学的社会学やエスノメソドロジーを含む）の3つの理論的視点を紹介し、比較・対照している。それにもかかわらず、典型的には5部構成にまとめられるトピックの配列は、形式的には、Parsonsの構造-機能主義の理論枠組に準拠していると考えられる。第1部の導入部は別として、第2部は、文化、社会化、社会構造、逸脱と社会統制など、社会体系の構造と機能に関わるトピックによって構成されている。第3部は、社会構造を構成する地位体系に焦点が当てられている。第4部は、Parsons流に言えばAGIL図式にあたる部分である。経験的体系は、AGIL図式に1対1に対応しないものの、家族、宗教、教育はL、政治はG、経済はAに対応する。I（社会共同体）は、第2部の社会ですでに扱われている。健康の位置づけが不安定なものも、AGIL的な発想が底流にあるためと見ることもできる。第5部が社会変動となるのも、Parsons流の発想によるもので、第2部で扱った構造維持のメカニズムと社会構造の変動とが区別されるからである。このように考えると、米国の標準的な教科書の基本的な構成の底流には、なお形式上、構造-機能主義の発想があるように思われる。また、第2部を「社会動態」として「集合行動、社会運動、マス公衆」の章を「逸脱と社会統制」の章のうしろにおき、第5部を「社会の連続性と変動」として「人口、都市化、環境」の章で終えたKornblum (2012)には、シカゴ流のバリエーションが感じられた。

また分析の過程で、Giddens & Sutton (2017)が、ここで抽出された標準パターンから逸脱した特異な構成をとっていることも明らかとなった。Giddens & Sutton (2017)は、今回とりあげた教科書のなかで唯一、英国での使用を想定した教科書であるが、その構成は、大まかには、第1群、第5群、第3群、第4群の順序となっており、第2群はほとんど解体され、第4群もひとつのまとまりをなしていなかった。同じGiddensによるGiddens et al. (2016)——こちらは米国で使用することを想定している——が、標準パターンに近似していることを考えると、Giddens & Suttonがいかに特異であるかがわかる。相互行為のようなミクロな状況が孤立して存在するわけではなく、それ自体がグローバルな文脈によって制約されていることを考えると、導入部に続いて第5群のトピックを配置するのも、ひとつの考え方である。Giddens & Suttonは、邦訳のあるギデンズ『社会学 第5版』（Giddens 2006）に後続する第8版であり、第5版のほうがいくらか標準パターンに近い構成になっている。Giddensは、標準パターンを承知のうえで意図的に新しい構成を模索しているのかもしれない。

ここで抽出された標準パターンは、少なくとも米国ではデファクト・スタンダードになっていると考えてよい。これがグローバル・スタンダードといえるかどうかは、海外の他の諸国・諸地域で社会学がどのように教えられているか——教科書がどのように編集されているか——を調べてみる必要がある。しかし、途上国も含めて文字通りグローバルに考えると、大学教育の方法に関して米国の影響力はきわめて大きいと思われる。米国の大学教育の規模と質から考えて、世界各地の指導的な大学教員に、米国留学経験者が圧倒的に多いと推測されるからである。少なくとも、日本の大学教育におけるグローバル化とは、米国流の組織的・体系的教育を導入することを意味している。その意味では、米国で「社会学 101」がどのように教えられているかを知ることはきわめて重要であるといわざるをえない。

本章では、社会学の教科書の構成について、標準的なパターンを抽出した。次章では、9冊の教科書で指定されているキータームの分析に進む。

#### 参考文献

Andersen, Margaret and Howard Taylor, 2016. *Sociology: The Essentials*. 9th edition. Cengage Learning.

Broom, Leonard, Philip Selznick, and Dorothy Broom Darroch. 1981. *Sociology: A Text*

- with Adapted Readings*. 7th edition. New York: Harper & Row. (今田高俊監訳『社会学』ハーベスト社、1987年)
- Ballantine, Jeanne H., Keith A. Roberts, and Kathleen Odell Korgen. 2018. *Our Social World: Introduction to Sociology*. 6th edition. Sage.
- Conley, Dalton. 2015. *You May Ask Yourself: An Introduction to Thinking Like a Sociologist*. 4th edition. W. W. Norton.
- Giddens, Anthony. 2006. *Sociology*. 5th edition. Polity. (松尾精文ほか訳『社会学 第5版』而立書房、2009年)
- Giddens, Anthony, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum, and Deborah Carr. 2016. *Introduction to Sociology*. 10th edition. W.W. Norton.
- Giddens, Anthony and Philip W. Sutton. 2017. *Sociology*. 8th edition. Polity.
- Henslin, James M. 2017. *Essentials of Sociology: A Down-To-Earth Approach*. 12th edition. Pearson.
- Hunter, Albert. 1974. *Symbolic Communities: The Persistence and Change of Chicago's Local Communities*. The University of Chicago Press.
- Kornblum, William in collaboration with Carolyn D. Smith. 2012. *Sociology in a Changing World*. 9th edition. Wadsworth.
- Macionis, John J. 2014. *Sociology*. 15th edition. Pearson.
- Parsons, Talcott. 1951. *The Social System*. New York: Free Press. (佐藤勉訳『社会体系論』青木書店、1974年)
- Schaefer, Richard T. 2015. *Sociology: A Brief Introduction*. 11th edition. McGraw-Hill.

(松本 康)

## 第4章 比較分析(2)——キータームの分析

前章では、9つの教科書の目次を手がかりに、章構成の標準的なパターンを抽出した。本章では、これらの教科書でキータームとして扱われている用語を抽出し、キータームとして指定される頻度の高い用語を集めた「社会学用語集」を作成することをめざす。

### 1. キータームの抽出

まず9つの教科書からどのようにしてキータームを抽出したかを述べる。

Andersen & Taylor (2016)では、本文中で太字(**bold**)になっている用語が、章末にキータームとして示されており、さらに巻末の用語集 (Glossary) に掲載されていた。本文中の太字になっている用語と、章末のキータームと、巻末の用語集に掲載されている用語はすべて一致していた。しかし、逆に用語集に掲載されている用語で、本文中で太字になっていない用語がひとつだけあった。これも含めて、巻末の用語集に掲載されている用語をすべてキータームとして抽出した。

Ballantine et al. (2018)では、本文中に太字になっている用語と、巻末の用語集に掲載されている用語がすべて一致していたので、これらをキータームとして抽出した。

Conley (2015)では、本文中に黄色の蛍光ペンが引かれている用語と、本文中の欄外に語句説明のある用語と、巻末の用語集に掲載されている用語が、すべて一致していたので、これらの用語をキータームとして抽出した。

Giddens et al. (2016)では、本文中に太字になっている用語と、本文中のコラム (box) で語句説明が掲載されている用語と、巻末の用語集に掲載されている用語が、すべて一致していたので、これらの用語をキータームとした。

Giddens & Sutton (2017)では、本文中で青字になっている用語と、巻末の用語集に掲載されている用語が候補となったが、両者は必ずしも一致していなかった。用語集に掲載されている用語が本文中のどこに見いだせるのかを調べるために索引 (index) を参照しても、用語集のページしか指示していない場合もみられた。結局、語句説明のある巻末の用語集に掲載されている用語をキータームとして抽出した。そのため、Giddens & Sutton にかぎり、抽出されたキータームがどの章で扱われているかが特定できない場合がある。

Henslin (2017)では、本文中で太字になっている用語と、本文の欄外に語句説明がある用語と、巻末の用語集に掲載されている用語がすべて一致していたので、これらの用語をキ

一タームとして抽出した。

Kornblum (2012)では、本文中のコラムに語句説明がある用語と、巻末の用語集に掲載されている用語が一致していたので、これらの用語をキータームとして抽出した。

Macionis (2014)では、本文中で太字になっている用語が、本文中の欄外で語句説明されており、さらに章末に再掲されていた。これらの用語と、巻末の用語集に掲載されている用語がすべて一致していたので、これらをキータームとした。

Schaefer (2015)では、本文中で太字になっている用語と、章末にキータームとして語句説明されている用語と、巻末の用語集に掲載されている用語がすべて一致していたので、これらの用語をキータームとした。

結局、9つの教科書すべてについて、キータームは、巻末の用語集に掲載されている用語とすることとした。

抽出作業は次のような手順で行った。まず各委員が分担して、教科書ごとに章(chapter)・節(section)の構成表を作成し、本文からキータームを抽出して、その用語が言及されている節の欄に記入するとともに、章ごとにキータームを整理した。分担は、石井が Andersen & Taylor (2016)、今井が Ballantine et al. (2018)、松本が Conley (2015)と Macionis (2014)、宮坂が Giddens et al. (2016)、眞鍋が Giddens & Sutton (2017)、西村が Henslin (2017)、白鳥が Kornblum (2012)、高瀬が Schaefer (2015)とした。つぎに松本が9冊すべてについて、それぞれ巻末の用語集と照合してデータクリーニングを行った。クリーニングの対象は、キータームとそれが言及されている章の番号とした。それ以降の作業は、すべて松本によるものである。

以上の手順によって確定された教科書別のキータームの数は、表 4-1 のとおりである。最も多いのが Giddens & Sutton で 649、最も少ないのが Ballantine で 209、重複を含めて延べ 3,523 項目が抽出された。1冊平均約 390 のキータームが指定されていたことになる(同じ教科書のなかでの重複は取り除いてある)。

つぎに抽出された 3,523 のキータームから、教科書間の重複を除くと 1,712 項目となった。ただし、なにを重複とみなすかによって、この数字は変化する。単数形と複数形、米語表記と英語表記 (aging と ageing)、ハイフン付きとハイフンなし (たとえば role-taking と role taking)、一単語とするか複数の単語に分ける

表4-1 教科書別のキーターム数

|                   |       |
|-------------------|-------|
| Andersen & Taylor | 412   |
| Ballantine        | 209   |
| Conley            | 318   |
| Giddens & Sutton  | 649   |
| Giddens,et.al     | 452   |
| Henslin           | 406   |
| Kornblum          | 285   |
| Macionis          | 411   |
| Schaefer          | 381   |
| total             | 3,523 |
| means             | 391.4 |

か（たとえば counterculture と counter culture）は、同一とみなした。そのほか表記が異なっている場合でも内容的に同義である場合にも同一とみなした。たとえば、dramaturgical approach と dramaturgical analysis, dramaturgical theory, dramaturgy の4つは同義とみなし、筆者の判断で dramaturgical approach の語を採用した。また、rational-legal authority, legal-rational authority, legal authority も同一とみなし、rational-legal authority の語を採用した等々（詳しくは巻末資料の第3列を参照）。

## 2. キータームのランキング

このようにして表記を統一して重複を除いた 1,712 項目をアルファベット順に配列し、言及数（9つのうちいくつの教科書でキータームとされているか）を一覧表で示した（巻末資料）。ただしある教科書である用語がキータームに指定されていないからといって、必ずしもその教科書でその用語が言及されていないということにはならない。

つぎに、この一覧表を言及数によって降順にソートすることによって、キータームを言及数によってランキングした。言及数ごとのキーターム項目数は、表4-2のとおりである。Giddens & Sutton が特異であり、キーターム数が多いこと、また分析対象に Giddens が関わっている教科書が 2 つあり両者のあいだで重複が多いことなどを考慮しても、5つ以上の教科書にキータームとして言及のある用語は、半数以上の教科書で言及されていることになる。そこで、言及数 5 以上のキーターム 203 項目を言及頻度の高い用語として、言及数別に一覧表にした（表 4-3～表 4-7）。

表4-2 言及数別のキーターム項目数

| 言及数 | 項目数   | 累積度数  |
|-----|-------|-------|
| 9   | 20    |       |
| 8   | 33    | 53    |
| 7   | 40    | 93    |
| 6   | 53    | 146   |
| 5   | 57    | 203   |
| 4   | 68    | 271   |
| 3   | 103   | 374   |
| 2   | 281   | 655   |
| 1   | 1,057 | 1,712 |

表 4-3 言及数9のキーワード一覧（20項目）

|   |                   |                     |
|---|-------------------|---------------------|
| 9 | anomie            |                     |
| 9 | authority         |                     |
| 9 | bureaucracy       | bureaucraciesを含む    |
| 9 | crime             |                     |
| 9 | culture           |                     |
| 9 | deviance          | social devianceを含む  |
| 9 | discrimination    |                     |
| 9 | ethnocentrism     |                     |
| 9 | extended family   |                     |
| 9 | generalized other |                     |
| 9 | hypothesis        |                     |
| 9 | norms             | normを含む             |
| 9 | nuclear family    |                     |
| 9 | power             |                     |
| 9 | prejudice         |                     |
| 9 | reference group   | reference groupsを含む |
| 9 | social mobility   |                     |
| 9 | socialization     |                     |
| 9 | status            |                     |
| 9 | subculture        | subculturesを含む      |



表 4-4 言及数 8 のキーターム一覧(33 項目)

|   |                       |                                       |
|---|-----------------------|---------------------------------------|
| 8 | achieved status       |                                       |
| 8 | alienation            |                                       |
| 8 | ascribed status       |                                       |
| 8 | capitalism            |                                       |
| 8 | cultural relativism   | cultural relativityを含む                |
| 8 | dependent variable    |                                       |
| 8 | gender                |                                       |
| 8 | genocide              |                                       |
| 8 | independent variable  |                                       |
| 8 | labeling theory       |                                       |
| 8 | master status         |                                       |
| 8 | material culture      |                                       |
| 8 | organic solidarity    |                                       |
| 8 | patriarchy            |                                       |
| 8 | primary group         | primary groupsを含む                     |
| 8 | profane               |                                       |
| 8 | race                  |                                       |
| 8 | racism                |                                       |
| 8 | religion              |                                       |
| 8 | sacred                |                                       |
| 8 | sample                |                                       |
| 8 | secondary group       | socondary groupsを含む                   |
| 8 | sect                  | sectsを含む                              |
| 8 | sex                   |                                       |
| 8 | social change         |                                       |
| 8 | social movement       | social movementsを含む                   |
| 8 | social network        | social networks, network, networksを含む |
| 8 | social stratification | stratificationを含む                     |
| 8 | social structure      |                                       |
| 8 | society               |                                       |
| 8 | sociology             |                                       |
| 8 | total institution     | total institutionsを含む                 |
| 8 | values                | valueを含む                              |

表 4-5 言及数7のキーワード一覧（40項目）

|   |                          |  |
|---|--------------------------|--|
| 7 | absolute poverty         |  |
| 7 | agents of socialization  | agencies of socialization, socialization agentsを含む           |
| 7 | assimilation             |  |
| 7 | church                   | churchesを含む  |
| 7 | cult                     | cultsを含む   |
| 7 | cultural capital         |  |
| 7 | democracy                |  |
| 7 | denomination             |  |
| 7 | endogamy                 |  |
| 7 | ethnomethodology         |  |
| 7 | family                   |  |
| 7 | gender roles             | gender roleを含む   |
| 7 | homophobia               |  |
| 7 | ideology                 | ideologiesを含む  |
| 7 | income                   |  |
| 7 | in-group                 | in-groupsを含む   |
| 7 | life expectancy          |  |
| 7 | mechanical solidarity    |  |
| 7 | monogamy                 |  |
| 7 | out-group                | out-groupsを含む  |
| 7 | participant observation  | participant observation (field work)を含む                      |
| 7 | pluralism                |  |
| 7 | polygamy                 |  |
| 7 | relative poverty         |  |
| 7 | resocialization          |  |
| 7 | role                     | rolesを含む   |
| 7 | role conflict            |  |
| 7 | role strain              |  |
| 7 | segregation              |  |
| 7 | social institution       | social institutions, institutionを含む                          |
| 7 | social interaction       |  |
| 7 | sociological imagination |  |
| 7 | stigma                   |  |
| 7 | symbol                   |  |
| 7 | symbolic interactionism  | symbolic interaction theory/symbolic-interaction approachを含む |
| 7 | technology               |  |
| 7 | urbanization             |  |
| 7 | variable                 | variablesを含む   |
| 7 | wealth                   |  |
| 7 | white-collar crime       | white-collar (or occupational) crimeを含む                      |

表 4-6 言及数6のキーターム一覧 (53項目)

|   |                            |   |
|---|----------------------------|---|
| 6 | ageism                     |   |
| 6 | charismatic authority      |   |
| 6 | class consciousness        |   |
| 6 | class system               | class systemsを含む  |
| 6 | cohabitation               |   |
| 6 | colonialism                |   |
| 6 | communism                  |   |
| 6 | conflict theory            | conflict theoriesを含む  |
| 6 | correlation                |   |
| 6 | counterculture             | counter culture, counterculturesを含む                         |
| 6 | crude birth rate           | crude birthrate/crude birthratesを含む                         |
| 6 | crude death rate           | crude death ratesを含む  |
| 6 | demography                 |   |
| 6 | dramaturgical approach     | dramaturgical analysis, dramaturgical theory, dramaturgyを含む |
| 6 | dyad                       |   |
| 6 | exogamy                    |   |
| 6 | formal organization        | formal organizationsを含む                                     |
| 6 | <i>Gemeinschaft</i>        |   |
| 6 | <i>Gesellschaft</i>        |   |
| 6 | glass ceiling              |   |
| 6 | hidden curriculum          |   |
| 6 | impression management      |   |
| 6 | interest group             | special-interest groupとは別カウント                               |
| 6 | intergenerational mobility | intergenerational social mobilityを含む                        |
| 6 | latent functions           | latent functionを含む  |
| 6 | manifest functions         | manifest functionを含む  |
| 6 | mass media                 |   |
| 6 | meritocracy                |   |
| 6 | minority group             | minority groupsを含む  |
| 6 | nonmaterial culture        |   |
| 6 | polyandry                  |   |
| 6 | polygyny                   |   |
| 6 | population                 |   |
| 6 | proletariat                | proletariansを含む   |
| 6 | rational-legal authority   | legal-rational authority, legal authorityを含む                |
| 6 | ritual                     | ritualsを含む  |
| 6 | secularization             |   |
| 6 | self                       |   |
| 6 | sexual harassment          |   |
| 6 | sick role                  |   |
| 6 | significant other          | significant othersを含む                                       |
| 6 | slavery                    |   |
| 6 | social control             |   |
| 6 | socialism                  |   |
| 6 | state                      |   |
| 6 | stereotype                 | stereotypesを含む  |
| 6 | survey                     |   |
| 6 | terrorism                  |   |
| 6 | theory                     | theoriesを含む   |
| 6 | tracking                   |   |
| 6 | traditional authority      |   |
| 6 | triad                      |   |
| 6 | underclass                 | urban underclassを含む   |

表 4-7 言及数5のキーターム一覧 (57項目)

|   |                            |   |
|---|----------------------------|---|
| 5 | anticipatory socialization |   |
| 5 | caste system               | caste systemsを含む  |
| 5 | collective behavior        | collective behaviourを含む   |
| 5 | corporate crime            |   |
| 5 | cultural lag               | culture lagを含む  |
| 5 | culture of poverty         |   |
| 5 | dependency theory          | dependency theoriesを含む  |
| 5 | disengagement theory       |   |
| 5 | division of labor          |   |
| 5 | economy                    |   |
| 5 | education                  |   |
| 5 | ethnicity                  | ethnicity (and ethnic)を含む   |
| 5 | feminism                   |   |
| 5 | feminist theory            | feminist theories, gender-conflict theory (feminist theory)を含む    |
| 5 | feminization of poverty    |   |
| 5 | folkways                   | folkwayを含む  |
| 5 | functionalism              | structural functionalismとは別カウント                                   |
| 5 | globalization              |   |
| 5 | group                      | groupsを含む   |
| 5 | hate crime                 | hate crimesを含む  |
| 5 | ideal type                 |   |
| 5 | infant mortality rate      |   |
| 5 | intragenerational mobility | intragenerational social mobilityを含む                              |
| 5 | kinship                    |   |
| 5 | language                   |   |
| 5 | life course                |   |
| 5 | looking-glass self         |   |
| 5 | macrosociology             |   |
| 5 | megalopolis                |   |
| 5 | microsociology             |   |
| 5 | modernization              |   |
| 5 | modernization theory       |   |
| 5 | monarchy                   | monarchiesを含む   |
| 5 | monopoly                   |   |
| 5 | mores                      |   |
| 5 | multinational corporation  | multinational corporationsを含む                                     |
| 5 | nationalism                |   |
| 5 | nonverbal communication    | non-verbal communicationを含む                                       |
| 5 | oligarchy                  |   |
| 5 | organized crime            |   |
| 5 | peer group                 |   |
| 5 | politics                   |   |
| 5 | primary deviance           | primary deviationを含む  |
| 5 | random sample              | random samplingを含む  |
| 5 | relative deprivation       |   |
| 5 | reliability                |   |
| 5 | research methods           |   |
| 5 | sanction                   | sanctionsを含む  |
| 5 | scapegoat                  | scape goating, scape goatsを含む                                     |
| 5 | science                    |   |
| 5 | secondary deviance         | secondary deviationを含む  |
| 5 | sociobiology               |   |
| 5 | socioeconomic status(SES)  |   |
| 5 | status set                 |   |
| 5 | structural mobility        | structural social mobilityを含む                                     |
| 5 | validity                   |   |
| 5 | world-systems theory       | world system theory/world-system theory/world systems analysisを含む |

### 3. 言及数 5 以上のキータームと言及されている分野

最後に、言及数 5 以上のキーターム 203 項目について、教科書のどの章でキータームとされているかを明らかにするために、教科書ごとにキータームの指定されている章を特定した。その際、教科書によって章構成が異なるので、それぞれのキータームの言及分野を、前章で作成した 30 のトピック・カテゴリー (pp.37-38 参照) によって分類した。キータームによって、それを指定しているどの教科書も同じトピックに配置している (教科書間で一致度が高い) 場合もあれば、いくつかのトピックに分かれる場合もあった。その全体像は、キーターム 203×トピック 30 のクロス表で示すことができるものの、当然、ゼロセルが多くなり扱いにくくなる。そこで、30 のトピックごとに教科書間で言及頻度の高い (一致度の高い) キータームを選び出すことにした。ここでは一致度を、総言及数  $N$  (そのキータームに言及している教科書の数) に対するそのトピックでの言及数  $n$  (そのキータームを当該トピックでとりあげている教科書の数) の比 ( $n/N$ ) によって示す。 $N$  と  $n$  を絶対値 (言及数) で示すことによって言及頻度も同時に表示できるようにした。ただし、同じキータームをひとつの教科書のなかの複数の章で指定している場合や、キータームが巻末の用語集に掲載されているだけで本文での言及箇所を特定できない場合もあるから、あるキータームについてトピックごとの一致度の合計は、1 になるとは限らないことに注意が必要である。以下では、その結果をトピックごとに詳しく見ることにしよう。

#### (1) 社会学的視点

|                          |  |
|--------------------------|--|
| conflict theory          | conflict theoriesを含む   |
| feminist theory*         | feminist theories, gender-conflict theory (feminist theory)を含む |
| functionalism            | structural functionalismとは別カウント                                |
| ideology*                | ideologiesを含む  |
| latent functions         | latent functionを含む   |
| macrosociology           |  |
| manifest functions       | manifest functionを含む   |
| microsociology           |  |
| organic solidarity*      |  |
| social institution*      | social institutions, institutionを含む                            |
| social structure         |  |
| sociological imagination |  |
| sociology                |  |
| symbolic interactionism  | symbolic interaction theory/symbolic-interaction approachを含む   |
| theory                   | theoriesを含む  |
| anomie**                 |  |
| division of labor**      |  |
| ideal type**             |  |
| proletariat**            | proletariansを含む  |
| social interaction**     |  |
| society**                |  |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

導入部の社会学的視点で言及されているキータームは、上記の 15 項目（第二位を含めると 21 項目である）。「社会学」(8/8) は当然としても、「社会学的想像力」の言及数・一致度は高い(7/7)。つぎに「理論」(4/6)「機能主義」(5/5)「コンフリクト理論」(4/6)「シンボリック相互作用論」(5/7)に言及するのが定番である。「フェミニスト理論」(3/5)は、ここで言及される場合と、ジェンダーで言及される場合(3/5)がある。また「イデオロギー」(2/7)は、文化(2/7)、社会化(2/7)で触れられる場合もあり、教科書によってまちまちである。

さらに「マクロ社会学」(4/5)と「ミクロ社会学」(4/5)、「顕在的機能」(4/6)と「潜在的機能」(4/6)、「社会構造」(5/8)などのキータームがここで触れられることが多い。

## (2)社会学方法論

|                         |   |
|-------------------------|---|
| correlation             |   |
| dependent variable      |   |
| hypothesis              |   |
| independent variable    |   |
| participant observation | participant observation (field work)を含む |
| population              |   |
| random sample           | random samplingを含む                      |
| reliability             |   |
| research methods        |   |
| sample                  |   |
| science                 |   |
| survey                  |   |
| validity                |   |
| variable                | variablesを含む                            |
| theory**                | theoriesを含む                             |

\*\*は第二順位

方法論でキータームとされているのは、「変数」(7/7)、「独立変数」(8/8)、「従属変数」(8/8)、「仮説」(8/9)、「母集団」(6/6)、「サンプル」(8/8)、「ランダムサンプル」(5/5)、「信頼性」(5/5)、「妥当性」(5/5)、「相関関係」(6/6)、「調査方法」(5/5)、「大量調査」(6/6)、「参与観察」(7/7)などで一致度は高い。「科学」(2/5)も方法論の文脈でキータームとされることが多い。

### (3)文化

|                     |                                     |
|---------------------|-------------------------------------|
| counterculture      | counter culture, counterculturesを含む |
| cultural lag*       | culture lagを含む                      |
| cultural relativism | cultural relativityを含む              |
| culture             |                                     |
| ethnocentrism       |                                     |
| folkways            | folkwayを含む                          |
| ideology*           | ideologiesを含む                       |
| language            |                                     |
| material culture    |                                     |
| mores               |                                     |
| nonmaterial culture |                                     |
| norms               | normを含む                             |
| sanction*           | sanctionsを含む                        |
| sociobiology        |                                     |
| subculture          | subculturesを含む                      |
| symbol              |                                     |
| technology          |                                     |
| values              | valueを含む                            |
| ethnomethodology**  |                                     |
| social control**    |                                     |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

文化を扱う章では、「文化」(8/9)、「言語」(5/5)、「シンボル」(5/7)、「文化相対主義」(8/8)と「自文化中心主義」(8/9)、「物質文化」(8/8)と「非物質文化」(6/6)、「下位文化」(8/9)・「対抗文化」(6/6)、「価値」(7/8)・「規範」(8/9)・「フォークウェイズ」(5/5)・「モーレス」(5/5)などに触れるのが定番である。「社会生物学」(5/5)も言及頻度が高い。「技術」(3/7)も文化のところで言及されることが多い。「サンクション」(3/5)や「社会統制」(2/6)は、逸脱と社会統制のトピックでも言及される。「文化的遅滞」(3/5)は社会変動で触れられることもある。「エスノメソドロジー」(2/7)にここで言及している教科書もある。

### (4)社会

|                         |                                     |
|-------------------------|-------------------------------------|
| society                 |                                     |
| organic solidarity*     |                                     |
| mechanical solidarity** |                                     |
| social institution**    | social institutions, institutionを含む |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

「社会」に独自の章を立てる教科書はそう多くない。そのためこのトピックに帰属されるキータームの言及数は少なくなりがちである。「社会」(4/8)のほかに、「機械的連帯」(2/7)

「有機的連帯」(2/8)、「社会制度」(2/7)はここで触れられる。「機械的連帯」(3/7)と「有機的連帯」(2/8)は社会的相互行為で言及している教科書も多い。同じデュルケムの用語であるのに、必ずしもセットで出てくるわけではない。

#### (5)社会化

|                            |   |
|----------------------------|---|
| agents of socialization    | agencies of socialization, socialization agentsを含む          |
| anticipatory socialization |   |
| generalized other          |   |
| life course                |   |
| looking-glass self         |   |
| mass media                 |   |
| peer group                 |   |
| resocialization            |   |
| self                       |   |
| significant other          | significant othersを含む                                       |
| socialization              |   |
| total institution          | total institutionsを含む                                       |
| dramaturgical approach**   | dramaturgical analysis, dramaturgical theory, dramaturgyを含む |
| gender roles**             | gender roleを含む  |

\*\*は第二順位

このトピックでは、指定されるキータームの一致度が比較的高い。「社会化」(8/9)、「予期的社会化」(5/5)、「再社会化」(6/7)、「社会化のエージェント」(7/7)などの社会化に直接関わる概念や、「自己」(6/6)、「鏡に映った自己」(5/5)、「重要な他者」(6/6)、「一般化された他者」(8/9)、「仲間集団」(5/5)などの自己と社会化のエージェントに関する概念は定番である。「マスメディア」(3/6)も社会化のエージェントの文脈で言及されることが多い。「全制的施設」(4/8)は再社会化との関連で言及される。



(6)社会的相互行為

|                         |   |
|-------------------------|---|
| achieved status         |   |
| ascribed status         |   |
| dramaturgical approach  | dramaturgical analysis, dramaturgical theory, dramaturgyを含む |
| ethnomethodology        |   |
| <i>Gemeinschaft</i>     |   |
| <i>Gesellschaft</i>     |   |
| impression management   |   |
| master status           |   |
| mechanical solidarity   |   |
| nonverbal communication | non-verbal communicationを含む                                 |
| organic solidarity*     |   |
| role                    | rolesを含む  |
| role conflict           |   |
| role strain             |   |
| social institution*     | social institutions, institutionを含む                         |
| social interaction      |   |
| status                  |   |
| status set              |   |
| division of labor**     |   |
| social structure**      |   |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

社会的相互行為のトピックで言及されることの多いキータームは、18（第二順位を含めると20）項目である。「社会的相互行為」（7/7）、「非言語的コミュニケーション」（4/5）、「社会制度」（3/7）、「社会構造」（第二順位、3/8）などとともに、地位と役割に関する用語が多数を占める（「地位」（8/9）、「地位群」（5/5）、「業績的地位」（7/8）、「帰属的地位」（5/8）、「主要な地位」（7/8）、「役割」（6/7）、「役割葛藤」（6/7）、「役割緊張」（6/7））。そのほか、「ドラマツルギー的アプローチ」（4/6）、「印象操作（管理）」（5/6）、「エスノメソドロジー」（7/7）などミクロ社会学のキーターム群と、「ゲマインシャフト」（3/6）、「ゲゼルシャフト」（3/6）、「機械的連帯」（3/7）、「有機的連帯」（2/8）、「分業」（2/5）など、結合の質に関わる用語が扱われている。

(7) 集団と組織

|                     |                                       |
|---------------------|---------------------------------------|
| bureaucracy         | bureaucraciesを含む                      |
| dyad                |                                       |
| formal organization | formal organizationsを含む               |
| group               | groupsを含む                             |
| ideal type          |                                       |
| in-group            | in-groupsを含む                          |
| out-group           | out-groupsを含む                         |
| primary group       | primary groupsを含む                     |
| reference group     | reference groupsを含む                   |
| secondary group     | socondary groupsを含む                   |
| social network      | social networks, network, networksを含む |
| triad               |                                       |
| alienation**        |                                       |
| oligarchy**         |                                       |

\*\*は第二順位

集団と組織に関するキータームは、「二者関係」(6/6)、「三者関係」(6/6)にはじまり、「集団」(4/5)、「第一次集団」(8/8)、「第二次集団」(8/8)、「内集団」(7/7)、「外集団」(7/7)、「準拠集団」(8/9)などの集団概念と、「公式組織」(6/6)、「官僚制」(7/9)、関連して「理念型」(3/5)、「疎外」(2/8 第二順位)、「寡頭制」(2/5 第二順位)が言及される。ここで「社会的ネットワーク」(7/8)に言及する教科書も多い。

(8) 逸脱と社会統制

|                     |   |
|---------------------|---|
| anomie              |   |
| corporate crime     |   |
| crime               |   |
| deviance            | social devianceを含む                      |
| hate crime          | hate crimesを含む                          |
| labeling theory     |   |
| organized crime     |   |
| primary deviance    | primary deviationを含む                    |
| sanction*           | sanctionsを含む                            |
| secondary deviance  | secondary deviationを含む                  |
| social control      |   |
| stigma              |   |
| white-collar crime  | white-collar (or occupational) crimeを含む |
| total institution** | total institutionsを含む                   |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

逸脱と社会統制のトピックに分類されるキータームも比較的一致度が高い。「逸脱」(9/9)、「アノミー」(6/9)、「社会統制」(6/6)、「第一次的逸脱」(5/5)、「第二次的逸脱」(5/5)、「ス

ティグマ」(6/7)、「ラベリング理論」(8/8)などが逸脱の社会学のキータームとされ、さらに「犯罪」(9/9)、「組織犯罪」(5/5)、「ホワイトカラーの犯罪」(7/7)、「企業犯罪」(5/5)、「ヘイトクライム」(4/5)といった犯罪に関する用語が定番となっている（なぜか「非行」の語はキータームになっていない）。「サンクション」(3/5)や「全制的施設」(2/8)は、刑罰との関連で言及されているのであろう。

### (9)社会階層

|                            |                                      |
|----------------------------|--------------------------------------|
| absolute poverty           |                                      |
| caste system               | caste systemsを含む                     |
| class consciousness        |                                      |
| class system               | class systemsを含む                     |
| culture of poverty         |                                      |
| feminization of poverty    |                                      |
| ideology*                  | ideologiesを含む                        |
| income                     |                                      |
| intergenerational mobility | intergenerational social mobilityを含む |
| intragenerational mobility | intragenerational social mobilityを含む |
| meritocracy                |                                      |
| proletariat                | proletariansを含む                      |
| slavery                    |                                      |
| social mobility            |                                      |
| social stratification      | stratificationを含む                    |
| socioeconomic status(SES)  |                                      |
| structural mobility        | structural social mobilityを含む        |
| underclass                 | urban underclassを含む                  |
| wealth                     |                                      |
| relative poverty**         |                                      |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

社会階層に関するキータームも、教科書間の一致度は高い。「社会階層」(6/8)、「カーストシステム」(4/5)、「階級システム」(5/6)、「奴隷制」(4/6)などの基本概念、「所得」(7/7)、「富」(7/7)、「社会経済的地位」(5/5)など階層構造の客観的次元を示す用語、「階級意識」(3/6)、「イデオロギー」(2/7)などの主観的次元、「プロレタリアート」(4/6)、「アンダークラス」(5/6)などの社会的カテゴリー、「社会移動」(7/9)、「構造移動」(4/5)、「世代内移動」(4/5)、「世代間移動」(5/6)、「メリットクラシー」(5/6)など社会移動に関わる用語、最後に「絶対的貧困」(4/7)、「相対的貧困」(2/7)、「貧困の文化」(4/5)、「貧困の女性化」(5/5)など貧困研究に関わる用語がキータームとされている。

(10) グローバルな階層化

|                           |   |
|---------------------------|---|
| colonialism               |   |
| dependency theory         | dependency theoriesを含む  |
| globalization             |   |
| modernization theory      |   |
| multinational corporation | multinational corporationsを含む                                     |
| relative poverty          |   |
| world-systems theory      | world system theory/world-system theory/world systems analysisを含む |
| class consciousness**     |   |

\*\*は第二順位

グローバルな階層化では、「植民地主義」(6/6)、「グローバル化」(2/5)、「多国籍企業」(4/5)に言及しつつ、「近代化理論」(5/5)、「従属理論」(5/5)、「世界システム理論」(5/5)がキーワードとされている。「相対的貧困」(3/7)と「階級意識」(2/6)は社会階層のほうで言及されることも多く、相対的に一致度が低くなっている。

(11) 人種とエスニシティ

|                 |                               |
|-----------------|-------------------------------|
| assimilation    |                               |
| discrimination  |                               |
| ethnicity       | ethnicity (and ethnic)を含む     |
| genocide        |                               |
| minority group  | minority groupsを含む            |
| pluralism       |                               |
| prejudice       |                               |
| race            |                               |
| racism          |                               |
| scapegoat       | scape goating, scape goatsを含む |
| segregation     |                               |
| stereotype      | stereotypesを含む                |
| ethnocentrism** |                               |

\*\*は第二順位

人種とエスニシティに関わって言及されることの多いキーワードとして12項目が挙げられている。「人種」(8/8)、「エスニシティ」(5/5)、「同化」(7/7)、「マイノリティ集団」(6/6)、「偏見」(9/9)、「ステレオタイプ」(5/6)、「差別」(9/9)、「人種差別主義」(7/8)、「隔離」(7/7)、「スケープゴート」(5/5)、そして「ジェノサイド」(8/8)である。「多元主義」(6/7)も、文化的多元主義の意味でつかわれることが多い。

(12) ジェンダー

|                   |  |
|-------------------|--|
| feminism          |  |
| feminist theory*  | feminist theories, gender-conflict theory (feminist theory)を含む |
| gender            |  |
| gender roles      | gender roleを含む   |
| glass ceiling     |  |
| patriarchy        |  |
| sex               |  |
| sexual harassment |  |
| homophobia**      |  |

\*は同数一位、\*\*は第二順位

ジェンダーについては、「ジェンダー」(6/8)と「セックス」(5/8)の区別のあと、「ジェンダー役割」(5/7)、「家父長制」(7/8)、「ガラスの天井」(5/6)、「セクシュアルハラスメント」(4/6)などがキータームの定番である。「フェミニズム」(4/5)はジェンダーの項で言及されることが多いが、「フェミニスト理論」(3/5)は導入部の社会学的視点でコンフリクト理論の一種として言及されることも同じくらい多い。

(13) セクシュアリティ

|            |  |
|------------|--|
| homophobia |  |
| sex**      |  |

\*\*は第二順位

前章で述べたように、現段階で社会学の教科書におけるセクシュアリティの位置づけは定まっていない。そのため、キータームとしては「ホモフォビア」(5/7)が挙がってくるだけである。これとてもジェンダーの項で扱う場合(2/7)もある。それ以外のセクシュアリティに関するキータームとしては、「セクシュアリティ」「ホモセクシュアリティ」「ヘテロセクシュアリティ」「バイセクシュアリティ」「アセクシュアリティ」などが挙がるが、いずれも総言及数が4以下にとどまっている。

(14) 年齢

|                      |  |
|----------------------|--|
| ageism               |  |
| disengagement theory |  |
| life course**        |  |
| life expectancy**    |  |

\*\*は第二順位

年齢についても、社会学の教科書における位置づけは弱い。言及数 5 以上のキータームで年齢に関する章で言及されているのは、「エイジズム」(4/6)と「離脱理論」(3/5)のふたつだけであった。ちなみに「活動理論」の総言及数は 3 であった。

#### (15) 貧困

|                    |  |
|--------------------|--|
| relative poverty** |  |
|--------------------|--|

\*\*は第二順位

貧困に関するトピックは、社会階層の系として、しばしば米国の貧困問題が扱われる。そのため、言及数 5 以上で、もっぱら貧困に関する章で扱われるキータームはなかった。「相対的貧困」は、7 冊の教科書が言及していたが、グローバルな階層化で言及しているものが 3 冊(3/7)、社会階層と貧困のトピックでそれぞれ 2 冊(2/7)であった。

#### (16) 家族

|                 |  |
|-----------------|--|
| cohabitation    |  |
| endogamy        |  |
| exogamy         |  |
| extended family |  |
| family          |  |
| kinship         |  |
| monogamy        |  |
| nuclear family  |  |
| polyandry       |  |
| polygamy        |  |
| polygyny        |  |

家族のトピックで扱われるキータームの一致度は高い。「家族」(7/7)、「親族」(4/5)、「拡大家族」(8/9)、「核家族」(8/9)、「共同生活(同棲)」(6/6)のほか、婚姻制度に関わる用語(「外婚制」(6/6)、「内婚制」(6/7)、「単婚(一夫一婦制)」(7/7)、「複婚」(6/7)、「一夫多妻制」(5/6)、「一妻多夫制」(5/6))がキータームとして言及されている。

### (17)宗教

|                |             |
|----------------|-------------|
| church         | churchesを含む |
| cult           | cultsを含む    |
| denomination   |             |
| profane        |             |
| religion       |             |
| ritual         | ritualsを含む  |
| sacred         |             |
| sect           | sectsを含む    |
| secularization |             |
| alienation**   |             |

\*\*は第二順位

宗教に関しても一致度は高い。「宗教」(7/8)、「聖」(8/8)と「俗」(8/8)、「儀礼」(6/6)、「世俗化」(6/6)のほか「教会」(7/7)、「宗派」(7/7)、「セクト」(8/8)、「カルト」(7/7)などの集団類型が、キータームとして挙がっている。「新宗教運動」は総言及数4で、ここには挙がってこなかった。

### (18)教育

|                   |  |
|-------------------|--|
| cultural capital  |  |
| education         |  |
| hidden curriculum |  |
| tracking          |  |

教育のトピックに含まれるキータームも、教科書による一致度は高いが、用語数は限られている。「教育」(5/5)、「隠れたカリキュラム」(6/6)、「文化資本」(5/7)、「能力別学級編成」(6/6)の4つだけが、総言及数5以上であった。

### (19)健康

|           |  |
|-----------|--|
| sick role |  |
|-----------|--|

社会学の教科書における健康の位置づけはやや不安定で、キータームも定まっていない。「病人役割」が言及数6(6/6)でランクインしたにとどまる。

## (20)経済

|                   |  |
|-------------------|--|
| alienation        |  |
| capitalism        |  |
| communism         |  |
| division of labor |  |
| economy           |  |
| monopoly          |  |
| socialism         |  |

経済のトピックについては7項目が言及頻度の高いキーワードとして挙がってきた。「経済」(5/5)、「分業」(3/5)、「疎外」(5/8)、「資本主義」(6/8)、「独占」(4/5)、「社会主義」(6/6)、「共産主義」(4/6)である。「社会主義」や「共産主義」は、経済体制として捉えられており、政治の項で言及している教科書はない。また、労働や労働市場に関する概念をキーワードに指定する教科書はごく限られている。

## (21)政治

|                          |  |
|--------------------------|--|
| authority                |  |
| charismatic authority    |  |
| democracy                |  |
| interest group           | special-interest groupとは別カウント                |
| monarchy                 | monarchiesを含む                                |
| nationalism              |  |
| oligarchy                |  |
| politics                 |  |
| power                    |  |
| rational-legal authority | legal-rational authority, legal authorityを含む |
| state                    |  |
| terrorism                |  |
| traditional authority    |  |

政治に関するキーワードも、教科書間で一致することが多い。「政治」(5/5)、「国家」(6/6)、「民主制」(7/7)、「君主制」(5/5)、「寡頭制」(3/5)、「利益集団」(6/6)などの基本タームのほか、「支配」(9/9)、「伝統的支配」(6/6)、「カリスマ的支配」(6/6)、「合法的支配」(6/6)といったウェーバーの概念がキーワードとして挙げられることが多い(独語の *Herrschaft* は英語では *authority* と訳されていることに注意)。それにしても合法的支配の英語表記がまちまちであるのが目を引く。また「ナショナリズム」(3/5)と「テロリズム」(5/6)がキーワードとして挙がっており、とくに「テロリズム」の言及頻度が高い。



## (22)人口

|                       |                                     |
|-----------------------|-------------------------------------|
| crude birth rate      | crude birthrate/crude birthratesを含む |
| crude death rate      | crude death ratesを含む                |
| demography            |                                     |
| infant mortality rate |                                     |
| life expectancy       |                                     |

人口も、人口学の基礎概念をキータームにしているのので、教科書によるバリエーションはほとんどない。「人口学」(5/6)、「出生率」(5/6)、「死亡率」(5/6)、「乳幼児死亡率」(3/5)、「平均余命」(3/7)の5つに限られている。なお、「人口転換」の総言及数が4、「人口転換理論」の総言及数が3で、「人口転換」と「人口転換理論」の双方をキータームとする教科書はなかったのので、両者を同一とみなすと総言及数が7となり、ランクインする。また人口ピラミッドの総言及数は3であった。

## (23)都市化

|                       |  |
|-----------------------|--|
| megalopolis           |  |
| urbanization          |  |
| <i>Gemeinschaft**</i> |  |
| <i>Gesellschaft**</i> |  |

\*\*第二順位

都市化についても、キータームの数は限られており、「都市化」(7/7)と「メガロポリス」(5/5)だけである。これは都市化を扱わない教科書があることも関係している。第二順位として「ゲマインシャフト」(2/6)と「ゲゼルシャフト」(2/6)がこの項に入っている（第一順位は社会的相互行為）。なお、「コミュニティ」をキータームにしている教科書はひとつだけであった。

## (26)集合行動と社会運動

|                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| collective behavior  | collective behaviourを含む |
| relative deprivation |                         |
| social movement      | social movementsを含む     |

集合行動と社会運動は、社会変動の章で扱われる場合と、政治の章で扱われる場合がある。いずれにしても、多くの教科書がキータームとしてあげているのは、「集合行動」(5/5)、

「社会運動」(8/8)、それに「相対的剥奪」(4/5)の3つだけである。「新しい社会運動」の総言及数は3、「資源動員理論」と「資源動員」の総言及数はあわせて3にとどまった。

(27)社会変動

|               |                |
|---------------|----------------|
| modernization |                |
| social change |                |
| cultural lag* | culture lagを含む |

\*は同数一位

ほとんどの教科書では社会変動に関する章を最後においており、もはやキーワードはほとんどない。言及数が多いのは「社会変動」(6/8)、「近代化」(3/5)、「文化的遅滞」(3/5)の3つである。

(30)メディア

|              |  |
|--------------|--|
| mass media** |  |
|--------------|--|

\*\*第二順位

「メディア」も独立した章として扱われることはほとんどなく、キーワードとしての「マスメディア」(2/6)は、社会化のエージェントとして、社会化の章で言及されることのほうが多かった。

このほか、(24)環境、(25)科学・技術、(29)ライフコースの分類項目を用意してあったが、言及数5以上のキーワードでそれらの項目に分類されるものはなかった。「環境」は、しばしば「人口」「都市化」と一緒に扱われていたが、環境に固有の一致したキーワードは見いだせなかった。「科学・技術」は単独の章として立てられることはなく、「科学」のキーワードは方法論の文脈で、「技術」のキーワードは文化の章で言及されていた。「ライフコース」のトピックは、社会化の章で扱われることが多く、キーワードとしての「ライフコース」も社会化と年齢の章で言及されていた。

#### 4. 結論

本章では、各教科書が一致してキータームとして指定している用語を探し出すことを試みた。まず、9冊の教科書の巻末にある用語集に掲載されている用語を抽出し、教科書間の重複を除いて、1,727のキータームを確定した。つぎに、これらの用語を、それぞれいくつの教科書でキータームとされているかにもとづきランキングをした。最後に、5以上の言及数のある用語203項目を頻出用語とみなして、それらの用語が、教科書のどの章で言及されているかを突き止め、前章で用いた30のカテゴリーに分類した。

各教科書用語集に掲載されている用語の（重複を含めた）合計が3,523、ひとつの教科書で平均して約390の用語が指定されていたことを考えると、半数以上の教科書が言及している用語の数が203であることは、多いのか少ないのか、その評価は難しい。203の用語を分野別に精査してみると、かなり基本的な概念ばかりとなる。多くの教科書は、これらの概念を中核に、平均的には400程度の用語をキータームとして指定している。この追加は、教科書によってかなりばらつきがあると考えて良いであろう。

本章の分析結果から言えることは、典型的な教科書は、本章の分析で示された203の用語を中核として、その倍程度のキータームを備えたものであるということである。

#### 参考文献

- Andersen, Margaret and Howard Taylor, 2016. *Sociology: The Essentials*. 9th edition. Cengage Learning.
- Ballantine, Jeanne H., Keith A. Roberts, and Kathleen Odell Korgen. 2018. *Our Social World: Introduction to Sociology*. 6th edition. Sage.
- Conley, Dalton. 2015. *You May Ask Yourself: An Introduction to Thinking Like a Sociologist*. 4th edition. W. W. Norton.
- Giddens, Anthony, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum, and Deborah Carr. 2016. *Introduction to Sociology*. 10th edition. W.W. Norton.
- Giddens, Anthony and Philip W. Sutton. 2017. *Sociology*. 8th edition. Polity.
- Henslin, James M. 2017. *Essentials of Sociology: A Down-To-Earth Approach*. 12th edition. Pearson.
- Kornblum, William in collaboration with Carolyn D. Smith. 2012. *Sociology in a Changing World*. 9th edition. Wadsworth.

Macionis, John J. 2014. *Sociology*. 15th edition. Pearson.

Schaefer, Richard T. 2015. *Sociology: A Brief Introduction*. 11th edition. McGraw-Hill.

(松本 康)

## 第5章 結論

本報告書では、社会学教育におけるグローバル・スタンダードとはなにかという問いに答えるために、英語圏の入門的な社会学の教科書を9冊選んで分析した。まず9冊の教科書のそれぞれの概要と米国における教科書の使われ方を紹介したうえで、章構成とキータームの分析へと向かった。章構成の分析から、少なくとも米国において使用されている主要な教科書には、ある種の共通のパターン——構造・機能分析をベースとしたパターン——があることを発見した。キータームの分析では、これらの教科書は、1冊平均約400項目、9冊合計で約3,500項目のキータームを指定しており、重複を除くとキータームの数は1,700項目あまり、そのうち約200項目は、半数以上の教科書で言及されていることがわかった。言及数が多ければ多いほど、そのキータームは、教育上の重要性が高い基礎概念と考えられる。各教科書は、この約200の基礎概念に平均して約200の特徴的なキーワードを追加していた。

こうして、米国の教科書には、それぞれ特徴はあるものの、大まかなスタンダードが見いだされることがわかった。そのスタンダードは、だれかが決めたというよりは、版を重ねるなかで事実上収斂してきたものであって、その意味でデファクト・スタンダードであると考えられる。もちろんこのスタンダードは、あくまで現時点において見いだされるものであり、今後の社会学の発展によって変わるかもしれない。その変化が、スタンダードを解消して多様化に向かうのか、それとも新たなスタンダードへと進化していくのかはわからない。

国際通用性のある社会学教育とは、どの国で学んでも、社会学は社会学であるということである。国によりスタンダードが異なるのではなく、グローバル・スタンダードのもとで、国により地域によって、そしてもちろん教科書によって、バリエーションがあるというのが、望ましい姿であろう。そしてそのスタンダードは、あくまでもデファクト・スタンダードとして、社会学の発展とともに移り変わっていくものと思われる。

本報告書では、日本の教科書との比較にはあえて踏み込まなかった。しかし、相違点は明白であり、それをどう捉えるかは読者に委ねたい。本報告書での分析結果が今後の社会学教育の参考になれば幸いである。

(松本 康)

巻末資料

9つの教科書から抽出されたキーターム 1712 項目（アルファベット順）と言及数一覧

A

|                                       |   |  |
|---------------------------------------|---|--|
| AARP                                  | 1 |  |
| ability grouping                      | 1 |  |
| abortion                              | 1 |  |
| absent father                         | 1 |  |
| absolute poverty                      | 7 |  |
| abstract and concrete attitudes       | 1 |  |
| accomodation                          | 1 |  |
| acculturation                         | 1 |  |
| achieved status                       | 8 |  |
| achieved stratification systems       | 1 |  |
| achievement gap                       | 1 |  |
| achievement test                      | 1 |  |
| acid rain                             | 1 |  |
| "acting white" thesis                 | 1 |  |
| activity theory                       | 3 |  |
| adoption                              | 1 |  |
| affective individualism               | 2 |  |
| affirmative action                    | 3 |  |
| Affordable Care Act                   | 1 |  |
| Afrocentlism                          | 1 |  |
| age cohort                            | 3 |  |
| age discrimination                    | 1 |  |
| age grade                             | 1 |  |
| age prejudice                         | 1 |  |
| age stereotype                        | 1 |  |
| age stratification                    | 2 |  |
| age-grade                             | 2 |  |
| ageism                                | 6 |  |
| agency                                | 1 |  |
| agents of socialization               | 7 | agencies of socialization, socialization agentsを含む |
| age-sex pyramid                       | 1 |  |
| aggregate                             | 1 |  |
| aging                                 | 2 | ageingを含む  |
| aging in place                        | 1 |  |
| agrarian societies                    | 3 | agrarian societyを含む                                |
| agricultural revolution               | 1 |  |
| agriculture                           | 1 |  |
| alienation                            | 8 |  |
| Al-Qaeda                              | 1 |  |
| alter-globalization movements         | 1 |  |
| alternative medicine                  | 1 |  |
| alternative social movements          | 1 |  |
| altruism                              | 1 |  |
| altruistic suicide                    | 2 |  |
| Alzheimer's disease                   | 1 |  |
| amalgamation                          | 1 |  |
| Americans with Disabilities Act (ADA) | 1 |  |
| anarchy                               | 1 |  |
| animism                               | 4 |  |
| anomic suicide                        | 2 |  |

|                                 |   |                         |
|---------------------------------|---|-------------------------|
| anomie                          | 9 |                         |
| anomie theory of deviance       | 1 |                         |
| anthropogenic climate change    | 1 |                         |
| anticipatory socialization      | 5 |                         |
| antiracism                      | 1 |                         |
| anti-Semitism                   | 2 |                         |
| apartheid                       | 4 |                         |
| applied social research         | 1 |                         |
| applied sociology               | 2 |                         |
| argot                           | 1 |                         |
| arranged marriages              | 1 |                         |
| ascribed status                 | 8 |                         |
| ascribed stratification systems | 1 |                         |
| asexuality                      | 1 |                         |
| assimilation                    | 7 |                         |
| assimilation theory             | 1 |                         |
| assisted dying                  | 1 |                         |
| association                     | 1 | correlationとは別カウント      |
| asylum-seeker                   | 1 |                         |
| atavism                         | 1 |                         |
| attribution error               | 1 |                         |
| attribution theory              | 1 |                         |
| austerity politics              | 1 |                         |
| authoritarian governments       | 1 |                         |
| authoritarian leader            | 1 |                         |
| authoritarian personality       | 1 |                         |
| authoritarian state             | 2 | authoritarian statesを含む |
| authoritarianism                | 1 |                         |
| authority                       | 9 |                         |
| automation                      | 3 |                         |
| autonomous state model          | 1 |                         |
| aversive racism                 | 1 |                         |

## B

|                            |   |                              |
|----------------------------|---|------------------------------|
| back region                | 2 |                              |
| back stages                | 1 |                              |
| background assumption      | 1 |                              |
| basic demographic equation | 1 |                              |
| basic sociology            | 2 | basic (or pure) sociologyを含む |
| behaviorism                | 1 |                              |
| beliefs                    | 2 |                              |
| bias                       | 1 |                              |
| big data                   | 1 |                              |
| big data analytics         | 1 |                              |
| Big Society                | 1 |                              |
| bilateral descent          | 3 | bilateralを含む                 |
| bilateral kinship          | 1 |                              |
| bilineal system            | 1 |                              |
| bilingualism               | 1 |                              |
| binuclear families         | 1 |                              |
| biodiversity               | 1 |                              |
| biographical research      | 1 |                              |

|                                   |   |                     |
|-----------------------------------|---|---------------------|
| biological determinism            | 2 |                     |
| biomedical model                  | 1 |                     |
| biomedical model of health        | 1 |                     |
| bisexuality                       | 3 | bisexualを含む         |
| black feminism                    | 2 |                     |
| black power                       | 1 |                     |
| blended family                    | 2 | blended familiesを含む |
| blue-collar occupations           | 1 |                     |
| body language                     | 1 |                     |
| body mass index(BMI)              | 1 |                     |
| bonded labor (indentured service) | 1 |                     |
| born again                        | 1 |                     |
| boundary work                     | 1 |                     |
| bourgeois society                 | 1 |                     |
| bourgeoisie                       | 4 |                     |
| brain drain                       | 1 |                     |
| brass cello                       | 1 |                     |
| broken windows theory of deviance | 1 |                     |
| Brown v. Board of Education       | 1 |                     |
| bureaucracy                       | 9 | bureaucraciesを含む    |
| bureaucratic inertia              | 1 |                     |
| bureaucratic ritualism            | 1 |                     |
| bureaucratization                 | 1 |                     |

## C

|                       |   |  |
|-----------------------|---|--|
| capital punishment    | 2 |  |
| capitalism            | 8 |  |
| capitalists           | 3 |  |
| caregiving            | 1 |  |
| case study            | 2 |  |
| caste                 | 4 |  |
| caste system          | 5 | caste systemsを含む                         |
| category              | 1 |  |
| causal logic          | 1 |  |
| causality             | 3 | cause and effect, causal relationshipを含む |
| causation             | 1 | →causal relationship, causalityとは別カウント   |
| census                | 1 |  |
| charisma              | 4 |  |
| charismatic           | 1 |  |
| charismatic authority | 6 |  |
| charismatic leader    | 1 |  |
| checks and balances   | 1 |  |
| childhood             | 1 |  |
| church                | 7 | churchesを含む                              |
| cisgender             | 2 |  |
| citizen               | 2 | citizensを含む                              |
| citizenship           | 2 |  |
| citizenship rights    | 1 |  |
| city                  | 2 |  |
| city-state            | 1 |  |
| civil inattention     | 2 |  |
| civil partnership     | 1 |  |



|                                 |   |                          |
|---------------------------------|---|--------------------------|
| civil religion                  | 4 |                          |
| civil rights                    | 2 |                          |
| Civil Rights Act of 1964        | 1 |                          |
| civil society                   | 3 |                          |
| civilization                    | 1 |                          |
| civilizing process              | 1 |                          |
| claims making                   | 1 |                          |
| class                           | 4 |                          |
| class conflict                  | 2 |                          |
| class consciousness             | 6 |                          |
| class society                   | 1 |                          |
| class system                    | 6 | class systemsを含む         |
| classical model                 | 1 |                          |
| classical theory                | 1 |                          |
| climate change                  | 2 |                          |
| clinical sociology              | 1 |                          |
| clique                          | 1 |                          |
| clock time                      | 2 |                          |
| closed question                 | 1 |                          |
| closed society                  | 1 |                          |
| closed stratification system    | 1 |                          |
| closed system                   | 1 |                          |
| cloud computing                 | 1 |                          |
| coalescence                     | 1 |                          |
| coalition                       | 3 |                          |
| code of ethics                  | 1 |                          |
| coercion                        | 2 |                          |
| coercive organization           | 1 |                          |
| cognition                       | 2 |                          |
| cognitive theory of development | 1 |                          |
| cohabitation                    | 6 |                          |
| cohort                          | 3 | cohort (birth cohort)を含む |
| Cold War                        | 1 |                          |
| collective action               | 2 |                          |
| collective action problem       | 1 |                          |
| collective behavior             | 5 | collective behaviourを含む  |
| collective consciousness        | 1 |                          |
| collective consumption          | 2 |                          |
| collective effervescence        | 1 |                          |
| collective resistance           | 1 |                          |
| collectivity                    | 1 |                          |
| colonialism                     | 6 |                          |
| color-blind racism              | 2 |                          |
| coming out                      | 1 |                          |
| commodity chain                 | 1 |                          |
| communication                   | 1 |                          |
| communism                       | 6 |                          |
| community                       | 1 |                          |
| community policing              | 1 |                          |
| community-based corrections     | 1 |                          |

|   |   |                                  |
|---|---|----------------------------------|
| comparable worth policies                   | 1 |                                  |
| comparative questions                       | 1 |                                  |
| comparative research                        | 3 |                                  |
| compartmentalize                            | 1 |                                  |
| complementary and alternative medicine(CAM) | 1 |                                  |
| complicit masculinity                       | 1 |                                  |
| compulsion of proximity                     | 3 |                                  |
| computer-mediated communication             | 1 |                                  |
| concentrated poverty                        | 1 |                                  |
| concept                                     | 2 |                                  |
| concrete operational stage                  | 3 |                                  |
| conditioning                                | 1 |                                  |
| confidentiality                             | 1 |                                  |
| conflict perspective                        | 2 |                                  |
| conflict theories of aging                  | 1 |                                  |
| conflict theory                             | 6 | conflict theoriesを含む             |
| confluent love                              | 1 |                                  |
| conformist                                  | 1 |                                  |
| conformity                                  | 1 |                                  |
| conglomerate                                | 1 |                                  |
| congregation                                | 1 |                                  |
| consensus crimes                            | 1 |                                  |
| conspicuous consumption                     | 4 |                                  |
| constitutional monarchs                     | 1 |                                  |
| consumer society                            | 1 |                                  |
| consumerism                                 | 1 |                                  |
| contact hypothesis                          | 1 |                                  |
| contact theory                              | 2 |                                  |
| contagion theory                            | 1 |                                  |
| content analysis                            | 3 |                                  |
| contingent worker                           | 1 |                                  |
| continuity theory                           | 2 |                                  |
| contradictory class locations               | 3 |                                  |
| control                                     | 2 | controlsを含む                      |
| control group                               | 3 |                                  |
| control theory                              | 4 |                                  |
| control variable                            | 1 |                                  |
| controlled experiment                       | 2 |                                  |
| conurbation                                 | 2 |                                  |
| convenience sampling                        | 1 |                                  |
| convergence theory                          | 2 |                                  |
| conversation analysis                       | 2 |                                  |
| core  | 1 |                                  |
| core countries                              | 2 | core countries (core nations)を含む |
| core state                                  | 1 |                                  |
| core values                                 | 1 |                                  |
| corporate crime                             | 5 |                                  |
| corporate culture                           | 1 |                                  |
| corporate social responsibility             | 1 |                                  |
| corporate welfare                           | 1 |                                  |

|                                 |   |                                     |
|---------------------------------|---|-------------------------------------|
| corporation                     | 4 | corporationsを含む                     |
| correlation                     | 6 |                                     |
| correlation coefficient         | 2 |                                     |
| correspondence principle        | 1 |                                     |
| cosmology                       | 1 |                                     |
| cosmopolitanism                 | 1 |                                     |
| counterculture                  | 6 | counter culture, counterculturesを含む |
| covert participant observation  | 1 |                                     |
| created environment             | 2 |                                     |
| creationism                     | 1 |                                     |
| credential society              | 1 |                                     |
| credentialism                   | 2 |                                     |
| credit crunch                   | 1 |                                     |
| crime                           | 9 |                                     |
| crimes against property         | 1 |                                     |
| crimes against the person       | 1 |                                     |
| criminal justice system         | 2 |                                     |
| criminalization                 | 1 |                                     |
| criminology                     | 2 |                                     |
| crisis of masculinity           | 1 |                                     |
| critical race theory (CRT)      | 1 |                                     |
| critical realism                | 1 |                                     |
| critical sociology              | 1 |                                     |
| cross-tabulation                | 2 |                                     |
| crowd                           | 2 |                                     |
| crowdsourcing                   | 1 |                                     |
| crude birth rate                | 6 | crude birthrate/crude birthratesを含む |
| crude death rate                | 6 | crude death ratesを含む                |
| cult                            | 7 | cultsを含む                            |
| cult of domesticity             | 1 |                                     |
| cultural capital                | 7 |                                     |
| cultural convergence            | 1 |                                     |
| cultural diffusion              | 2 |                                     |
| cultural evolution              | 1 | sociocultural evolutionとは別カウント      |
| cultural goals                  | 1 |                                     |
| cultural hegemony               | 1 |                                     |
| cultural integration            | 1 |                                     |
| cultural lag                    | 5 | culture lagを含む                      |
| cultural leveling               | 1 |                                     |
| cultural navigators             | 1 |                                     |
| cultural pluralism              | 1 |                                     |
| cultural relativism             | 8 | cultural relativityを含む              |
| cultural reproduction           | 1 |                                     |
| cultural scripts                | 1 |                                     |
| cultural transmission           | 2 |                                     |
| cultural transmission of values | 1 |                                     |
| cultural turn                   | 1 |                                     |
| cultural universal              | 4 | cultural universalsを含む              |
| culture                         | 9 |                                     |
| culture industry                | 1 |                                     |

|                    |   |
|--------------------|---|
| culture jamming    | 1 |
| culture of poverty | 5 |
| culture shock      | 4 |
| culture war        | 1 |
| curanderismo       | 1 |
| cyberbullying      | 1 |
| cybercrime         | 2 |
| cyberspace         | 2 |

## D

|                               |                          |
|-------------------------------|--------------------------|
| data                          | 1                        |
| data analysis                 | 1                        |
| Davis–Moore thesis            | 1                        |
| de facto segregation          | 1                        |
| de jure segregation           | 1                        |
| debriefing                    | 1                        |
| debunking                     | 1                        |
| de-bureaucratization          | 1                        |
| decommodification             | 1                        |
| deductive approach            | 1                        |
| deductive logical thought     | 1                        |
| deductive reasoning           | 1                        |
| deference                     | 1                        |
| deferred gratificaion         | 1                        |
| deforestation                 | 1                        |
| deglobalization               | 1                        |
| degradation ceremony          | 2                        |
| degree of dispersal           | 2                        |
| deindividuation               | 1                        |
| deindustrialization           | 3                        |
| deinstitutionalization        | 1                        |
| demagogue                     | 1                        |
| demeanor                      | 1                        |
| democracy                     | 7                        |
| democratic elitism            | 1                        |
| democratic governments        | 1                        |
| democratic leader             | 1                        |
| democratic socialism          | 2                        |
| demographic transition        | 4                        |
| demographic transition theory | 3                        |
| demographic variables         | 1                        |
| demography                    | 6                        |
| denomination                  | 7                        |
| dependency culture            | 2                        |
| dependency ratio              | 2                        |
| dependency theory             | 5 dependency theoriesを含む |
| dependent development         | 1                        |
| dependent variable            | 8                        |
| deprofessionalization         | 1                        |
| descent                       | 1                        |
| desertification               | 1                        |
| deskilling                    | 1                        |

|                                  |   |                      |
|----------------------------------|---|----------------------|
| deterrence                       | 1 |                      |
| deterrence theory                | 1 |                      |
| developed countries              | 1 |                      |
| developing countries             | 2 | developing nationを含む |
| developmental questions          | 1 |                      |
| deviance                         | 9 | social devianceを含む   |
| deviancy amplification           | 1 |                      |
| deviant career                   | 1 |                      |
| deviant community                | 1 |                      |
| deviant identity                 | 1 |                      |
| deviant subculture               | 2 |                      |
| dialectic                        | 1 |                      |
| dialectical process (of history) | 1 |                      |
| diaspora                         | 2 |                      |
| dictatorship                     | 3 |                      |
| differential association         | 4 |                      |
| differential association theory  | 2 |                      |
| differential justice             | 1 |                      |
| differential racialization       | 1 |                      |
| differentiation                  | 1 |                      |
| diffusion                        | 2 |                      |
| digital divide                   | 2 |                      |
| direct action                    | 1 |                      |
| direct democracy                 | 2 |                      |
| direct-free system               | 1 |                      |
| disability studies               | 1 |                      |
| disaster                         | 1 |                      |
| discourse analysis               | 1 |                      |
| discourses                       | 1 |                      |
| discovery                        | 2 |                      |
| discrimination                   | 9 |                      |
| disengagement theory             | 5 |                      |
| disestablishment                 | 1 |                      |
| disinvestment                    | 1 |                      |
| displacement                     | 2 |                      |
| diversity                        | 2 |                      |
| Divide et impera                 | 1 |                      |
| divine right of kings            | 1 |                      |
| division of labor                | 5 |                      |
| documents                        | 1 |                      |
| doing gender                     | 1 |                      |
| dominant culture                 | 1 |                      |
| dominant group                   | 2 |                      |
| dominant ideology                | 1 |                      |
| domination                       | 1 |                      |
| domocratic capitalism            | 1 |                      |
| double consciousness             | 2 |                      |
| double standard                  | 1 |                      |
| doubling time                    | 2 |                      |
| downsizing                       | 1 |                      |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| downward mobility        | 2 | downward social mobilityを含む                                 |
| dramaturgical approach   | 6 | dramaturgical analysis, dramaturgical theory, dramaturgyを含む |
| dual labor market        | 1 |   |
| dual labor market theory | 1 |   |
| dualism                  | 1 |   |
| dyad                     | 6 |   |
| dysfunction              | 4 | dysfunctions, social dysfunctionを含む                         |

## E

|                                  |   |  |
|----------------------------------|---|--|
| eating disorder                  | 1 |  |
| ecclesia                         | 2 |  |
| eco-efficiency                   | 1 |  |
| ecological approach              | 1 |  |
| ecological citizenship           | 1 |  |
| ecological modernization         | 2 |  |
| ecologically sustainable culture | 1 |  |
| ecology                          | 1 |  |
| economic capital                 | 1 |  |
| economic interdependence         | 2 |  |
| economic recession               | 1 |  |
| economic restructuring           | 1 |  |
| economic sociology               | 1 |  |
| economic system                  | 1 |  |
| economy                          | 5 |  |
| eco-sabotage                     | 1 |  |
| ecosystem                        | 1 |  |
| edge city                        | 1 |  |
| education                        | 5 |  |
| educational achievement          | 1 |  |
| educational attainment           | 2 |  |
| egalitarian                      | 1 |  |
| egalitarian family               | 1 |  |
| ego                              | 3 |  |
| egocentric                       | 2 |  |
| egoistic suicide                 | 2 |  |
| elaborated code                  | 1 |  |
| elderly                          | 1 |  |
| elective affinity                | 1 |  |
| elite                            | 1 |  |
| elite deviance                   | 1 |  |
| elite model                      | 1 |  |
| elite-mass dichotomy system      | 1 |  |
| embeddedness                     | 1 |  |
| embodiment                       | 1 |  |
| embourgeoisement thesis          | 1 |  |
| emergence                        | 1 |  |
| emergent norm theory             | 1 |  |
| emerging economies               | 1 |  |
| emigration                       | 2 |  |
| emigration (versus immigration)  | 1 |  |
| emotional intelligence           | 2 |  |
| emotional labor                  | 1 |  |

|                                |   |                                |
|--------------------------------|---|--------------------------------|
| emotional loneliness           | 1 |                                |
| emphasized femininity          | 1 |                                |
| empirical                      | 1 |                                |
| empirical evidence             | 1 |                                |
| empirical investigation        | 2 |                                |
| empirical knowledge            | 1 |                                |
| encounter                      | 2 |                                |
| endogamy                       | 7 |                                |
| endogenous                     | 1 |                                |
| endogenous force               | 1 |                                |
| enlightenment                  | 1 |                                |
| enterprise zone                | 1 |                                |
| entrepreneur                   | 2 |                                |
| environment                    | 2 |                                |
| environmental criminology      | 1 |                                |
| environmental deficit          | 1 |                                |
| environmental ecology          | 1 |                                |
| environmental injustice        | 1 | environmental justiceとは別カウント   |
| environmental issues           | 1 |                                |
| environmental justice          | 2 | environmental injusticeとは別カウント |
| environmental racism           | 3 |                                |
| environmental refugee          | 1 |                                |
| environmental sociology        | 2 |                                |
| epidemic                       | 1 |                                |
| epidemiology                   | 2 |                                |
| equal educational opportunity  | 1 |                                |
| Equal Pay Act of 1963          | 1 |                                |
| Equal Rights Amendment         | 1 |                                |
| equality of condition          | 1 |                                |
| equality of opportunity        | 2 |                                |
| equality of outcome            | 1 |                                |
| equality of result             | 1 |                                |
| equilibrium model              | 1 |                                |
| essentialism                   | 2 |                                |
| established sect               | 1 |                                |
| estate                         | 1 |                                |
| estate stratificaion system    | 1 |                                |
| estate system                  | 4 | estate systemsを含む              |
| esteem                         | 1 |                                |
| ethical religions              | 1 |                                |
| ethicalism                     | 1 |                                |
| ethnic (or racial) nationalism | 1 |                                |
| ethnic cleansing               | 3 |                                |
| ethnic group                   | 4 |                                |
| ethnic stratification          | 1 |                                |
| ethnic work                    | 1 |                                |
| ethnicity                      | 5 | ethnicity (and ethnic)を含む      |
| ethnie                         | 1 |                                |
| ethnocentric transnational     | 1 |                                |
| ethnocentrism                  | 9 |                                |

|                          |   |  |
|--------------------------|---|--|
| ethnography              | 3 |  |
| ethnomethodology         | 7 |  |
| eugenics                 | 3 |  |
| eurocentrism             | 1 |  |
| euthanasia               | 2 |  |
| evaluation research      | 1 |  |
| evangelicalism           | 2 |  |
| evangelicals             | 1 |  |
| evolutionary theory      | 1 |  |
| exchange mobility        | 3 |  |
| exogamy                  | 6 |  |
| exogenous force          | 1 |  |
| experiment               | 4 |  |
| experimental group       | 3 |  |
| experimental methods     | 1 |  |
| exploitation             | 1 |  |
| exploitation theory      | 1 |  |
| exponential              | 1 |  |
| exponential growth curve | 1 |  |
| expressive leader        | 1 |  |
| expressive leadership    | 1 |  |
| expressive movements     | 1 |  |
| expressive needs         | 1 |  |
| expressiveness           | 1 |  |
| expulsion                | 1 |  |
| extended family          | 9 |  |
| external risk            | 2 |  |
| extreme poverty          | 1 |  |

## F

|                                     |   |                            |
|-------------------------------------|---|----------------------------|
| face                                | 1 |                            |
| face-saving behavior                | 1 |                            |
| face-work                           | 1 |                            |
| factual questions                   | 1 |                            |
| fad                                 | 1 |                            |
| failed state                        | 1 |                            |
| faith                               | 1 |                            |
| false class consciousness           | 1 |                            |
| false consciousness                 | 3 |                            |
| familism                            | 1 |                            |
| family                              | 7 |                            |
| Family and Medical Leave Act (FMLA) | 1 |                            |
| family capitalism                   | 2 |                            |
| family displays                     | 1 |                            |
| family of orientation               | 4 | families of orientationを含む |
| family of procreation               | 4 | families of procreationを含む |
| family practices                    | 1 |                            |
| family violence                     | 1 |                            |
| family wage                         | 1 |                            |
| fashion                             | 1 |                            |
| fatalistic suicide                  | 1 |                            |
| fecundity                           | 3 |                            |



|                                |   |  |
|--------------------------------|---|--|
| feminism                       | 5 |  |
| feminist methodology           | 1 |  |
| feminist perspective           | 1 |  |
| feminist theory                | 5 | feminist theories, gender-conflict theory (feminist theory)を含む |
| feminization of poverty        | 5 |  |
| feral children                 | 2 |  |
| fertility                      | 4 |  |
| fertility rate                 | 1 |  |
| feudalism                      | 1 |  |
| field                          | 1 |  |
| field experiment               | 1 |  |
| field of action                | 1 |  |
| figurational sociology         | 1 |  |
| figurations                    | 1 |  |
| flexible production            | 2 |  |
| focus group                    | 1 |  |
| focused interaction            | 2 |  |
| folkways                       | 5 | folkwayを含む   |
| food deserts                   | 1 |  |
| force                          | 1 |  |
| Fordism                        | 2 |  |
| formal agents of socialization | 1 |  |
| formal education               | 1 |  |
| formal norm                    | 1 |  |
| formal operational stage       | 3 |  |
| formal organization            | 6 | formal organizationsを含む  |
| formal relations               | 2 |  |
| formal social control          | 1 |  |
| formal social sanctions        | 1 |  |
| frecuency distribution         | 1 |  |
| free rider problem             | 1 |  |
| free-choice marriage           | 1 |  |
| front region                   | 2 |  |
| front stages                   | 1 |  |
| functional analysis            | 1 |  |
| functional illiteracy          | 2 |  |
| functionalism                  | 5 | structural functionalismとは別カウント                                |
| functionalist perspective      | 1 |  |
| fundamentalism                 | 3 |  |
| fundamentalists                | 2 |  |

## G

|                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
| game stage              | 2 |  |
| game theory             | 1 |  |
| gatekeeping             | 2 |  |
| Gemeinschaft            | 6 |  |
| gender                  | 8 |  |
| gender apartheid        | 1 |  |
| gender gap              | 1 |  |
| gender identity         | 1 |  |
| gender inequality       | 2 |  |
| gender inequality index | 1 |  |

|                                |   |                                 |
|--------------------------------|---|---------------------------------|
| gender order                   | 1 |                                 |
| gender regime                  | 1 |                                 |
| gender relations               | 1 |                                 |
| gender role socialization      | 1 | gender socializationとは別カウント     |
| gender roles                   | 7 | gender roleを含む                  |
| gender segregation             | 1 |                                 |
| gender socialization           | 4 | gender role socializationは別カウント |
| gender stratification          | 3 |                                 |
| gender typing                  | 1 |                                 |
| gender-based violence          | 1 |                                 |
| gendered institutions          | 1 |                                 |
| generalizability               | 1 |                                 |
| generalization                 | 1 |                                 |
| generalized other              | 9 |                                 |
| generation                     | 1 |                                 |
| generational equity            | 1 |                                 |
| genetic predisposition         | 1 |                                 |
| genetically modified organisms | 1 |                                 |
| genocide                       | 8 |                                 |
| genre                          | 1 |                                 |
| gentrification                 | 4 |                                 |
| geocentric transnationals      | 1 |                                 |
| gerontocracy                   | 1 |                                 |
| gerontology                    | 2 |                                 |
| Gesellschaft                   | 6 |                                 |
| gestures                       | 1 |                                 |
| ghetto                         | 1 |                                 |
| Gini coefficient               | 2 |                                 |
| glass ceiling                  | 6 |                                 |
| glass escalator                | 2 |                                 |
| global assembly line           | 1 |                                 |
| global capitalism              | 1 |                                 |
| global city                    | 2 |                                 |
| global commodity chains        | 2 |                                 |
| global culture                 | 2 |                                 |
| global economic inequality     | 1 |                                 |
| global economy                 | 2 |                                 |
| global governance              | 1 |                                 |
| global inequality              | 1 |                                 |
| global stratification          | 2 |                                 |
| global superclass              | 1 |                                 |
| global transnational movements | 1 |                                 |
| global village                 | 1 |                                 |
| global warming                 | 4 |                                 |
| globalization                  | 5 |                                 |
| globalization of capitalism    | 1 |                                 |
| glocalization                  | 1 |                                 |
| goal displacement              | 2 |                                 |
| gossip                         | 1 |                                 |
| government                     | 3 |                                 |

|                              |   |            |
|------------------------------|---|------------|
| grade inflation              | 1 |            |
| grand theories               | 1 |            |
| grassroots organization      | 1 |            |
| graying                      | 2 | greyingを含む |
| graying of America           | 1 |            |
| greenhouse effect            | 1 |            |
| Gross domestic product (GDP) | 1 |            |
| Gross national income (GNI)  | 2 |            |
| group                        | 5 | groupsを含む  |
| group closure                | 1 |            |
| group dynamics               | 1 |            |
| group production             | 1 |            |
| group size effect            | 1 |            |
| groupthink                   | 3 |            |
| growth rate                  | 1 |            |

## H

|                                      |   |                |
|--------------------------------------|---|----------------|
| habitus                              | 1 |                |
| hate crime                           | 5 | hate crimesを含む |
| Hawthorne effect                     | 4 |                |
| health                               | 4 |                |
| health literacy                      | 1 |                |
| health maintenance organization(HMO) | 1 |                |
| health technologies                  | 1 |                |
| health transition                    | 1 |                |
| hegemonic masculinity                | 2 |                |
| hegemony                             | 2 |                |
| hermaphrodites                       | 1 |                |
| heteronormativity                    | 1 |                |
| heterosexism                         | 3 |                |
| heterosexuality                      | 3 |                |
| hidden corporate culture             | 1 |                |
| hidden curriculum                    | 6 |                |
| hierarchy of authority               | 1 |                |
| high culture                         | 1 |                |
| higher education                     | 1 |                |
| high-income countries                | 1 |                |
| high-trust systems                   | 2 |                |
| historical methods                   | 1 |                |
| historicity                          | 1 |                |
| holistic medicine                    | 2 |                |
| homeless                             | 1 |                |
| homeless people                      | 1 |                |
| homogamy                             | 4 |                |
| homophobia                           | 7 |                |
| homosexual masculinity               | 1 |                |
| homosexuality                        | 4 | homosexualを含む  |
| Horatio Alger myth                   | 1 |                |
| horizontal mobility                  | 1 |                |
| horticultural society                | 2 |                |
| horticulture                         | 1 |                |
| household                            | 2 |                |

|                                 |   |  |
|---------------------------------|---|--|
| housework                       | 2 |  |
| human capital theory            | 2 |  |
| human ecology                   | 3 |  |
| human relations approach        | 1 |  |
| human trafficking               | 1 |  |
| hunting and gathering           | 1 |  |
| hunting and gathering societies | 2 |  |
| hunting-and-gathering society   | 1 |  |
| hybridity                       | 1 |  |
| hyperconsumerism                | 1 |  |
| hyper-local media               | 1 |  |
| hyperreality                    | 1 |  |
| hypersegregation                | 1 |  |
| hypothesis                      | 9 |  |
| hypothetico-deductive method    | 1 |  |

## I

|                                     |   |   |
|-------------------------------------|---|---|
| I                                   | 2 |   |
| iatrogenesis                        | 1 |   |
| id                                  | 3 |   |
| ideal culture                       | 2 |   |
| ideal type                          | 5 |   |
| ideas                               | 1 |   |
| identification                      | 1 |   |
| identity                            | 3 |   |
| ideology                            | 7 | ideologiesを含む                                     |
| illegitimate opportunity structure  | 1 |   |
| illness                             | 1 |   |
| imitation stage                     | 2 |   |
| immigration                         | 3 |   |
| implicit bias                       | 1 |   |
| impression management               | 6 |   |
| incest                              | 2 |   |
| incest taboo                        | 3 |   |
| inclusion                           | 1 |   |
| income                              | 7 |   |
| independent variable                | 8 |   |
| index crimes                        | 1 |   |
| indicator                           | 1 |   |
| individual discrimination           | 1 |   |
| individual model of disability      | 1 |   |
| individualized education plan (IEP) | 1 |   |
| induction                           | 1 |   |
| inductive approach                  | 1 |   |
| inductive logical thought           | 1 |   |
| inductive reasoning                 | 1 |   |
| Industrial Revolution               | 1 |   |
| industrial society                  | 3 | industrial societies, industrialized societiesを含む |
| industrialism                       | 1 |   |
| industrialization                   | 2 |   |
| infant mortality rate               | 5 |   |
| infidelity                          | 1 |   |

|   |   |   |
|---|---|---|
| influence   | 1 |   |
| informal agents of socialization                    | 1 |   |
| informal economy                                    | 3 |   |
| informal norm                                       | 1 |   |
| informal organization                               | 1 |   |
| informal relations                                  | 2 |   |
| informal social control                             | 1 |   |
| informal social sanctions                           | 1 |   |
| informalization                                     | 1 |   |
| informant   | 1 |   |
| information and communication technology            | 1 |   |
| information poverty                                 | 2 |   |
| information society                                 | 2 |   |
| information technology                              | 1 |   |
| informed consent                                    | 2 |   |
| in-group  | 7 | in-groupsを含む                                      |
| inner city  | 1 |   |
| innovation  | 1 |   |
| innovator   | 1 |   |
| instincts   | 1 |   |
| institutional capitalism                            | 2 |   |
| institutional discrimination                        | 3 | institutional prejudice and discriminationとは別カウント |
| institutional prejudice and discrimination          | 1 |   |
| institutional racial discrimination                 | 1 |   |
| institutional racism                                | 4 |   |
| institutionalization                                | 1 |   |
| institutionalized means                             | 1 |   |
| instrumental leader                                 | 1 |   |
| instrumental leadership                             | 1 |   |
| instrumental needs                                  | 1 |   |
| instrumentality                                     | 1 |   |
| intelligence  | 2 |   |
| intelligent design                                  | 1 |   |
| interaction   | 1 | →social interactionとは別カウント                        |
| interactional vandalism                             | 2 |   |
| interactionism                                      | 1 |   |
| interactionist perspective                          | 1 |   |
| interest group                                      | 6 | special-interest groupとは別カウント                     |
| intergenerational mobility                          | 6 | intergenerational social mobilityを含む              |
| interlocking directorate                            | 1 |   |
| internal colonialism                                | 2 |   |
| internalization                                     | 1 |   |
| international division of labor                     | 2 |   |
| international governmental organizations (IGOs)     | 2 |   |
| international nongovernmental organizations (INGOs) | 2 |   |
| international state system                          | 1 |   |
| internet  | 1 |   |
| internet-based learning                             | 1 |   |
| interpretative sociology                            | 1 |   |
| interpretive sociology                              | 1 |   |

|                            |   |                                      |
|----------------------------|---|--------------------------------------|
| intersection perspective   | 1 |                                      |
| intersection theory        | 1 |                                      |
| intersectionality          | 2 |                                      |
| intersex                   | 1 |                                      |
| intersexed person          | 1 |                                      |
| intersexual people         | 1 |                                      |
| interview                  | 3 |                                      |
| intragenerational mobility | 5 | intragenerational social mobilityを含む |
| invasion-succession cycle  | 1 |                                      |
| invention                  | 2 |                                      |
| IQ (intelligence quotient) | 2 |                                      |
| iron law of oligarchy      | 4 |                                      |
| isomorphism                | 1 |                                      |
| issues                     | 1 |                                      |

## J

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| Jim Crow       | 1 |  |
| job insecurity | 1 |  |

## K

|                   |   |  |
|-------------------|---|--|
| kinship           | 5 |  |
| kinship networks  | 1 |  |
| kinship system    | 1 |  |
| knowledge economy | 2 |  |
| knowledge society | 2 |  |
| Kuznets curve     | 2 |  |

## L

|                      |   |  |
|----------------------|---|--|
| liberal democracy    | 2 |  |
| liberal feminism     | 3 |  |
| liberation theology  | 3 |  |
| life chances         | 3 |  |
| life course          | 5 |  |
| life course approach | 1 |  |
| life cycle           | 1 |  |
| life expectancy      | 7 |  |
| life histories       | 1 |  |

|                                  |   |  |
|----------------------------------|---|--|
| life span                        | 3 |  |
| lifelong learning                | 1 |  |
| lifestyle                        | 1 |  |
| lifestyle choices                | 1 |  |
| lifetime negative experiences    | 1 |  |
| lifeworld                        | 1 |  |
| Lily Ledbetter Fair Pay Act      | 1 |  |
| linguistic-relativity hypothesis | 2 |  |
| literacy                         | 1 |  |
| living wage                      | 1 |  |
| lobbying                         | 1 |  |
| lobbyists                        | 1 |  |
| local nationalism                | 1 |  |
| logical positivism               | 1 |  |
| looking-glass self               | 5 |  |
| lower class                      | 1 |  |
| low-income countries             | 1 |  |
| low-trust system                 | 2 |  |
| Luddites                         | 1 |  |

## M

|                                      |   |                            |
|--------------------------------------|---|----------------------------|
| machismo                             | 2 |                            |
| macroanalysis                        | 1 |                            |
| macro-level analysis                 | 2 |                            |
| macro-level orientation              | 1 |                            |
| macro-level sociology                | 1 |                            |
| macrosociology                       | 5 |                            |
| mainstreaming                        | 1 |                            |
| majority/minority worlds             | 1 |                            |
| male breadwinner                     | 1 |                            |
| male inexpressiveness                | 1 |                            |
| malestream sociology                 | 1 | Giddens & Sutton chap.3要確認 |
| Malthus theorem                      | 1 |                            |
| Malthusianism                        | 2 |                            |
| managerial capitalism                | 2 |                            |
| mandatory education laws             | 1 |                            |
| manifest function                    | 6 |                            |
| manufactured risk                    | 2 |                            |
| market                               | 1 |                            |
| market force                         | 1 |                            |
| market or capitalist economic system | 1 |                            |
| market-oriented theories             | 2 |                            |
| marriage                             | 4 |                            |
| Marxism                              | 1 |                            |
| Marxist political-economy model      | 1 |                            |
| mass                                 | 1 |                            |
| mass behavior                        | 1 |                            |
| mass customization                   | 1 |                            |
| mass hysteria, moral panic           | 1 |                            |
| mass media                           | 6 |                            |
| mass production                      | 1 |                            |
| mass public                          | 1 |                            |

|                                   |   |                               |
|-----------------------------------|---|-------------------------------|
| mass society                      | 1 |                               |
| master status                     | 8 |                               |
| material culture                  | 8 |                               |
| materialist conception of history | 2 |                               |
| maternal deprivation              | 1 |                               |
| matriarchy                        | 4 |                               |
| matrilineal descent               | 2 | matrilinealを含む                |
| matrilineal kinship               | 1 |                               |
| matrilineal system                | 1 |                               |
| matrilocal                        | 4 | matrilocalを含む                 |
| matrix of domination              | 1 |                               |
| matrilineal decent                | 1 |                               |
| Matthew effect                    | 1 |                               |
| mature adulthood                  | 1 |                               |
| McDonaldization                   | 3 | McDonaldization of societyを含む |
| Me                                | 2 |                               |
| mean                              | 4 |                               |
| means of production               | 3 |                               |
| means-tested benefits             | 1 |                               |
| measurement                       | 1 |                               |
| measures of central tendency      | 2 |                               |
| mechanical solidarity             | 7 |                               |
| media                             | 1 |                               |
| media convergence                 | 1 |                               |
| media imperialism                 | 1 |                               |
| media regulation                  | 1 |                               |
| median                            | 4 |                               |
| median income                     | 1 |                               |
| Mediator                          | 1 |                               |
| Medicaid                          | 2 |                               |
| medical gaze                      | 1 |                               |
| medical model                     | 1 |                               |
| medicalization                    | 4 |                               |
| medicalization of deviance        | 3 |                               |
| Medicare                          | 3 |                               |
| medicine                          | 1 |                               |
| megachurch                        | 1 |                               |
| megacity                          | 3 |                               |
| megalopolis                       | 5 |                               |
| megaregion                        | 1 |                               |
| melting pot                       | 2 |                               |
| mental illness                    | 1 |                               |
| mercantilism                      | 1 |                               |
| meritocracy                       | 6 |                               |
| meso level                        | 1 |                               |
| meso-level analysis               | 1 |                               |
| metanarratives                    | 1 |                               |
| Metaphysical Stage                | 1 |                               |
| metropolis                        | 2 |                               |
| metropolitan area                 | 1 |                               |



|                                     |   |                                    |
|-------------------------------------|---|------------------------------------|
| metropolitan statistical area (MSA) | 1 |                                    |
| microanalysis                       | 1 |                                    |
| microculture                        | 1 |                                    |
| microfinancing                      | 1 |                                    |
| micro-level analysis                | 2 |                                    |
| micro-level orientation             | 1 |                                    |
| micro-level sociology               | 1 |                                    |
| microsociology                      | 5 |                                    |
| middle class                        | 3 |                                    |
| middle-income countries             | 1 |                                    |
| middle-level sociology              | 1 |                                    |
| midlife crisis                      | 1 |                                    |
| midrange theory                     | 1 |                                    |
| migration                           | 2 |                                    |
| Milgram experiment                  | 1 |                                    |
| military-industrial complex         | 1 |                                    |
| minority                            | 1 |                                    |
| minority ethnic group               | 1 |                                    |
| minority group                      | 6 | minority groupsを含む                 |
| miscegenation                       | 2 |                                    |
| mixed methods                       | 1 |                                    |
| mob                                 | 1 |                                    |
| mobilities                          | 1 |                                    |
| mode                                | 4 |                                    |
| mode of production                  | 1 |                                    |
| model, or ideal minority            | 1 |                                    |
| modern slavery                      | 1 |                                    |
| modernity                           | 3 |                                    |
| modernization                       | 5 |                                    |
| modernization theory                | 5 |                                    |
| monarchy                            | 5 | monarchiesを含む                      |
| monogamy                            | 7 |                                    |
| monopoly                            | 5 |                                    |
| monotheism                          | 4 |                                    |
| monotheistic                        | 1 |                                    |
| moral consensus                     | 1 |                                    |
| moral panic                         | 1 |                                    |
| morbidity                           | 1 |                                    |
| morbidity rates                     | 1 |                                    |
| mores                               | 5 |                                    |
| mortality                           | 4 |                                    |
| mortality rate                      | 2 |                                    |
| multiculturalism                    | 4 | multiculturalism (or pluralism)を含む |
| multidimensional poverty index      | 1 |                                    |
| multilateral                        | 1 |                                    |
| multimedia                          | 1 |                                    |
| multinational corporation           | 5 | multinational corporationsを含む      |
| multiple masculinities              | 1 |                                    |
| multiple sovereignty                | 1 |                                    |
| multiracial feminism                | 1 |                                    |

|       |   |  |
|-------|---|--|
| myths | 1 |  |
|-------|---|--|

## N

|  |   |                             |
|--|---|-----------------------------|
| narcotizing dysfunction                        | 1 |                             |
| narrative                                      | 1 |                             |
| nation   | 2 |                             |
| national culture                               | 1 |                             |
| national society                               | 1 |                             |
| nationalism                                    | 5 |                             |
| nations without states                         | 2 |                             |
| nation-state                                   | 3 |                             |
| nativism                                       | 1 |                             |
| natural environment                            | 1 |                             |
| natural science                                | 1 |                             |
| natural selection                              | 1 |                             |
| naturally occurring retirement community(NORC) | 1 |                             |
| nature   | 1 |                             |
| negative sanction                              | 1 |                             |
| neocolonialism                                 | 4 |                             |
| neoliberalism                                  | 2 | neo-liberalismを含む           |
| neolocality                                    | 2 | neo-local residenceを含む      |
| net migration rate                             | 1 |                             |
| net worth                                      | 1 |                             |
| netiquette                                     | 1 |                             |
| New Age movement                               | 2 |                             |
| new criminology                                | 1 |                             |
| New Labour                                     | 1 |                             |
| new media                                      | 1 |                             |
| new migration                                  | 1 |                             |
| new racism                                     | 1 |                             |
| new religious movements (NRMs)                 | 4 |                             |
| new social movements (NSMs)                    | 3 | new social movementを含む      |
| new sociology of childhood                     | 1 |                             |
| new technology                                 | 1 |                             |
| newly industrializing countries                | 1 |                             |
| nonmaterial culture                            | 6 |                             |
| nonterritorial community                       | 1 |                             |
| nonverbal communication                        | 5 | non-verbal communicationを含む |
| nonverbal interaction                          | 1 |                             |
| normal science                                 | 1 |                             |
| normative order                                | 1 |                             |
| normative organization                         | 1 |                             |
| normative view of science                      | 1 |                             |
| norms  | 9 | normを含む                     |
| nuclear family                                 | 9 |                             |
| nuclear proliferation                          | 1 |                             |

## O

|                  |   |  |
|------------------|---|--|
| obedience        | 1 |  |
| obesity          | 1 |  |
| objective class  | 1 |  |
| objective method | 1 |  |
| objectivity      | 1 |  |
| observation      | 1 |  |

|                                 |   |               |
|---------------------------------|---|---------------|
| occupation                      | 2 |               |
| occupational gender segregation | 1 |               |
| occupational prestige           | 2 |               |
| occupational segregation        | 1 |               |
| OECD                            | 1 |               |
| offshoring                      | 2 |               |
| old old                         | 1 |               |
| oldest old                      | 1 |               |
| oligarchy                       | 5 |               |
| oligopoly                       | 4 |               |
| one-drop rule                   | 1 |               |
| ontological equality            | 1 |               |
| open question                   | 1 |               |
| open society                    | 1 |               |
| open stratification system      | 1 |               |
| open system                     | 1 |               |
| operational definition          | 2 |               |
| operationalization              | 1 |               |
| operationalize a variable       | 1 |               |
| opinion leader                  | 1 |               |
| oral history                    | 1 |               |
| organic metaphor                | 1 |               |
| organic solidarity              | 8 |               |
| organization                    | 3 |               |
| organizational culture          | 2 |               |
| organizational environment      | 1 |               |
| organizational ritualism        | 1 |               |
| organizational structure        | 1 |               |
| organized crime                 | 5 |               |
| other                           | 1 |               |
| other-directedness              | 1 |               |
| out-group                       | 7 | out-groupsを含む |
| outsourcing                     | 3 |               |
| overt participant observation   | 1 |               |

## P

|                                |   |   |
|--------------------------------|---|---|
| pandemic                       | 1 |   |
| panic                          | 1 |   |
| Panopticon                     | 1 |   |
| paradigm                       | 2 |   |
| paradigm shift                 | 1 |   |
| paradox of authority           | 1 |   |
| parenting stress hypothesis    | 1 |   |
| pariah groups                  | 1 |   |
| participant observation        | 7 | participant observation (field work)を含む |
| participatory culture          | 1 |   |
| participatory democracy        | 2 |   |
| party                          | 2 |   |
| past-in-present discrimination | 1 |   |
| pastoral society               | 3 | pastral societiesを含む                    |
| pastoralism                    | 1 |   |
| pathologies                    | 1 |   |

|   |   |                                       |
|---|---|---------------------------------------|
| patriarchy                                | 8 |                                       |
| patrilineal                               | 1 |                                       |
| patrilineal descent                       | 2 |                                       |
| patrilineal kinship                       | 1 |                                       |
| patrilineal system                        | 1 |                                       |
| patrilocal                                | 4 | patrilocalityを含む                      |
| patterns of behavior                      | 1 |                                       |
| Pauperization                             | 1 |                                       |
| peace                                     | 1 |                                       |
| peace processes                           | 1 |                                       |
| peer group                                | 5 |                                       |
| peers                                     | 1 |                                       |
| percent analysis                          | 1 |                                       |
| percentage                                | 2 |                                       |
| peripheral area                           | 1 |                                       |
| peripheral countries                      | 2 | peripheral countries (nations)を含む     |
| periphery                                 | 1 |                                       |
| personal crime                            | 1 |                                       |
| personal space                            | 3 |                                       |
| personality                               | 3 |                                       |
| personality disorders                     | 1 |                                       |
| personality stabilization                 | 2 |                                       |
| perverse incentives                       | 1 |                                       |
| Peter principle                           | 1 |                                       |
| phenomenology                             | 1 |                                       |
| philosophy of science                     | 1 |                                       |
| pilot study                               | 2 |                                       |
| planned (or centralized) economic systems | 1 |                                       |
| plastic sexuality                         | 1 |                                       |
| play stage                                | 2 |                                       |
| plea bargaining                           | 2 |                                       |
| pluralism                                 | 7 |                                       |
| pluralist model                           | 3 |                                       |
| pluralist power theorists                 | 1 |                                       |
| pluralist theories of modern democracy    | 1 |                                       |
| pluralistic society                       | 2 |                                       |
| plurist model                             | 1 |                                       |
| polarization shift                        | 1 |                                       |
| police discretion                         | 1 |                                       |
| political action committee (PAC)          | 3 | political action committees (PACs)を含む |
| political economy                         | 1 |                                       |
| political institution                     | 1 |                                       |
| political participation                   | 1 |                                       |
| political party                           | 3 |                                       |
| political process model                   | 1 |                                       |
| political revolution                      | 2 |                                       |
| political rights                          | 2 |                                       |
| political system                          | 1 |                                       |
| politics                                  | 5 |                                       |
| polyandry                                 | 6 |                                       |

|                             |   |                          |
|-----------------------------|---|--------------------------|
| polycentric transnationals  | 1 |                          |
| polygamy                    | 7 |                          |
| polygyny                    | 6 |                          |
| polytheism                  | 4 |                          |
| polytheistic                | 1 |                          |
| popular culture             | 2 |                          |
| population                  | 6 |                          |
| population density          | 1 |                          |
| population pyramids         | 3 | population pyramidを含む    |
| population shrinkage        | 1 |                          |
| population transfer         | 2 |                          |
| populations                 | 1 |                          |
| pornography                 | 1 |                          |
| portfolio worker            | 2 |                          |
| positive sanction           | 1 |                          |
| positivism                  | 4 |                          |
| positivist sociology        | 1 |                          |
| postcolonial theory         | 1 |                          |
| post-development            | 1 |                          |
| post-Fordism                | 2 |                          |
| postindustrial economy      | 1 |                          |
| postindustrial society      | 4 |                          |
| postindustrialism           | 1 |                          |
| postmodern feminism         | 2 |                          |
| postmodern society          | 3 |                          |
| postmodernism               | 2 |                          |
| postmodernity               | 2 |                          |
| poststructuralism           | 1 |                          |
| post-violence societies     | 1 |                          |
| poverty line                | 4 |                          |
| power                       | 9 |                          |
| power elite                 | 4 |                          |
| power-elite model           | 3 |                          |
| precariat                   | 1 |                          |
| precarious work             | 1 |                          |
| precautionary principle     | 1 |                          |
| preindustrial society       | 1 |                          |
| prejudice                   | 9 |                          |
| premodernity                | 1 |                          |
| preoperational stage        | 3 | pre-operational stageを含む |
| presentation of self        | 1 |                          |
| prestige                    | 3 |                          |
| primary deviance            | 5 | primary deviationを含む     |
| primary group               | 8 | primary groupsを含む        |
| primary identity            | 1 |                          |
| primary labor market        | 1 |                          |
| primary sector              | 1 |                          |
| primary sex characteristics | 1 |                          |
| primary socialization       | 2 |                          |
| primary source              | 1 |                          |

|                             |   |                 |
|-----------------------------|---|-----------------|
| primordialism               | 1 |                 |
| privacy                     | 1 |                 |
| procreative technology      | 1 |                 |
| profane                     | 8 |                 |
| profession                  | 2 |                 |
| professional criminal       | 1 |                 |
| projection                  | 1 |                 |
| proletariat                 | 6 | proletariansを含む |
| propaganda                  | 2 |                 |
| property                    | 1 |                 |
| prophets                    | 1 |                 |
| prostitution                | 2 |                 |
| Protestant ethic            | 3 |                 |
| psychoanalytic theory       | 1 |                 |
| psychopathic                | 1 |                 |
| psychosocial risk behaviors | 1 |                 |
| public opinion              | 2 |                 |
| public order crimes         | 1 |                 |
| public sociologists         | 1 |                 |
| public sociology            | 1 |                 |
| public sphere               | 1 |                 |
| pure relationship           | 1 |                 |
| push and pull factors       | 1 |                 |

## Q

|                               |   |  |
|-------------------------------|---|--|
| qualitative methods           | 1 |  |
| qualitative research          | 2 |  |
| qualitative research methods  | 1 |  |
| quality circle (QC)           | 1 |  |
| quantitative methods          | 1 |  |
| quantitative research         | 2 |  |
| quantitative research methods | 1 |  |
| queer theory                  | 4 |  |
| questionnaire                 | 2 |  |

## R

|                                       |   |                    |
|---------------------------------------|---|--------------------|
| race                                  | 8 |                    |
| race socialization                    | 1 |                    |
| race-conflict theory                  | 1 |                    |
| racial formation                      | 2 |                    |
| racial formation theory               | 1 |                    |
| racial group                          | 1 |                    |
| racial literacy                       | 1 |                    |
| racial profiling                      | 2 |                    |
| racialization                         | 4 |                    |
| racism                                | 8 |                    |
| radical feminism                      | 3 |                    |
| rain forests                          | 1 |                    |
| random sample                         | 5 | random samplingを含む |
| rape                                  | 1 |                    |
| rapport                               | 1 |                    |
| rate                                  | 1 |                    |
| rate of reproductive change           | 1 |                    |
| rates of population growth or decline | 1 |                    |

|                                    |   |  |
|------------------------------------|---|--|
| rational choice (exchange) theory  | 1 |  |
| rational choice approach           | 1 |  |
| rationality                        | 1 |  |
| rationalization                    | 3 |  |
| rationalization of social life     | 1 |  |
| rationalization of society         | 2 |  |
| rational-legal authority           | 6 | legal-rational authority, legal authorityを含む |
| real culture                       | 2 |  |
| rebel                              | 1 |  |
| recidivism                         | 4 | criminal recidivismを含む                       |
| recidivism rate                    | 2 |  |
| reconstituted family               | 1 |  |
| redemptive social movements        | 1 |  |
| redlining                          | 1 |  |
| reference group                    | 9 | reference groupsを含む                          |
| reflection hypothesis              | 1 |  |
| reflection theory                  | 1 |  |
| reflexive spirituality             | 1 |  |
| reflexivity                        | 2 |  |
| reformative social movements       | 1 |  |
| regionalization                    | 2 |  |
| rehabilitation                     | 1 |  |
| reincarnation                      | 1 |  |
| relative deprivation               | 5 |  |
| relative poverty                   | 7 |  |
| reliability                        | 5 |  |
| religion                           | 8 |  |
| religiosity                        | 3 |  |
| religious belief                   | 1 |  |
| religious economy                  | 2 |  |
| religious experience               | 3 |  |
| religious movements                | 1 |  |
| religious nationalism              | 1 |  |
| religious ritual                   | 1 |  |
| remittance                         | 1 |  |
| replication                        | 1 |  |
| replication study                  | 1 |  |
| representative democracy           | 3 |  |
| representative sample              | 1 |  |
| reproduction of class              | 1 |  |
| reproductive technology            | 1 |  |
| research design                    | 3 | research method (or research design)を含む      |
| research methods                   | 5 |  |
| resegregation                      | 1 |  |
| reserve labor force                | 1 |  |
| residential segregation            | 1 |  |
| resistance or regressive movements | 1 |  |
| resistant femininity               | 1 |  |
| resocialization                    | 7 |  |
| resource allocation                | 1 |  |

|                                       |   |                                   |
|---------------------------------------|---|-----------------------------------|
| resource dilution model               | 1 |                                   |
| resource mobilization                 | 1 |                                   |
| resource mobilization theory (RMT)    | 2 |                                   |
| respondents                           | 1 |                                   |
| response cries                        | 2 |                                   |
| restorative justice                   | 1 |                                   |
| restricted code                       | 1 |                                   |
| retreatist                            | 1 |                                   |
| retribution                           | 1 |                                   |
| reverse causality                     | 1 |                                   |
| revolution                            | 4 | revolutionsを含む                    |
| revolutionary movements               | 2 | revolutionary social movementsを含む |
| right realism                         | 1 |                                   |
| riot                                  | 1 |                                   |
| rising expectations                   | 1 |                                   |
| risk society                          | 2 |                                   |
| risky shift (also polarization shift) | 1 |                                   |
| rite of passage                       | 3 |                                   |
| ritual                                | 6 | ritualsを含む                        |
| ritualist                             | 1 |                                   |
| role                                  | 7 | rolesを含む                          |
| role conflict                         | 7 |                                   |
| role exit                             | 1 |                                   |
| role expectations                     | 1 |                                   |
| role modeling                         | 1 |                                   |
| role performance                      | 1 |                                   |
| role set                              | 2 |                                   |
| role strain                           | 7 |                                   |
| role taking                           | 3 | role-takingを含む                    |
| romantic love                         | 2 |                                   |
| routinization                         | 1 |                                   |
| routinization of charisma             | 2 |                                   |
| ruling class                          | 1 |                                   |
| rumor                                 | 1 |                                   |

## S

|                                |   |                               |
|--------------------------------|---|-------------------------------|
| sacred                         | 8 |                               |
| sacred canopy                  | 1 |                               |
| Salafism                       | 1 |                               |
| saliency principle             | 1 |                               |
| sample                         | 8 |                               |
| sample survey                  | 1 |                               |
| sampling                       | 2 |                               |
| sanction                       | 5 | sanctionsを含む                  |
| sandwich generation            | 1 |                               |
| Sapir-Whorf hypothesis         | 4 | Sapir-Whorf thesisを含む         |
| scapegoat                      | 5 | scape goating, scape goatsを含む |
| school climate                 | 1 |                               |
| schooling                      | 3 |                               |
| science                        | 5 |                               |
| scientific management          | 1 |                               |
| scientific management approach | 1 |                               |



|                               |   |                             |
|-------------------------------|---|-----------------------------|
| scientific method             | 3 |                             |
| scientific racism             | 2 |                             |
| scientific revolution         | 1 |                             |
| Scientific Stage              | 1 |                             |
| second demographic transition | 1 |                             |
| second shift                  | 2 |                             |
| secondary analysis            | 2 |                             |
| secondary deviance            | 5 | secondary deviationを含む      |
| secondary group               | 8 | socondary groupsを含む         |
| secondary identity            | 1 |                             |
| secondary labor market        | 1 |                             |
| secondary sector              | 1 |                             |
| secondary source              | 1 |                             |
| seondery sex characteristics  | 1 |                             |
| sect                          | 8 | sectsを含む                    |
| sectarian groups              | 1 |                             |
| secular                       | 1 |                             |
| secular thinking              | 1 |                             |
| secularism                    | 1 |                             |
| secularization                | 6 |                             |
| segmental solidarity          | 1 |                             |
| segregation                   | 7 |                             |
| selective perception          | 1 |                             |
| self                          | 6 |                             |
| self-concept                  | 1 |                             |
| self-consciousness            | 2 |                             |
| self-fulfilling prophecy      | 3 | Thomas theoremとは別カウント       |
| self-fulfilling stereotype    | 1 |                             |
| self-identity                 | 2 |                             |
| semiotics                     | 1 |                             |
| semiperipheral area           | 1 |                             |
| semiperipheral countries      | 2 |                             |
| semiperiphery                 | 1 |                             |
| sensorimotor stage            | 3 |                             |
| serendipity                   | 1 |                             |
| serial monogamy               | 1 |                             |
| serial murder                 | 1 |                             |
| service class                 | 1 |                             |
| service sector                | 1 |                             |
| service society               | 1 |                             |
| sex                           | 8 |                             |
| sex ratio                     | 2 | sex ratio (gender ratio)を含む |
| sex role theory               | 1 |                             |
| sex segregation               | 1 |                             |
| sex tourism                   | 2 |                             |
| sex trafficking               | 1 |                             |
| sex work                      | 1 |                             |
| sexism                        | 4 |                             |
| sexual dimorphism             | 1 |                             |
| sexual harassment             | 6 |                             |

|                                    |   |                       |
|------------------------------------|---|-----------------------|
| sexual identity                    | 1 |                       |
| sexual orientation                 | 4 |                       |
| sexual politics                    | 1 |                       |
| sexual revolution                  | 1 |                       |
| sexual scripts                     | 2 |                       |
| sexual selection                   | 1 |                       |
| sexuality                          | 4 |                       |
| shadow education                   | 1 |                       |
| shaman                             | 1 |                       |
| shaming                            | 1 |                       |
| shared understandings              | 1 |                       |
| sick role                          | 6 |                       |
| side-effect discrimination         | 1 |                       |
| significant other                  | 6 | significant othersを含む |
| signifier                          | 1 |                       |
| sign-vehicle                       | 1 |                       |
| simple supernaturalism             | 1 |                       |
| simulacra                          | 1 |                       |
| single-parent family               | 1 |                       |
| situational crime prevention       | 1 |                       |
| slavery                            | 6 |                       |
| small group                        | 2 |                       |
| snowball sampling                  | 1 |                       |
| social action                      | 1 |                       |
| social age                         | 1 |                       |
| social aggregate                   | 1 |                       |
| social aging                       | 1 |                       |
| social capital                     | 4 |                       |
| social category                    | 2 |                       |
| social change                      | 8 |                       |
| social character                   | 1 |                       |
| social class                       | 4 |                       |
| social cohesion                    | 1 |                       |
| social conditions                  | 1 |                       |
| social conflict                    | 1 |                       |
| social constraint                  | 2 |                       |
| social construction                | 2 |                       |
| social construction of gender      | 1 |                       |
| social construction of reality     | 3 |                       |
| social construction perspective    | 1 |                       |
| social constructionism             | 1 |                       |
| social constructionist perspective | 1 |                       |
| social control                     | 6 |                       |
| social control agents              | 1 |                       |
| social control theory              | 2 |                       |
| social Darwinism                   | 2 |                       |
| social disorganization theory      | 1 |                       |
| social embeddedness                | 1 |                       |
| social environment                 | 1 |                       |
| social epidemiology                | 2 |                       |

|                              |   |                                       |
|------------------------------|---|---------------------------------------|
| social evolution             | 1 |                                       |
| social exclusion             | 1 |                                       |
| social fact                  | 3 |                                       |
| social functions             | 1 |                                       |
| social gerontology           | 2 |                                       |
| social group                 | 4 |                                       |
| social identity              | 1 |                                       |
| social inequality            | 4 | inequalityを含む                         |
| social institution           | 7 | social institutions, institutionを含む   |
| social integration           | 2 |                                       |
| social interaction           | 7 |                                       |
| social learning theory       | 1 |                                       |
| social location              | 1 |                                       |
| social loneliness            | 1 |                                       |
| social media                 | 2 |                                       |
| social mobility              | 9 |                                       |
| social model of disability   | 1 |                                       |
| social movement              | 8 | social movementsを含む                   |
| social movement organization | 1 |                                       |
| social network               | 8 | social networks, network, networksを含む |
| social order                 | 1 |                                       |
| social organization          | 1 |                                       |
| social placement             | 1 |                                       |
| social position              | 2 |                                       |
| social processes             | 1 |                                       |
| social promotion             | 1 |                                       |
| social reflexivity           | 1 |                                       |
| social reform movements      | 1 |                                       |
| social regulation            | 1 |                                       |
| social reproduction          | 2 |                                       |
| social revolution            | 1 |                                       |
| social rights                | 2 |                                       |
| social role                  | 3 | social rolesを含む                       |
| social sanction              | 1 |                                       |
| social science               | 1 |                                       |
| Social Security              | 1 |                                       |
| social self                  | 2 |                                       |
| social stratification        | 8 | stratificationを含む                     |
| social structure             | 8 |                                       |
| social theories              | 1 |                                       |
| social units                 | 1 |                                       |
| social unrest                | 1 |                                       |
| social world model           | 1 |                                       |
| social-conflict approach     | 1 |                                       |
| socialism                    | 6 |                                       |
| socialist feminism           | 1 |                                       |
| socialization                | 9 |                                       |
| socialization of nature      | 2 |                                       |
| socialized medicine          | 2 |                                       |
| societal protection          | 1 |                                       |

|                                   |   |                           |
|-----------------------------------|---|---------------------------|
| societal-reaction approach        | 1 |                           |
| society                           | 8 |                           |
| sociobiology                      | 5 |                           |
| sociocultural evolution           | 2 | cultural evolutionとは別カウント |
| socioeconomic status(SES)         | 5 |                           |
| socioemotional selectivity theory | 1 |                           |
| sociological imagination          | 7 |                           |
| sociological perspective          | 2 |                           |
| sociological theories             | 1 |                           |
| sociology                         | 8 |                           |
| sociology of deviance             | 1 |                           |
| sociology of knowledge            | 1 |                           |
| sociology of sexuality            | 1 |                           |
| sociology of the body             | 2 |                           |
| soft power                        | 1 |                           |
| soil degradation                  | 1 |                           |
| solidarity                        | 1 |                           |
| source                            | 1 |                           |
| sovereignty                       | 2 |                           |
| sovereignty movement              | 1 |                           |
| spatial mobility                  | 1 |                           |
| special-interest group            | 2 | interest groupとは別カウント     |
| specialization                    | 1 |                           |
| split labor market                | 1 |                           |
| spirit of capitalism              | 1 |                           |
| spurious correlation              | 2 |                           |
| standard deviation                | 2 |                           |
| standardized testing              | 1 |                           |
| state                             | 6 |                           |
| state capitalism                  | 1 |                           |
| state church                      | 1 |                           |
| state overload                    | 1 |                           |
| state-centred theory              | 1 |                           |
| status                            | 9 |                           |
| status attainment                 | 1 |                           |
| status consistency                | 2 |                           |
| status group                      | 2 |                           |
| status hierarchy system           | 1 |                           |
| status inconsistency              | 2 |                           |
| status set                        | 5 |                           |
| status symbols                    | 2 |                           |
| status-attainment model           | 1 |                           |
| stepfamily                        | 1 |                           |
| stereotype                        | 6 | stereotypesを含む            |
| stereotype interchangeability     | 1 |                           |
| stereotype promise                | 1 |                           |
| stereotype threat                 | 3 |                           |
| stereotyping                      | 1 |                           |
| stigma                            | 7 |                           |
| stigmatize                        | 1 |                           |

|                            |   |   |
|----------------------------|---|---|
| Stockholm syndrome         | 1 |   |
| straight-line assimilation | 1 |   |
| strain theory              | 3 |   |
| stratified random sample   | 1 |   |
| street crime               | 2 |   |
| strength of weak ties      | 1 |   |
| strike                     | 2 |   |
| structural functionalism   | 4 | functionalismとは別カウント.structural-functional approach/theoryを含む |
| structural hole            | 1 |   |
| structural mobility        | 5 | structural social mobilityを含む                                 |
| structural strain          | 1 |   |
| structural strain theory   | 1 |   |
| structuration              | 1 |   |
| structured inequalities    | 1 |   |
| Subaltern                  | 2 |   |
| subculture                 | 9 | subculturesを含む  |
| subjective class           | 1 |   |
| subjugation                | 1 |   |
| subsistence economy        | 1 |   |
| suburb                     | 2 | suburbsを含む  |
| suburbanization            | 3 |   |
| super-diversity            | 1 |   |
| superego                   | 3 |   |
| supernatural compensators  | 1 |   |
| surplus value              | 2 |   |
| surveillance               | 2 |   |
| surveillance society       | 1 |   |
| survey                     | 6 |   |
| sustainable city           | 1 |   |
| sustainable development    | 2 |   |
| sustainable environment    | 1 |   |
| sweatshop                  | 1 |   |
| symbol                     | 7 |   |
| symbolic capital           | 1 |   |
| symbolic culture           | 1 |   |
| symbolic ethnicity         | 2 |   |
| symbolic interactionism    | 7 | symbolic interaction theory/symbolic-interaction approachを含む  |
| system of descent          | 1 |   |

## T

|  |   |  |
|--|---|--|
| taboo  | 2 |  |
| taking the role of the other                   | 2 |  |
| Taliban  | 1 |  |
| talk   | 1 |  |
| target hardening                               | 1 |  |
| Taylorism                                      | 3 |  |
| teacher expectancy effect                      | 2 |  |
| teamwork                                       | 1 |  |
| techniques of neutralization                   | 1 |  |
| technology                                     | 7 |  |
| telecommunications                             | 1 |  |
| Temporary Assistance for Needy Families (TANF) | 1 |  |

|                                   |   |   |
|-----------------------------------|---|---|
| territorial community             | 1 |   |
| terrorism                         | 6 |   |
| tertiary sector                   | 1 |   |
| Tertius gaudens                   | 1 |   |
| Thatcherism                       | 1 |   |
| theism                            | 4 |   |
| theocracy                         | 1 |   |
| Theological Stage                 | 1 |   |
| theoretical approach              | 1 |   |
| theoretical perspective           | 1 |   |
| theoretical questions             | 1 |   |
| theory                            | 6 | theoriesを含む                                     |
| theory of broken windows          | 1 |   |
| theory of racial formation        | 1 |   |
| Third age                         | 1 |   |
| Third way                         | 1 |   |
| Thomas theorem                    | 2 | self-fulfilling prophecyとは別カウント                 |
| three worlds model                | 1 |   |
| tie                               | 1 |   |
| time-space                        | 1 |   |
| timetables                        | 1 |   |
| Title IX                          | 1 |   |
| Total fertility rate (TFR)        | 1 |   |
| total institution                 | 8 | total institutionsを含む                           |
| totalitarian government           | 1 |   |
| totalitarian state                | 1 |   |
| totalitarianism                   | 3 |   |
| totalitarian regime               | 1 |   |
| totem                             | 2 |   |
| totemism                          | 1 |   |
| tracking                          | 6 |   |
| tradition                         | 1 |   |
| traditional authority             | 6 |   |
| tradition-directedness            | 1 |   |
| trained incapacity                | 1 |   |
| transgender                       | 4 |   |
| transitional adulthood            | 1 |   |
| transitional older years          | 1 |   |
| transnational                     | 1 |   |
| transnational corporations (TNCs) | 2 | transnational (or multinational) corporationを含む |
| transnational crime               | 1 |   |
| transnational family              | 1 |   |
| transracial adoption              | 1 |   |
| transsexuals                      | 2 |   |
| triad                             | 6 |   |
| triangulation                     | 1 |   |
| troubles                          | 1 |   |
| typification                      | 1 |   |

## U

|                  |   |                     |
|------------------|---|---------------------|
| underclass       | 6 | urban underclassを含む |
| underdevelopment | 1 |                     |

|                          |   |                           |
|--------------------------|---|---------------------------|
| underemployment          | 1 |                           |
| underground economy      | 1 |                           |
| unemployment             | 1 |                           |
| unemployment rate        | 1 |                           |
| unfocused interaction    | 2 |                           |
| unintended consequences  | 1 |                           |
| union busting            | 1 |                           |
| union density            | 1 |                           |
| universal benefits       | 1 |                           |
| universal citizenship    | 1 |                           |
| unobstrusive measures    | 1 |                           |
| upper class              | 3 |                           |
| upward mobility          | 2 | upward social mobilityを含む |
| urban ecology            | 3 |                           |
| urban recycling          | 1 |                           |
| urban renewal            | 3 |                           |
| urbanism                 | 2 |                           |
| urbanization             | 7 |                           |
| utilitarian organization | 1 |                           |

## V

|                                      |   |                           |
|--------------------------------------|---|---------------------------|
| validity                             | 5 |                           |
| value cluster                        | 1 |                           |
| value contradictions                 | 1 |                           |
| value neutrality                     | 1 |                           |
| value-added model of social movement | 1 |                           |
| values                               | 8 | valueを含む                  |
| variable                             | 7 | variablesを含む              |
| Verstehen                            | 3 |                           |
| vertical mobility                    | 2 |                           |
| vested interests                     | 1 |                           |
| vicarious religion                   | 1 |                           |
| victimization studies                | 1 |                           |
| victimization survey                 | 1 |                           |
| victimless crime                     | 3 | victimless crimesを含む      |
| virtual community                    | 1 |                           |
| visual sociology                     | 1 |                           |
| voluntary association                | 2 | voluntary associationsを含む |
| voter apathy                         | 1 |                           |

## W

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| war                      | 4 |   |
| WASP                     | 1 |   |
| wealth                   | 7 |   |
| welfare capitalism       | 4 |   |
| welfare dependency       | 1 |   |
| welfare state            | 4 |   |
| white ethnics            | 1 |   |
| White privilege          | 2 |   |
| white-collar crime       | 7 | white-collar (or occupational) crimeを含む |
| white-collar occupations | 1 |   |
| work                     | 3 |   |
| working class            | 2 |   |
| working poor             | 1 |   |

|                               |   |   |
|-------------------------------|---|---|
| world cities                  | 1 |   |
| world-accommodating movements | 2 |   |
| world-affirming movements     | 2 |   |
| world-rejecting movements     | 2 |   |
| world-systems theory          | 5 | world system theory/world-system theory/world systems analysisを含む |

X

|            |   |  |
|------------|---|--|
| xenophobia | 1 |  |
|------------|---|--|

Y

|                 |   |  |
|-----------------|---|--|
| young adulthood | 1 |  |
| young old       | 1 |  |
| youth culture   | 1 |  |

Z

|                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
| zemiology               | 1 |  |
| zero population growth  | 3 |  |
| zero tolerance policing | 1 |  |



## 編集後記

英語圏の社会学教科書を分析するという今回のプロジェクトに関わるなかで、私自身が「社会学のスタンダード」を意識したのはいつだったのだろうかと思いめぐらせてみた。私がそれを初めて意識したのは、大学院進学を考え始めたころであった。何をどう準備してよいかわからない私に、すでに大学院生となっておられた先輩方が、インフォーマルなかたちで、いくつかの「教科書的」文献（日本語のもの）を紹介してくださった。それらの文献は、「社会学を志すなら当然知っておくべき」内容を含むもので、当時大学院進学を志す者たちのあいだでは、代々受け継がれてきたものだったようだ。そしてその内容は、本報告書で見出された「スタンダード」とかなりの部分が重なっていたように思う。

そのことから類推されるように、日本においても社会学を志す者ならば当然学んでおくべき「スタンダード」のようなものが、ある程度共有されてきたのではないかと思う。ただ、そうした「スタンダード」が社会学の入門レベルの教科書として、あるいは大学のカリキュラムとして明示的に示されてきたかといえば、そこには疑問符がつく。

さて、本報告書で明らかにされたのは、英語圏の（主に米国でもちいられている）社会学の入門レベルの教科書において、いくらかのバリエーションを含みつつ、章立て・キータームといった、実質的な内容において、ある程度のスタンダードが見出されるという事実であった。それに加えて各教科書とも、学生の関心を惹くようなコラム、視覚的な工夫、ウェブサイトから取得できる補助的な教材などをふんだんに備えており、社会学の魅力を初学者に伝えるために、相当なエネルギーが投じられていることが感じられた。今後の日本の大学における社会学教育のあり方を考えていくうえで、このような状況をどのように受け止めるかが、今まさに問われているといえるだろう。

最後に、本報告書は、今期社会学教育委員会の松本委員長のイニシアチブと、松本委員長自らによる緻密な作業なしには完成しえなかったことを申し添えておきたい。本報告書が、社会学教育の今後を検討していくうえでの一助となりうることを願っている。

西村純子（社会学教育委員会委員）

2016～2018年 社会学教育委員会

委員長 松本 康（立教大学社会学部 教授）

副委員長 石井クンツ昌子（お茶の水女子大学基幹研究院 教授）

委員 今井 順（上智大学総合人間科学部 教授）

白鳥 義彦（神戸大学大学院人文学研究科 教授）

高瀬 武典（関西大学社会学部 教授）

西村 純子（お茶の水女子大学基幹研究院 准教授）

眞鍋 知子（金沢大学人間社会研究域 教授）

宮坂 靖子（金城学院大学生生活環境学部 教授）

社会学教育のグローバル・スタンダードとは？—英語圏の教科書の分析—  
社会学教育委員会（2016～2018年）報告書

---

2019年3月31日 発行

編集・発行 日本社会学会 社会学教育委員会（2016～2018年）

印刷 プライム・オリジンズ

---

© 2019 The Japan Sociological Society